NEC

STEP 2

活用マニュアル

ISDNターミナルアダプタ
Aterm® IT40/D（PC-IT40D1A）

1. Atermの表示とボタン操作
2. 便利な電話機能
3. 便利な通信機能
4. さまざまな情報を見る
5. Atermを設定する

マニュアルの主な内容

Atermには、次のマニュアルが用意されています

Step1「はじめにお読みください」

Atermを使用するために必要な手続き、接続のしかた、基本的な設定、インターネットへの接続までを説明しています。
最初にパソコンのOSや電話機別に必要な手続きや設定を図表にして記載しています。
初めてAtermを使用するときには、必ずお読みください。

Step2「活用マニュアル」

Atermの全ての機能とその操作方法および設定方法について説明しています。
「はじめにお読みください」の後にお読みいただき、あなたの通信環境に合わせた設定をおこなってください。

「お困りのときには」

Atermを使用中に何かトラブルが起きたときの症状と対策をQ&A方式で説明しています。
その他、問い合わせ先やサービスステーション、Atermのホームページの URL も記載しています。
「らくらくウィザード」を使ってうまく設定できなかったときの手動によるインターネットの接続の方法やWindowsNT4.0でのインターネットへの接続方法等も記載しています。

はじめに

本書ではAtermのすべての機能とその操作方法および設定方法を､｢Atermの表示とボタン操作」「便利な電話機能」「便利な通信機能」「さまざまな情報を見る」「Aterm の設定をする」「付録」のそれぞれの項目に分けて説明しています。

1章の｢Atermの表示とボタン操作｣では､Atermの前面パネルの説明と液晶ディスプレイの表示メッセージや Aterm のボタン操作について説明しています。

2 章の「便利な電話機能」では、Aterm に接続した電話機を使った機能と操作方法について説明しています。

3 章の「便利な通信機能」では、通信をするときの機能と操作方法について説明しています。

4 章の「さまざまな情報を見る」では、Aterm の液晶ディスプレイやパソコンの画面に表示できる情報の種類とその表示方法について説明しています。

5 章の「Aterm の設定をする」では、パソコンや電話機を使っての設定方法について説明しています。パソコンを使っての設定方法では、らくらくユーティリティの画面を中心に説明しています。

6 章の｢付録｣では、バージョンアップの方法や、AT コマンド、ディップスイッチについてなど、より高度な内容について説明しています。

Aterm の持っている機能、その操作方法と設定方法をよくご理解いただき、Aterm が備えている機能を使って、より便利な通信環境をお楽しみください。

もくじ

もくじ つづき

もくじ つづき

安全に正しくお使いいただくために

本書では、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぎ、本装置を安全に正しくお使いいただくための注意事項を示してあります。

⚠ 警　告

もしもこんなときは

● **発煙への対処**

万一、煙が出ている、へんな臭いがするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜き、煙が出なくなるのを確認してから、ご購入店またはNECサービスステーションに修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対おやめください。

● **水が装置内部に入った場合の対処**

万一、内部に水などが入った場合は、すぐに本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、ご購入店またはNECサービスステーションにご連絡ください。そのまま使用すると漏電して、火災・感電の原因となります。

● **異物が装置内部に入った場合の対処**

本装置の通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものなどの、異物を差し込んだり、落としたりしないでください。万一、異物が入った場合は、すぐに本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、ご購入店またはNECサービスステーションにご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。特に、お子様のいるご家庭ではご注意ください。

● **電源コードが傷んだ場合の対処**

電源コードが傷んだ（芯線の露出・断線など）状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、ご購入店またはNECサービスステーションに修理をご依頼ください。

● **破損時の対処**

万一、落としたり、破損した場合は、すぐに本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、ご購入店またはNECサービスステーションに修理をご依頼ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。

⚠ 警　告

禁止事項について

● **分解・改造の禁止**
本装置を分解・改造しないでください。火災・感電の原因となります。

● **ぬらすことの禁止**
本装置に水が入ったりしないよう、またぬらさないようにご注意ください。漏電して火災・感電の原因となります。

● **ぬれた手での操作の禁止**
ぬれた手で本装置を操作したり、接続したりしないでください。感電の原因となります。

その他のご注意

● **異物を入れないための注意**
本装置の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水の入った容器、または小さな金属類を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。

アルカリ乾電池ご使用上の注意

● **ショート、分解、加熱、火に入れるなどしないでください。**
アルカリ性溶液がもれて眼に入ったり、発熱、破裂の原因となります。

● **万一、アルカリ性溶液が皮膚や衣服に付着した場合にはきれいな水で洗い流し、眼に入ったときはきれいな水で洗った後、直ちに医師の治療を受けてください。**

⚠ 注　意

電源について

- **移動させる場合は、本体の電源スイッチを切った後、電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続線をはずしたことを確認の上、おこなってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。**

- **長期不在時の注意**
  長期間ご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。また、停電用電池も取りはずしてください。

- **電源プラグの清掃**
  電源プラグとコンセントの間のほこりは、定期的（半年に一回程度）に取り除いてください。火災の原因となることがあります。

禁止事項について

- **乗ることの禁止**
  本装置に乗らないでください。特に、小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。壊れてけがの原因となることがあります。

雷のときの注意

- **雷が鳴りだしたら、電源コードに触れたり周辺機器の接続をしたりしないでください。落雷による感電の原因となります。**

⚠ 注　意

アルカリ乾電池ご使用上の注意

● **下記のことを必ず守ってください。電池の使い方を間違えると液もれや破裂のおそれがあり、機器の故障やけがなどの原因となります。**

・ 保証期間内の単 3 アルカリ乾電池をお使いください。
（アルカリ以外のマンガン電池などでの動作保証はしていません。）
・（＋）、（－）を正しく入れてください。
・ 新しい電池と使用した電池、他の種類の電池をまぜて使わないでください。
・ この電池は充電式ではないので、充電すると液もれ、破損のおそれがあります。
・ アルカリ電池の性質上、液漏れによるトラブルが発生する恐れがありますので、停電の有無に関わらず 1 年に 1 回の割合で新しいアルカリ電池に交換してください。
・ 使い切った電池はすぐに器具から取り出してください。
電池の液もれによる装置の故障については当社は保証いたしかねます。
・ 電池に直接ハンダ付けをしないでください。
・ 直射日光、高温、高湿の場所を避けて、乾燥した涼しい場所に保管してください。
・ 電池を取りはずした場合は、小さなお子様が電池をなめたり、あやまって飲むことがないようにしてください。電池は幼児の手の届かないところへおいてください。

お願い

禁止事項について

- 動作中に接続コード類がはずれたり、接続が不安定になると誤動作の原因となります。動作中は、コネクタの接続部には絶対に触れないでください。

日頃のお手入れ

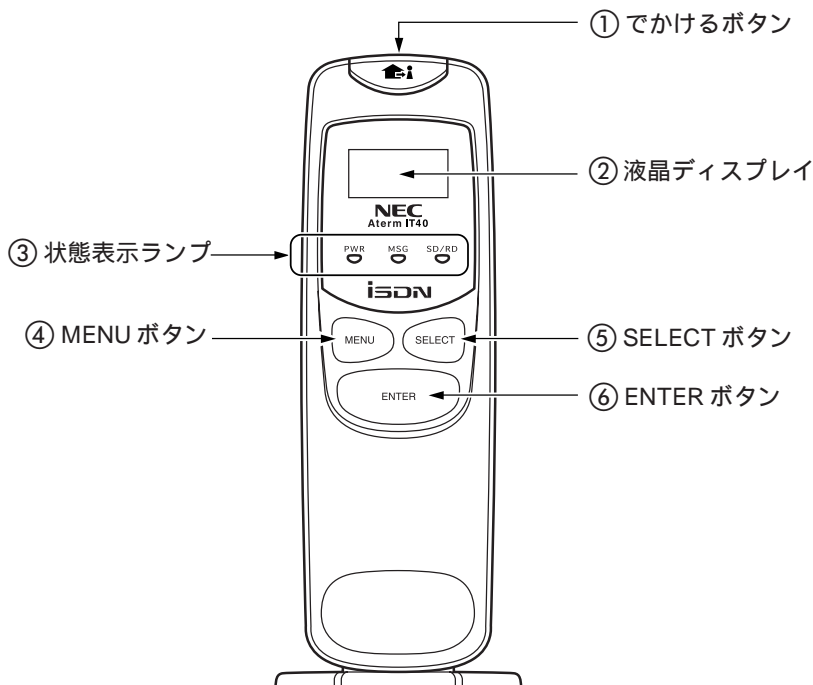
- 汚れたら、乾いた柔らかい布でふきとってください。汚れのひどいときは、中性洗剤を含ませた布でふいたあと、乾いた布でふきとってください。化学ぞうきんの使用は避けてください。ベンジン、シンナーなどの有機溶剤、アルコールは、絶対に使用しないでください。変形や変色の原因となることがあります。

1 Atermの表示とボタン操作

ここではAtermの前面パネル、液晶ディスプレイ、
ボタンによる操作のしかたについて説明しています。
Atermの液晶ディスプレイに表示された内容や
ボタンを使った操作のしかたを知りたいとき等に
参照してください。

1-1. Atermの前面パネルについて

前面パネル

Aterm の前面にあるパネルのはたらきについて説明します。

① **でかけるボタン**
お出かけ設定をするときに押します。
ボタンが点灯します。お出かけ設定時に着信があると点滅します。
もう一度ボタンを押すとお出かけ設定を解除し、ボタンを消灯します。

② **液晶ディスプレイ**
液晶ディスプレイには、回線や通信機器の使用状況、設定時の内容、日時の表示などを絵文字（ピクトグラム）やメッセージで表示します。

③ **状態表示ランプ**
SD/RD ランプ
(Send Data/Receive Data)

- パソコンから Aterm にデータが送られているときに、緑色に点滅します。
- Aterm からパソコンにデータが送られているときに、赤色に点滅します。

MSG ランプ
(MESSAGE)
- 電子メール着信通知、UUI メールが入っているときに、オレンジ色に点滅します。

PWR ランプ
(POWER)
- 電源が入っているときに、緑色に点灯します。
- 電池で動作しているときは、緑色に速く点滅します。（1 秒間に 2 回）
  電池の残量が少なくなると、点滅が遅くなります。（1 秒間に 1 回）

④ **MENU ボタン**
各種の設定をするときに押します。
設定中に MENU ボタンを押すとキャンセル(解除)のはたらきをします。

⑤ **SELECT ボタン**
設定をするときの設定項目を変えるときに押します。ボタンを押すたびに設定項目が変わります。

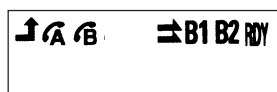
⑥ **ENTER ボタン**
設定項目を決めるときに押します。
マニュアル BOD で通信速度を変える（64kbps ↔128kbps）ときに押します。

液晶ディスプレイの表示

Atermの前面上部にあるバックライト付き液晶ディスプレイには、Atermの設定状態や使用中の通信状態などの様々な情報を表示します。

電話を使用しているのかパソコンを使用しているのか、64kbps通信中か128kbps通信中か、などの情報を絵文字（ピクトグラム）で表示します。
また、電話番号や通信料金等の詳細情報、機能設定のガイダンス表示を12文字×2行の文字情報表示（英数カナ）でおこないます。

絵文字（ピクトグラム）

A B ⇄ B1 B2 RDY

	フレックスホンの着信転送や疑似着信転送が設定してあるときに表示されます。
A B	アナログ(A, B)ポートに接続している通信機器の受話器をあげているときに表示されます。
⇄	データ通信中に表示されます。 （ 1つのBチャネルでデータ通信中 (64kbps) 2つのBチャネルでデータ通信中 (128kbps)）
B1 B2	B1チャネル、B2チャネルを使用中に表示されます。
RDY	データポートにパソコンが接続され、パソコンのER (Equipment Ready)信号がオンしているときに表示されます。

電源を入れた後の表示

状　態	表　示
INSネット64の同期がとれているとき	12月　1日　　9：47 ※日時は例です。
INSネット64の同期がはずれているとき レイヤ1がはずれているとき	カイセンショウガ゛イ レイヤ1ダ゛ウン
レイヤ2がはずれているとき	カイセンショウガ゛イ レイヤ2ダ゛ウン

通信状態の表示

●アナログポートを使用しているとき

	通　信　状　態	表　示	備　考
発信	電話機の受話器をあげる	A 12月　1日　　9：47	アナログ A ポートの例
	相手番号をダイヤルし、#を押す（#を押さないときは 5 秒後に発信します）	A アナログ゛ A　ハッシン ×××××××××××	XXXXXXXXXX は電話番号
	発信後 20 秒経過	A 12月　1日　　9：47	
	相手応答	A　　　　B1 12月　1日　　9：47	B1 チャネルで通信した例
着信	電話やファクスに着信あり	アナログ゛　チャクシン ×××××××××××	XXXXXXXXXXは相手電話番号
	受話器をあげる	A　　　　B1 12月　1日　　9：47	アナログ A ポートの例 B1 チャネルで通信した例
切断	切断する	アナログ゛ A　セツダ゛ン yyy　　　　zzz円	yyy　切断理由 zzz　通信料金 （発信側のみ）
	切断後 20 秒経過	12月　1日　　9：47	
着信転送	着信転送設定時、着信あり	アナログ゛　チャクシン ×××××××××××	XXXXXXXXXX は電話番号
	転送完了	テンソウシマシタ	転送失敗時は 「テンソウシッパイ」
	転送後 5 秒経過	12月　1日　　9：47	

通信状態		表示	備考
内線通話	電話機の受話器をあげる	A 12月 1日 9：47	アナログＡポートの例
	内線番号をダイヤルし、＃を押す	A アナログ゛ チャクシン ナイセン A→B	アナログＡポートからＢポートに発信する例
	着信側が電話機の受話器をあげる	A B 12月 1日 9：47	

●データポートを使用しているとき

通信状態		表示	備考
発信	パソコンに発信コマンドを入れる	RDY デ゛ータ ハッシン ×××××××××××	XXXXXXXXXXは電話番号
	発信後 20 秒経過	RDY 12月 1日 9：47	
	相手応答	➡B1 RDY 12月 1日 9：47	B1チャネルで通信した例
着信	パソコンに着信あり	RDY デ゛ータ チャクシン ×××××××××××	XXXXXXXXXXは相手電話番号
	通信中	➡B1 RDY 12月 1日 9：47	B1チャネルで通信した例
切断	切断する	RDY デ゛ータ セツダ゛ン yyy zzz円	yyy 切断理由 zzz 通信料金 （発信側のみ）
	切断後20秒経過	RDY 12月 1日 9：47	

●お出かけ設定

状　態	表　示	備　考
おやすみモードを設定しているとき	12月 1日 9：47 オヤスミ	
電話着信転送を設定しているとき	┛ 12月 1日 9：47 テ゛ンワテンソウ	
ボイスワープを設定しているとき	12月 1日 9：47 ホ゛イスワーフ゜	
フラッシュモードを設定しているとき	12月 1日 9：47 フラッシュ	

●でかけるボタンロック

状　態	表　示	備　考
でかけるボタンをロックしたとき	テ゛カケルホ゛タンヲ ロックシマシタ	設定時５秒間表示されます。
でかけるボタンのロックを解除したとき	テ゛カケルホ゛タンヲ ロックカイシ゛ョシマシタ	設定時５秒間表示されます。

INS ナンバー・ディスプレイ表示

着信時、Atermの液晶ディスプレイに電話番号が表示されるのは、INSネット64が相手の電話番号を通知してきた場合のみです。

INSネット64が電話番号を通知できる（液晶ディスプレイに電話番号が表示される）のは次の場合です。

① 相手がINSネット64に加入していて、発信者番号通知をおこなう設定になっている場合。

② デジタル携帯電話またはPHSからの着信で、発信者番号通知をおこなう設定にしている場合。

③ NTTのINSナンバー・ディスプレイサービス（有料）を着信側が契約し、相手がアナログ網からの発信で番号通知サービスを「184」ダイヤル等で解除しなかった場合。

●電話番号を通知してこない着信の場合

状　態	表　示
相手が「回線ごと非通知」、 または「184」を付けた場合	アナログ゙ チャクシン P ：ヒツウチ
相手が公衆電話からかけた場合	アナログ゙ チャクシン C ：コウシュウデ ンワ
相手がサービス地域以外からかけた場合	アナログ゙ チャクシン O：ヒョウジ ケンガ゙ イ

1-2．ボタンを使った操作のしかた

Aterm 前面のボタン（MENU、SELECT、ENTER）を使って、次のことができます。

- **着信履歴表示**
- **着信履歴先発信**
- **履歴先発信する電話機の指定**
- **累積料金表示**
- **累積料金の初期化**
- **初期化**
- **128kbps マルチリンク PPP 通信中の通信速度の切替え**

でかけるボタンを使った「お出かけ設定」については、「お出かけ設定」をご覧ください。
☞**2-20 ページ**

着信履歴表示

アナログポートの最新の着信履歴を Aterm の液晶ディスプレイに表示します。

着信履歴表示は、電話機のプッシュボタンを使っても同様の操作をすることができます。 ☞**2-29 ページをご覧ください。**

Atermの液晶ディスプレイ

① **MENU ボタンを押します**

```
1：チャクシンリレキ
```

② **ENTER ボタンを押します**

```
1：チャクシンリレキ
ヒョウシ゛
```

③ **もう一度 ENTER ボタンを押します**
最新着信履歴が表示されます。

```
サイシンリレキヲ
ヒョウシ゛ シマス
```

⇩ 5 秒後

```
30日23：05　○　A
03××××××××/ ▶
```

表示例

- さらに前の着信履歴を表示させるときは、SELECTボタンをくり返し押します。最大 50 件までの着信履歴を表示することができます。
- 通常の表示に戻すときは、MENU ボタンを押します。
  また、20 秒間ボタン操作がおこなわれないと、自動的に通常表示に戻ります。
- ディスプレイの表示の見方については、「2-4. 着信履歴を見る / かける」を参照してください。☞**2-29 ページ**

着信履歴先発信

着信履歴に表示された電話番号に発信します。

着信履歴先発信は、電話機のプッシュボタンを使っても同様の操作をすることができます。 **☞2-30ページをご覧ください。**

Atermの液晶ディスプレイ

① **MENUボタンを押します**

1：チャクシンリレキ

② **ENTERボタンを押します**

1：チャクシンリレキ ヒョウシ゛

③ **もう一度ENTERボタンを押します**
最新着信履歴が表示されます。

サイシンリレキヲ ヒョウシ゛シマス

⇩ 5秒後

30日23：05　○　A 03××××××××/▶

④ **SELECTボタンを押して、着信履歴先発信をする電話番号を選びます**
最大50件までの着信履歴を表示することができます。

⑤ **ENTERボタンを押します**
あらかじめ指定しておいた着信履歴先発信をする電話機の呼出音が鳴ります。

ハッシンチュウ

● Atermでは、あらかじめアナログAポートに接続した電話機を着信履歴先発信する電話機として指定してあります。指定する電話機を変更するときは、「履歴先発信する電話機の指定」をご覧ください。 ☞ **次ページ**

⑥ **呼出音の鳴っている電話機の受話器をあげると、着信履歴先の電話番号に発信します**
通話が終わって受話器を置くと、通常の表示に戻ります

A アナログ゛A　ハッシン 03××××××××

アナログAポートからの発信の例

履歴先発信する電話機の指定

着信履歴先発信をする電話機を変更します。

Atermの液晶ディスプレイ

① **MENUボタンを押します**

1：チャクシンリレキ

② **ENTERボタンを押します**

1：チャクシンリレキ ヒョウシ゛

③ **SELECTボタンを押します**

2：ハッシンホ゜ート センタク

④ **ENTERボタンを押します**

ハッシンホ゜ートヲ センタクシマス

⇩ 5秒後

ホ゜ートA

⑤ **SELECTボタンを押して、指定する電話機の接続してあるアナログポートを選び、ENTERボタンを押します**

SELECTボタンを押すたびに、ポートB→ポートA→と変わります。

ホ゜ートBヲ センタクシマシタ

アナログBポートに接続してある電話機を選んだ場合の例

⇩ 5秒後

5秒間表示してから通常表示に戻ります。

12月　1日　　9：47

累積料金表示

ポートごとの累積料金を表示します。

累積料金表示は、電話機のプッシュボタンを使っても同様の操作をすることができます。**☞4-5 ページをご覧ください。**

Aterm の液晶ディスプレイ

① **MENU ボタンを押します**

1：チャクシンリレキ

② **SELECT ボタンを押します**

2：リョウキン

③ **ENTER ボタンを押します**
データポートの累積料金が表示されます。

ルイセキ　デ゛ータ 310円

④ **SELECT ボタンを押して、累積料金を表示させるポートを選びます**
SELECT ボタンを押すたびに、アナログ A ポート→アナログ B ポート→データポート→の順に累積料金を表示していきます

ルイセキ　アナログ゛A 50円

● 通常の表示に戻すときは、MENU ボタンを押します。
また、20 秒間ボタン操作がおこなわれないと、自動的に通常表示に戻ります。

累積料金の初期化

累積料金を初期化します。

累積料金の初期化は、電話機のプッシュボタンを使っても同様の操作をすることができます。 **☞5-49ページをご覧ください。**

Atermの液晶ディスプレイ

① **MENUボタンを押します**

１：チャクシンリレキ

② **SELECTボタンを3回押します**

４：ショキカ

③ **ENTERボタンを押します**

ショキカメニューヲ センタクシマス

⇩ 5秒後

１：ルイセキカキンノ ショキカ

④ **ENTERボタンを押します**

- 初期化をしたくないときは、MENUボタンを押します。通常表示に戻ります。

ルイセキカキン ショウキョシマスカ？

⑤ **もう一度、ENTERボタンを押します**

5秒間表示してから、通常表示に戻ります。

ショウキョシマシタ

⇩ 5秒後

１２月　１日　　９：４７

初期化（工場出荷時の状態へ戻す）

設定値を工場出荷時状態へ戻します。

初期化は、電話機のプッシュボタンを使っても同様の操作をすることができます。**☞5-51ページをご覧ください。**

Atermの液晶ディスプレイ

① **MENUボタンを押します**

1：チャクシンリレキ

② **SELECTボタンを3回押します**

4：ショキカ

③ **ENTERボタンを押します**

ショキカメニューヲ センタクシマス

④ **SELECTボタンを押します**

2：コウシ゛ョウシュッカ シ゛ニショキカ

● 工場出荷時状態への初期化をすると、設定した内容が全て消去されますのでご注意ください。

⑤ **ENTERボタンを押します**

コウシ゛ョウシュッカシ゛ ニショキカシマスカ?

● 初期化をしたくないときは、MENUボタンを押します。通常表示に戻ります。

⑥ **もう一度、ENTERボタンを押します**

初期化が終了すると、工場出荷状態の表示に戻ります。

ショキカチュウ

工場出荷状態の表示

1月　1日　　　0：00

128kbpsマルチリンクPPP通信中の通信速度の切替え（マニュアルBOD）

128kbpsマルチリンクPPP通信中にENTERボタンを押すと通信速度を切り替えることができます。
マニュアルBODを使用する場合は、あらかじめリソースBODを設定しておいてください。
☞**3-4 ページ**

Atermの液晶ディスプレイ

① **128kbps マルチリンク PPP 通信中に ENTER ボタンを押します**
通信速度 64kbps で通信しているとき

➡ B1　RDY
６４→１２８へ ツイカスル？

通信速度 128kbps で通信しているとき

⇄ B1 B2　RDY
１２８→６４へ サクシ゛ョスル？

● 128kbps マルチリンク PPP 以外のデータ通信中に ENTER ボタンを押すと、「シヨウデキマセン」と 5 秒間表示されます。

② **もう一度 ENTER ボタンを押します**
ディスプレイに表示されている通信速度に切り替わり、ピクトグラムの表示も変わります。

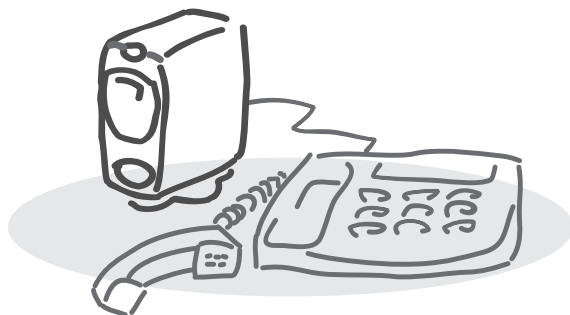
通信速度を 64kpbs から 128kbps にしたとき
5 秒間表示してから、前の表示に戻ります。

➡ B1　RDY
ツイカシマス

通信速度を 128kbps から 64kbps にしたとき
5 秒間表示してから、前の表示に戻ります。

⇄ B1 B2　RDY
サクシ゛ョシマス

● 通信速度を切り替えたくないときは、MENUボタンを押します。通常表示に戻ります。

スループット BOD の設定をしている場合、データ量が少ないと ENTER ボタンを押しても 128kbps に切り替わりません。

2 便利な電話機能

Aterm の持っている便利な電話の機能について説明します。

2-1. 電話をかける

電話をかける

操作方法

ここでは、基本的な電話のかけ方を説明します。詳しくは、Atermに接続した電話機の説明書をご覧になってください。

① **受話器をあげます**
「ツー」という発信音が聞こえ液晶ディスプレイに使用しているアナログポート名が表示されます。

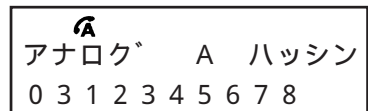
② **相手の電話番号をダイヤルします**
ダイヤル後、約5秒後（工場出荷時の値です。ダイヤル桁間タイマの設定により変更できます）に発信します。【#】を押すとすぐに発信します。

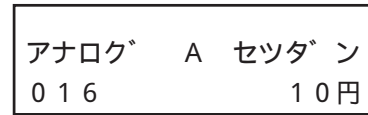
③ **通話が終わったら受話器を置きます**

Atermの液晶ディスプレイ

```
12月　1日　　9：47
```

アナログAポートに接続してある電話機の受話器をあげた場合の例

```
アナログ゛　A　ハッシン
0312345678
```

アナログAポートから発信した場合の例

```
アナログ゛　A　セツダ゛ン
016　　　　　　10円
```

切断理由を表示 ☞ 6-36ページ

今かけた通話料金を表示

番号を間違えたときは

受話器を置いて、①からやり直してください。

LCR機能を内蔵している機器を接続する場合は、「ダイヤル桁間タイマ」を9秒以上に設定してください。初期値の5秒のままですと、発信や着信、LCRデータの自動ダウンロードがうまくできないことがあります。
Windows98/Windows95, Windows NT4.0 ☞ 5-8ページ
Macintosh ☞ 5-41ページ
電話機 ☞ 5-47ページ

【#】が電話番号の途中に入るところにかけるときは

「ダイヤル終了識別」を「＃発信しない」または「＃＃発信する」に設定してください。発信をしないように設定してください。

受話器をあげる→【*】【*】【1】【*】【4】【*】【7】【5】【*】【下記】【#】【#】→受話器を置く

0：＃発信しない
1：＃発信する（初期値）
2：＃＃発信する

サブアドレス付きの電話番号にかける

（相手がISDNに加入している場合、サブアドレス付きの電話発信がおこなえます。）
電話番号とサブアドレスの間に【*】を入れます。
電話番号（03-XXXX-XXXX)、サブアドレス（100）にかけるときは、
【03XXXXXXXX】【*】【100】とダイヤルします。

短縮ダイヤル発信

Atermに登録した短縮ダイヤル（0～9）を電話機からかけることができます。短縮ダイヤルは10件まで登録できます。

操作方法

① **受話器をあげます**
「ツー」という音が聞こえ液晶ディスプレイに使用しているアナログポート名が表示されます。

Atermの液晶ディスプレイ

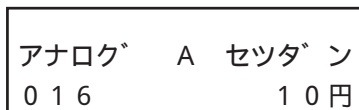
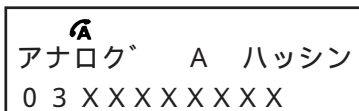
```
12月  1日   9：47
```

アナログAポートに接続している電話機の受話器をあげた場合の例

② **【*】【短縮ダイヤル番号】**
例：短縮ダイヤル「0」に登録した電話番号にかける場合【*】【0】と押します。

```
アナログ゛  A  ハッシン
03XXXXXXXX
```

③ **通話が終わったら受話器を置きます**

```
アナログ゛  A  セツダ゛ン
016          10円
```

設定方法

相手の電話番号を短縮ダイヤルに登録します。
Windows98/Windows95, Windows NT4.0 ☞ 5-9ページ
Macintosh ☞ 5-36ページ
電話機
受話器をあげる→【*】【*】【1】【*】【4】【*】【下記】【*】【電話番号】【#】【#】→受話器を置く

50～59：電話番号
60～69：サブアドレス（サブアドレスが必要な場合のみ）

発信者番号通知

（自分の電話番号を相手に知らせる）

INSネット64の基本サービスで、発信者番号（契約者回線番号、ダイヤルイン番号またはi・ナンバー）を相手に通知する機能です。

「INSネット64契約」、「Atermの設定」、「ダイヤル前の184、186」によって、相手に通知する／しないを選択することができます。

「INSネット契約」：INSネット64加入時に選択した発信者番号通知サービスの契約種別には、「通話ごと非通知」、「回線ごと非通知」があります。

「Atermの設定」：Atermの設定には、「通知する」、「通知しない」、「INSネット64申込内容に従う」があります。

「ダイヤル前の184、186」：電話番号の前に付加して発信者番号を通知する／しないを指定するダイヤル操作には「184（通知しない）」、「186（通知する）」があります。

「INSネット64契約」、「Atermの設定」の組合せによる通知する／通知しない

		Atermの設定		
		※通知しない	※通知する	INSネット64申込内容に従う（初期値）
INSネット64契約	通常通知（通話ごと非通知）	通知しません	通知します	通知します
	通常非通知（回線ごと非通知）	通知しません	通知します	通知しません

既に「常時通知拒否」をご契約の場合：いかなる設定でも通知しません（「184、186」は利用できません）。

設定方法

Windows98/Windows95, Windows NT4.0 ☞5-4ページ
Macintosh ☞ 5-30ページ
電話機
受話器をあげる→【*】【*】【1】【*】【下記】【*】【0】【9】【*】【下記】【#】【#】→受話器を置く

1：Aポート
2：Bポート

0：発信者番号を通知しない
1：発信者番号を通知する
2：INSネット64の申込内容に従う

補足説明

通知する発信者番号は発信者番号指定（☞ **次ページ**）で設定します。何も設定しないときはINSネット64が契約者回線番号を通知するようになります。

発信者番号指定

（相手に知らせる自分の電話番号を指定する）

発信時に相手に通知する電話番号を指定します。
ポート毎に契約者回線番号やダイヤルイン番号またはi・ナンバーから選んで指定することができます。

設定方法

Windows98/Windows95, Windows NT4.0 ☞ 5-5 ページ
Macintosh ☞ 5-30 ページ
電話機
受話器をあげる→【＊】【＊】【1】【＊】【下記】【＊】【9】【2】【＊】【電話番号】【#】【#】→受話器を置く

1：Aポート
2：Bポート

補足説明

発信者番号が通知されるようにINS ネット 64 と Aterm が設定されていれば、指定した電話番号が相手に通知されます。

内線通話

（内線電話同士で通話する）

Aterm のアナログポート間で通話することができます。

操作方法

アナログ A ポートに接続されている電話機からアナログ B ポートに接続されている電話機を呼び出した場合の例

① 受話器をあげます

② 【#】【*】【呼び出す電話機の番号】を続けて押します

アナログ A ポート：【1】
アナログ B ポート：【2】

③ 呼出音が鳴り、相手が受話器をあげれば通話できます

④ 通話が終わったら受話器を置きます

設定方法

初期状態で使用できます。

補足説明

- INS ネット 64 に接続していなくても内線通話することができます。
- 停電時はご利用できません。
- 内線通話中に外線から着信があるとプップッと音がして着信を知らせます。フッキングをすると内線を切って、外線と通話ができるようになります。
- ダイヤル後、すぐに発信させるには、最後に【#】を押します。

フッキングとは、電話機のフックを軽く押してはなすことをいいます。フッキング検出時間より長くフッキングをおこなうと通話中の場合、その電話が切断されます。

三者通話

（三人同時に話す）

外線通話中に、第三者を外線で呼び出して三者間で通話することができます。
三者通話には次の 2 種類があります。

1. 疑似三者通話

Aterm の機能として疑似的に三者通話をおこなうので、INS ネット 64 の付加サービス契約をしなくても利用することができますが、INS ネット 64 の B1、B2 チャネルを両方使うので、内線通話以外の通信はできません。

2. INS ネット 64 の付加サービスフレックスホンの三者通話

INS ネット 64 の付加サービス契約が必要になり、月々の付加サービス使用料がかかりますが、疑似三者通話と違い、使用する B チャネルは 1 つだけなので空いているポートを使用することができます。また、切り替えて二者で話すモード（切替モード）と三者同時に話すモード（ミキシングモード）があります。

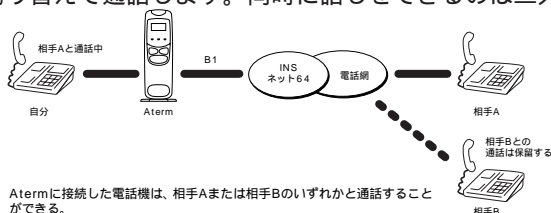
利用条件

- 疑似三者通話中は、内線通話以外の通信はできません。
- 疑似三者通話を使用した場合、通信中転送機能は使用できません。
- 疑似三者通話を使用した場合、ミキシングモードから切り替えて二者で話す切替モードへの切り替えはできません。
- 疑似三者通話中にらくらくユーティリティを終了すると、電話機からノイズが聞こえる場合があります。
- フレックスホンの三者通話を使用する場合は、通信中転送も併せてお申し込みください。
- 疑似三者通話の切断時には、最新の発信時の通話料金が表示されます。

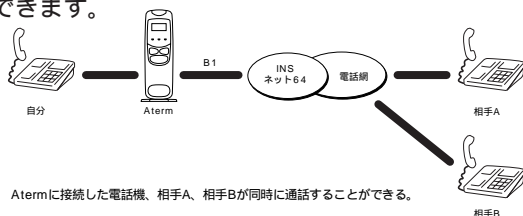
動作

● 切替モード（切り替えて二者で話す）

通話中の相手を切り替えて通話します。同時に話しをできるのは二人になります。

Atermに接続した電話機は、相手Aまたは相手Bのいずれかと通話することができる。

● ミキシングモード（三者同時に話す）

三者同時に話しができます。

Atermに接続した電話機、相手A、相手Bが同時に通話することができる。

操作方法

● 切り替えて二者で話す

通話中の相手を切り替えて別の相手と通話します。

① **通話相手 A さんと通話中にフッキングします**
通話相手 A さんには、保留音が聞こえます。
② **「プププ…」という音が聞こえるので、B さんに電話をかけます**
B さんが電話に出ると話ができます。
③ **もう一度フッキングすると「ププッ、ププッ」という音が聞こえ、その音が停止した後に A さんとの通話に切り替わります**
※ 通話の切り替えは、何度でもできます。
④ **1秒以上受話器を置くか、フックスイッチを押すと現在通話中の相手との電話が切れます**
呼出音がなったら、受話器を取ります。
保留中の相手と話しができます。

● 三者で話す

通話中に別の相手を呼び出して三者で通話します。

① **通話相手 A さんと通話中にフッキングします**
通話相手 A さんには、保留音が聞こえます。
② **「プププ…」という音が聞こえるので、B さんに電話をかけます**
B さんが電話に出ると通話ができます。
③ **続けて2回（すばやく2回押す）フッキングすると、A さんと B さんと自分の三者で話ができます**
④ **1 秒以上受話器を置くか、フックスイッチを押すと電話が切れます**

切替モードとミキシングモードは、2回フッキングすることで切り替わります。

設定方法

疑似三者通話または三者通話を選択します。

Windows98/Windows95、WindowsNT4.0 ☞ 5-17 ページ
Macintosh ☞ 5-31 ページ

電話機

受話器をあげる→【＊】【＊】【1】【＊】【4】【＊】【2】【5】【＊】【下記】【#】【#】→受話器を置く

1：三者通話
2：疑似三者通話

受話音量調整

通話中に電話機の受話音量を調整することができます。

操作方法

【*】【#】を押すと受話音量が次のように切り替わります。

→中→大→小（3 段階設定）

設定方法

初期状態は、［* #入力で受話音量を変更しない］になっています。らくらくテレホン設定や AT コマンドで［* #入力で受話音量を変更する］に設定します。
☞5-48, 6-22 ページ

補足説明

● あらかじめ「受話音量」を選択することもできます。
Windows98/Windows95, Windows NT4.0 ☞ 5-3 ページ
電話機
受話器をあげる→【*】【*】【1】【*】【下記】【*】【1】【2】【*】【下記】【#】【#】→受話器を置く

1：Aポート
2：Bポート

0：音量小
1：音量中
2：音量大

通話相手の電話機によっては、相手が【*#】を押すと自分側の電話機の受話音量が切り替わる場合があります。その場合は、AT コマンドで［*# 入力で受話音量を変更しない］（初期値）に戻してください。(☞6-22 ページ)

2-2. 電話を受ける

さまざまな着信機能

工場出荷時は、すべてのアナログポートですべての着信ができるようになっています。個々の設定をすることで、着信するポートを指定していきます。

機能名	条件	説明	BIGLOBE 加入
迷惑電話防止		着信させたくない電話番号を自動的に切断します。	---
識別着信	疑似	特定の電話のみを着信させます。	---
	INS なりわけ		
識別リンギング	疑似	電話の相手によって呼出音を変えます。	---
	INS なりわけ		
マイプライベート着信		かかってきた相手番号により着信（鳴らす）させるポートを割り当てます。	---
優先着信ポート指定		かかってきた電話を着信（鳴らす）させるポートの順番を指定できます。	---
自己サブアドレス		INS ネット 64 のダイヤルインサービス契約なしに自己サブアドレスへの着信を指定できます。	---
着信ダイヤルイン複数選択		登録してある自分の複数の電話番号（契約者回線番号、ダイヤルイン番号）をまとめて１つのポートに着信させることができます。	---
コールウェイティング	疑似	通話中に別の相手から着信があった場合、現在通話中の相手を保留することができる機能です。	---
	フレックスホン		
選択コールウェイティング	疑似	通話中にかかってきた特定の電話だけコールウェイティングできます。	---
	INS なりわけ		
お出かけ設定			---
おやすみモード		着信音が鳴らずに Aterm の液晶ディスプレイの絵文字が点滅します。	---
電話着信転送モード		下記の 3 つの電話着信転送ができます。	---
• 着信転送		INS ネット 64 の着信転送サービスを利用して着信転送（かかってきた電話を指定先に転送する）ができます。	---
• 疑似着信転送		Aterm の持つ機能として着信転送ができます。	---
• 電話番号着信転送		BIGLOBE を利用して発信者番号を UUI メール形式にして指定先へ転送することができます。同時に着信可能なアナログポートを呼び出します。	要
ボイスワープ転送モード		INS ネット 64 の INS ボイスワープサービスを利用して着信転送ができます。	---
フラッシュモード		着信音が鳴らずにAtermのでかけるボタンが点滅します。	---
i・ナンバー		着信時に通知されるi・ナンバー情報により、呼び出すポートを特定します。☞**2-31 ページ**	---

電話を受けることができない場合は、☞**『お困りのときには』の 1-1 項の「電話が使えない」**をご覧ください。

電話を受ける

Aterm に接続した電話機自体の操作は、電話機の説明書をご覧になってください。ここでは基本的な電話の受け方を説明します。

操作方法

① **電話がかかってきたら、受話器をあげて通話します**
相手からの発信者番号通知がある場合、通話相手の電話番号が表示されます。

② **通話が終わったら受話器を置きます**

Aterm の液晶ディスプレイ

アナログ゙　　チャクシン ０３ＸＸＸＸＸＸＸＸ

アナログ゙Ａ　セツダ゙ン ０１６

迷惑電話防止

（迷惑電話やいたずら電話をシャットアウト）

迷惑電話やいたずら電話など受け付けたくない電話番号をあらかじめ登録しておけば、Aterm が通信拒否を示して呼び出し音を鳴らす前に自動的に切断します。
いたずら電話がかかってきたら、その電話を迷惑電話として登録することができます。

受話器をあげる→【*】【*】【5】【2】→【1】【#】→受話器を置く

動作

登録しておいた電話番号からの電話には着信をしません。（最大 20 件）
発信してきた相手にはビジートーンが聞こえます。
相手が発信者番号通知をしていない着信（非通知、表示圏外、公衆）も指定することができます。

利用条件

INS ネット 64 の付加サービス「INS ナンバー・ディスプレイ」の契約をしてください。
契約をしていない場合、加入電話（一般アナログ網）からの発信者番号が通知されません。

設定方法

迷惑電話番号の登録をおこないます。
Windows98/Windows95 ☞5-3,5-13 ページ
Macintosh ☞5-36 ページ
電話機 ☞5-54 ページ

識別着信

（特定の電話のみを着信させる）

識別着信は、特定の相手からだけの電話を着信する機能です。着信する電話か、着信をしない電話かの識別方法には次の 2 種類があります。

1. **疑似識別着信**
   Atermが持っている機能です。疑似識別着信用の電話帳に登録した電話番号からの着信だけをおこないます。疑似識別着信用の電話帳には最大30件までの電話番号を登録することができます。
2. **INS なりわけ識別着信**
   INS ネット 64 の INS なりわけサービスのセキュリティ機能を使います。INS ネット 64の付加サービスのINSなりわけサービスの契約と月々の使用料がかかります。INSなりわけサービスの契約後に登録した電話番号からの着信だけをおこないます。
   INS なりわけサービス ☞2-34 ページ

動作

- 疑似識別着信を使用した場合は、疑似識別着信用の電話帳に登録した電話番号からの着信だけをおこない、それ以外の電話番号からの着信は受け付けません。
- INSなりわけ識別着信を使用した場合は、INSなりわけサービス契約後に登録した電話番号からの着信だけをおこない、それ以外の電話番号からの着信は受け付けません。
- 識別着信と選択コールウェイティングを同時にご利用になることはできません。

利用条件

INS ネット 64 の付加サービス「INS ナンバー・ディスプレイ」の契約をしてください。契約をしていない場合、加入電話（一般アナログ網）からの発信者番号が通知されません。

設定方法

「疑似識別着信」または「INS なりわけ識別着信」を選択します。
疑似識別着信を選択した場合は、疑似識別着信用の電話帳に電話番号を登録します。
Windows98/Windows95、WindowsNT4.0 ☞5-8,5-11 ページ
Macintosh ☞5-41 ページ
電話機 ☞5-47 ページ

識別リンギング

（電話の相手によって呼出音を変える）

識別リンギングは、特定の相手からの電話の呼出音を変える機能です。呼出音を変える電話の識別方法には次の 2 種類があります。

1. **疑似なりわけ**
   Atermが持っている機能です。疑似なりわけ用の電話帳に登録した電話番号からの着信の呼出音を変えます。疑似なりわけ用の電話帳には最大30件までの電話番号を登録することができます。

2. **INS なりわけ**
   INS ネット 64 の INS なりわけサービスの識別リンギング機能を使います。INS ネット 64 の付加サービスの INS なりわけサービスの契約と月々の使用料がかかります。INSなりわけサービスの契約後に登録した電話番号からの着信のときには呼出音を変えます。
   INS なりわけサービス ☞2-34 ページ

動作

- 疑似なりわけを使用した場合は、疑似なりわけ用の電話帳に登録した電話番号からの着信の呼出音を変えます。それ以外の電話番号からの着信は通常の呼出音になります。
- INSなりわけを使用した場合は、INSなりわけサービス契約後に登録した電話番号からの呼出音を変えます。それ以外の電話番号からの着信は通常の呼出音になります。

利用条件

INS ネット 64 の付加サービス「INS ナンバー・ディスプレイ」の契約をしてください。契約をしていない場合、加入電話（一般アナログ網）からの発信者番号が通知されません。

設定方法

「疑似なりわけ」または「INS なりわけ」を選択します。
「疑似なりわけ」を選択した場合は、疑似なりわけ用電話帳に電話番号を登録します。
Windows98/Windows95、WindowsNT4.0 ☞5-8,5-12 ページ
Macintosh ☞5-36,5-41 ページ
電話機 ☞5-47 ページ

マイプライベート着信
（かかってきた電話を特定の電話機だけに着信させる）

かけてきた相手の電話番号を自動的にAterm側で判別してAtermにつないでいるどの電話機を呼び出すかを決める機能です。相手によって呼び出す電話機を変えたいときに便利です。
例えば、職場からの電話は仕事部屋の電話機へ、子供の友達からの電話は居間と子供部屋へ、親戚からの電話は全ての電話機へ、電話番号を通知してきていない電話は居間だけへといったように、相手の電話番号によって着信する電話機を指定することができます。
電話番号は最大30件登録可能です。

動作

マイプライベート着信用の電話帳に登録されている相手番号の着信を、指定した電話機で受け付けます。
相手が発信者番号通知をしていない着信（非通知、表示圏外、公衆）も指定することができます。

利用条件

- INSネット64の付加サービス「INSナンバー・ディスプレイ」の契約をしてください。契約をしていない場合、加入電話（一般アナログ網）からの発信者番号が通知されません。
- 「識別着信」を[使用する]にしているときは、発信者番号を通知していない電話や呼び分けテーブルに登録していない電話は受付けることができません。

設定方法

「マイプライベート着信を使用する」と相手の電話番号の登録（最大30件）と着信するポートを選択します。
Windows98/Windows95、Windows NT4.0 ☞5-10ページ
Macintosh ☞5-32,5-36ページ
電話機 ☞5-47ページ

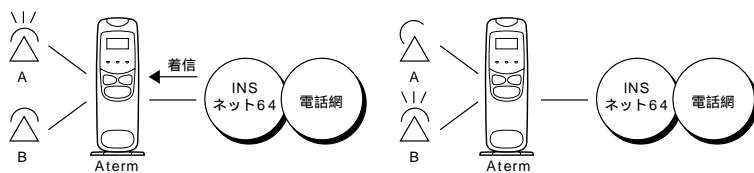
補足説明

マイプライベート着信を設定した相手が電話をかける場合は、自分側Atermのマイプライベート着信用の電話帳で、着信を指定したアナログポートに設定された電話番号以外ではかけることはできません。

優先着信ポート指定

Aterm に接続している電話機を優先順位をつけて呼び出します。

動作

例）アナログ A ポートを「優先着信ポート」に指定した場合

※Aポートが空いているとき、Aポートの電話機だけが鳴ります。

※ A ポートが通話中のときは、Bポートが同時に鳴ります。

設定方法

優先着信するポートを選択します。

Windows98/Windows95, Windows NT4.0 ☞ 5-14 ページ
Macintosh ☞ 5-32 ページ

電話機

受話器をあげる→【＊】【＊】【1】【＊】【4】【＊】【2】【3】【＊】【下記】【#】【#】→受話器を置く

1：Aポートを優先着信ポートにする
2：Bポートを優先着信ポートにする

自己サブアドレス

（自分への着信を指定する）

ダイヤルインサービスを利用しないで、自分への着信を指定させるときにサブアドレスを使用します。かけてくる相手がINSネット64に加入している場合にだけ利用できる機能です。

動作

- サブアドレスのない着信は、自己サブアドレス登録の有無にかかわらず着信を受け付けます。
- サブアドレスがある着信は、登録した自己サブアドレスと全桁照合して一致したら着信を受け付けます。

着信時のサブアドレス通知 / 自己サブアドレス登録	なし	あり
なし	○（注）	×
あり	○（注）	○ (一致した時) × (不一致の時)

○：着信を受け付ける　×：着信を受け付けない

Atermの設定を「サブアドレスなし着信をしない」に設定するとX（着信を受け付けない）ようになります。

設定方法

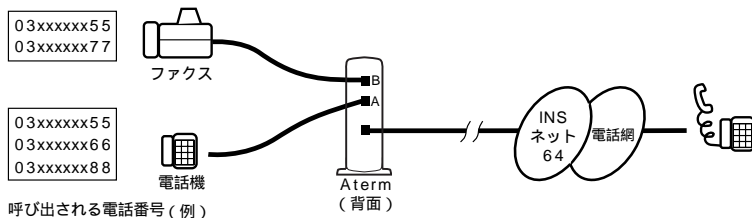
自己サブアドレスを登録します。

Windows98/Windows95, Windows NT4.0 ☞ 5-8ページ
Macintosh ☞ 5-31ページ
電話機 ☞ 5-47ページ

着信ダイヤルイン複数選択

1つのアナログポートに複数の電話番号で着信することができます。

動作

電話番号によって設定したポートの電話機に着信します。

設定方法

契約者回線番号やダイヤルイン番号登録と着信するポートを選択します。
Windows98/Windows95、WindowsNT4.0 ☞5-5 ページ
Macintosh ☞5-30 ページ
電話機 ☞5-47 ページ

コールウェイティング

（通信中にかかってきた電話を受ける）

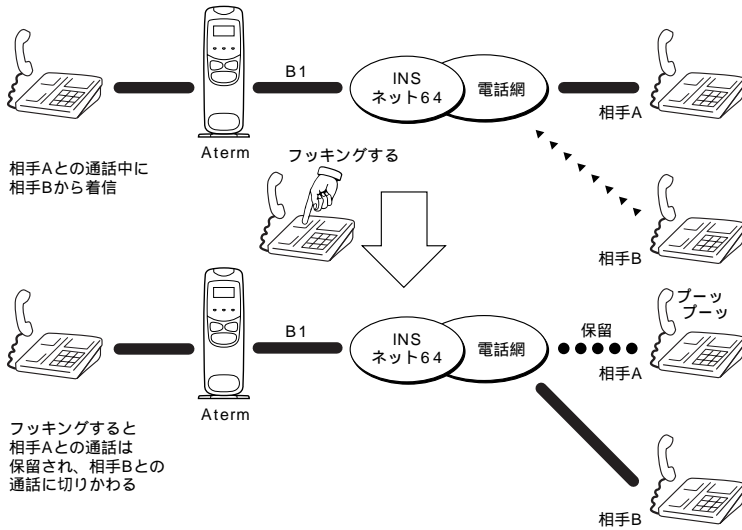
通話中に別の相手から着信があった場合、現在通話中の相手を保留することができる機能です。保留されている相手には保留音が流れます。
コールウェイティングには次の2種類があります。

1. 疑似コールウェイティング
Atermの機能として疑似的にコールウェイティングをおこなうので、INSネット64の付加サービス契約をしなくても利用することができますが、INSネット64のB1、B2チャネルを両方使うので、内線通話以外の通信はできません。

2. INSネット64の付加サービスフレックスホンのコールウェイティング（NTTコールウェイティング）
INSネット64の付加サービスの契約が必要になり、月々の付加サービス使用料がかかりますが、疑似コールウェイティングと違い、使用するBチャネルは1つだけなので空いているポートを使用することができます。

利用条件

疑似コールウェイティング中は、内線通話以外の通信はできません。

操作方法

ステップ1　**通話中に新たな相手から着信があると「ププッ」という音が聞こえます**

ステップ2　**フッキングして新たな相手と通話します**

ステップ3　**通話相手を切り替えるときは、もう一度フッキングします**

設定方法

疑似コールウェイティングまたはNTT コールウェイティングを選択します。

Windows98/Wndows95、Windows NT4.0 ☞5-3 ページ

Macintosh ☞5-31 ページ

電話機

受話器をあげる→【＊】【＊】【1】【＊】【下記】【＊】【0】【2】【＊】【下記】【#】【#】→受話器を置く

1：Aポート　　1：NTTコールウェイティング
2：Bポート　　2：疑似コールウェイティング

電話機能を持つファクスやモデムをコールウェイティング設定した場合、通信中に着信があると通信エラーになりますのでご注意ください。

選択コールウェイティング

（通話中にかかってきた特定の電話だけを受ける）

通話中に特定の相手から着信があった場合だけ、現在通話中の相手を保留することができる機能です。保留されている相手には保留音が流れます。

選択コールウェイティングには、次の 2 種類があります。

1. **疑似選択コールウェイティング**
   Atermが持っている機能です。通話中に疑似識別着信用の電話帳に登録した電話番号からの着信があると割込音を鳴らして電話がかかってきていることを知らせます。疑似識別着信用の電話帳には最大 30 件までの電話番号を登録することができます。
2. **INS なりわけコールウェイティング**
   INSネット64のINSなりわけサービスの選択コールウェイティング機能を使います。INS ネット 64 付加サービスの INS なりわけサービスの契約と月々の使用料がかかります。通話中にINSなりわけサービスに登録した電話番号からの着信があると割込音を鳴らして電話がかかってきていることを知らせます。
   INS なりわけサービス ☞2-34 ページ

動作

- 疑似選択コールウェイティングを使用した場合は、通話中に疑似識別着信用の電話帳に登録した電話番号からの着信があると割込音を鳴らします。それ以外の電話番号からの着信には割込音は鳴らしません。
- INSなりわけコールウェイティングを使用した場合は、通話中にINSなりわけサービス契約後に登録した電話番号からの着信があると割込音を鳴らします。それ以外の電話番号からの着信には割込音は鳴らしません。
- 識別着信と選択コールウェイティングを同時にご利用になることはできません。

設定方法

識別着信の選択と「通話中着信時のみ使用可能」を設定します。
疑似選択コールウェイティングを選択した場合は、疑似識別着信用の電話帳に電話番号を登録します。

Windows98/Windows95、WindowsNT4.0 ☞5-8,5-11 ページ
Macintosh ☞5-36,5-41 ページ
電話機 ☞5-47 ページ

お出かけ設定

お出かけ設定には、おやすみモード／電話着信転送モード／ボイスワープ転送モード／フラッシュモードの4種類があります。設定には、Aterm前面部のボタンを使います。でかけるボタンを押すと設定したモード名が液晶ディスプレイ部に表示されるとともにでかけるボタンが点灯し、設定モードに入ります。

動作

● **「おやすみモード」** に設定すると、かかってきた電話の呼出音は鳴らさずに、液晶ディスプレイのアナログポートのピクトグラム（A、B）を点滅表示させて知らせます。
着信している電話の受話器をあげると、通話することができます。
おやすみモード中に着信があると、その後はでかけるボタンが点滅したままになります。

- **おやすみモード中の着信をコードレス電話の子機で応答する場合は、子機の「通話」や「外線」ボタンを押してください。ボタンを押さないと、機種によっては数十秒で通話が切れることがあります。**
- **[ナンバーディスプレイを使用する]の設定になっているアナログポートに着信があった場合、接続している電話機によっては発信者番号表示をおこなわないものもあります。**
- **[モデム・ダイヤルインを使用する]の設定になっているアナログポートに着信があった場合、呼出音を鳴らさないので着信している電話機が分からなくなることがあります。**
- **[アナログ・ダイヤルインを使用する]の設定になっているアナログポートに着信があった場合、電話機への着信はおこなわれません。**
- **おやすみモードやフラッシュモード中は、留守番電話は使用できません。**

● **「電話着信転送モード」** には、次のものがあります。

- **「着信転送」** ☞**2-27 ページ**
  （INS ネット 64 の付加サービス「着信転送機能」の契約が必要）
- **「疑似着信転送」** ☞**2-27 ページ**
  （INS ネット 64 の付加サービス契約不要）
- **「電話番号着信転送（遊遊メール）」** ☞**3-15 ページ**
  （NECのインターネットプロバイダ「BIGLOBE」の加入、「遊遊メール」の契約、INS ネット 64 の「コンサルティング項目」の「発信者番号通知サービス」の契約が必要です。設定のしかたは3-3章の「電子メール着信通知やUUIメール・遊遊メールを利用する」（☞**3-15 ページ**）を参照してください。）

  このモードに設定すると、発信者番号通知している電話がかかってきた場合、着信した電話番号を遊遊メール形式にして「BIGLOBE」のメールサーバへ自動的に送信しますので、電子メールを受信して着信した電話番号を知ることができます。

例えば、03 － 1234 － 5678 から着信があった場合は、Aterm が自動的に「0312345678 カラチャクシン」のメッセージを作成し、電子メールアドレスを付加した UUI メールとして「BIGLOBE」に送信します。不在の場合でも、電子メールで電話があったことを確認することができます。
電話番号着信転送時は電話機の呼出音が鳴ります。

● **「ボイスワープ転送モード」**では、電話がかかってきたときに、これをボイスワープで他の電話に転送します。でかけるボタンを押すと Aterm がボイスワープセンタに自動的に電話をかけて「サービス開始」をおこないます。でかけるボタン点灯時にでかけるボタンを再度押すと Aterm が「ボイスワープセンタ」に自動的に電話をかけて「サービス停止」をおこないます。ボイスワープセンタの電話番号はあらかじめ設定しておきます。
「INS ボイスワープ、INS ボイスワープセレクト」**2-33 ページ**をご覧ください。

● **「フラッシュモード」**はかかってきた電話の呼出音は鳴らさずに、でかけるボタンのランプを点滅させて知らせます。
おやすみモードでは、いったん着信があると、その後はでかけるボタンが点滅したままになりますが、フラッシュモードでは電話がかかってきたときのみ点滅し、それ以外のときは点灯になります。
フラッシュモードはおやすみ中に着信を受け付けないために準備しているモードです。そのため着信時に、どのポートへの着信であるかを液晶ディスプレイに表示することはありません。
着信音を鳴らさずに、着信ポートを識別するためにはおやすみモードに設定してご利用ください。

起動 / 解除方法

でかけるボタンを押します。ランプが点灯すれば起動中です。
でかけるボタンをロックしていると、お出かけ設定されません。誤ってボタンを押してお出かけ設定モードになってしまうことを防ぐことができます。

●でかけるボタンをロックする

Aterm 前面の SELECT ボタンを押しながら、でかけるボタンを押します。

デ゛カケルホ゛タンヲ ロックシマシタ

●でかけるボタンロックを解除する

再度、Aterm 前面の SELECT ボタンを押しながら、でかけるボタンを押します。

デ゛カケルホ゛タンヲ ロックカイシ゛ョシマシタ

設定方法

お出かけ設定の選択をします。
「電話着信転送モード」や「ボイスワープ転送モード」を選択した場合はそれぞれに詳細な設定も必要です。

Windows98/Windows95、Windows NT4.0 ☞5-14 ページ
Macintosh ☞5-38 ページ

● おやすみモードに設定する

Aterm 前面部のボタンを使って操作します。
操作を途中で止めるときは MENU ボタンを押します。

Aterm の液晶ディスプレイ

① **MENU ボタンを押します**

1：チャクシンリレキ

② **SELECT ボタンを 2 回押します**

3：オデ゛カケモード

③ **ENTER ボタンを押します**
「オデカケモードノセッテイデス」を 5 秒間表示した後、「1：オヤスミモード」が表示されます。

オデ゛カケモード゛ノ セッテイデ゛ス

⇩ 5 秒後

1：オヤスミモード゛

④ **ENTER ボタンを押します**
おやすみモードに設定されました。

オヤスミモード゛ニ セッテイシマシタ

● 電話着信転送モードに設定する

Aterm 前面部のボタンを使って操作します。
操作を途中で止めるときは MENU ボタンを押します。
電話着信転送モードに設定するには、あらかじめ着信転送および UUI メールの設定をしておく必要があります。着信転送の設定は「らくらくユーティリティ」を使っておこないます。
着信転送の電話番号が設定されていない場合やINSボイスワープを契約した電話番号を設定していない場合は、④のときに「バンゴウヲセッテイシテクダサイ」が表示されます。

Atermの液晶ディスプレイ

① MENU ボタンを押します

1：チャクシンリレキ

② SELECT ボタンを 2 回押します

3：オデ゛カケモード

③ ENTER ボタンを押します

「オデカケモードノセッテイデス」を 5 秒間表示した後、「1：オヤスミモード」が表示されます。

オデ゛カケモード゛ノ セッテイデ゛ス

⇩ 5 秒後

1：オヤスミモード゛

④ SELECT ボタンを押します

SELECT ボタンを押すたびに次のように変わります。
「3：ボイスワープセッテイ」→「4：フラッシュモード」→「1：オヤスミモード」→「2：デンワテンソウスル」

2：デ゛ンワテンソウスル

⑤ ENTER ボタンを押します

電話着信転送モードに設定されました。

着信転送設定が NTT 着信転送に設定されているときは、「NTT チャクシンテンソウニセッテイシマシタ」が表示されます。
着信転送設定が疑似着信転送に設定されているときは、「ギジチャクシンテンソウ」が表示されます。
着信転送設定が遊遊メール転送に設定されているときは「デンワバンゴウヲメールシマス」が表示されます。

※ 着信転送の設定は、らくらくユーティリティでおこないます。

● ボイスワープ転送モードに設定する

Aterm 前面部のボタンを使って操作します。
操作を途中で止めるときは MENU ボタンを押します。

Aterm の液晶ディスプレイ

① **MENU ボタンを押します**

1：チャクシンリレキ

② **SELECT ボタンを 2 回押します**

3：オデ゛カケモート゛

③ **ENTER ボタンを押します**
「オデカケモードノセッテイデス」を 5 秒間表示した後、「1：オヤスミモード」が表示されます。

オデ゛カケモート゛ノ セッテイデ゛ス

⇩ 5 秒後

1：オヤスミモート゛

④ **SELECT ボタンを 2 回押して、「3：ボイスワープセッテイ」を表示させます**
SELECT ボタンを押すたびに次のように変わります。
「4：フラッシュモード」→「1：オヤスミモード」→「2：デンワテンソウスル」→「3：ボイスワープセッテイ」

3：ホ゛イスワーフ゜ セッテイ

⑤ **ENTER ボタンを押します**
ボイスワープ転送に設定されました。

ホ゛イスワーフ゜ニ セッテイシマシタ

● フラッシュモードに設定する

Aterm 前面部のボタンを使って操作します。
操作を途中で止めるときは MENU ボタンを押します。

Aterm の液晶ディスプレイ

① **MENU ボタンを押します**

1：チャクシンリレキ

② **SELECT ボタンを 2 回押します**

3：オデ゛カケモード゛

③ **ENTER ボタンを押します**
「オデカケモードノセッテイデス」を 5 秒間表示した後、「1：オヤスミモード」が表示されます。

オデ゛カケモード゛ノ
セッテイデ゛ス

5 秒後

1：オヤスミモード゛

④ **SELECT ボタンを 3 回押して、「4：フラッシュモード」を表示させます**
SELECT ボタンを押すたびに次のように変わります。
「1：オヤスミモード」→「2：デンワテンソウスル」→「3：ボイスワープセッテイ」→「4：フラッシュモード」

4：フラッシュモード゛

⑤ **ENTER ボタンを押します**
フラッシュモードに設定されました。

フラッシュモード゛ニ
セッテイシマシタ

2-3. 電話を転送する

内線転送

(かかってきた電話を他の内線にまわす)

外線からかかってきた電話やファクスを、他のアナログポートの電話機またはファクスに転送することができます。

操作方法

①**外線と通話中に１回フッキングします**
　プププと聞こえます。(外線相手には疑似保留音が聞こえます)

②**【＃】【＊】<u>【呼び出す電話機の番号】</u>を続けて押します**
　【1】：アナログ A ポートの電話機
　【2】：アナログ B ポートの電話機

③ **転送先の呼出音が鳴ります。受話器を置きます。**

③**転送先の呼出音が鳴り、転送先の相手がでたら転送することを伝えて受話器を置きます。**

④**外線相手と転送相手が通話できます。**

設定方法

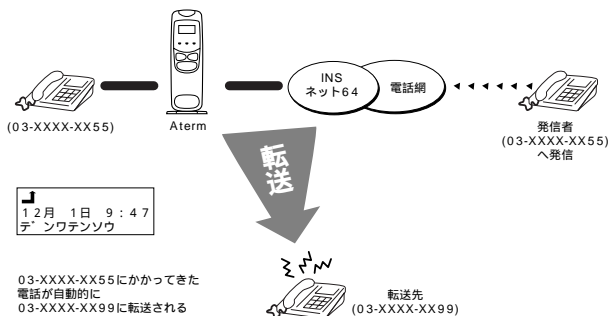
初期状態で使用できます。

- **同一回線にバス接続されている別のターミナルアダプタのアナログポートに接続した電話機への転送はできません。**
- **停電時はご利用できません。**
- **転送中(相手を呼出中)にフッキングすると、相手の呼び出しをやめて通話を再開します。**
- **フッキング後、次の操作をしないでしばらくすると通話に戻ります。**
- **三者通話ご利用中は、内線転送はできません。**

着信転送

（かかってきた電話を別の電話番号につなげる）

かかってきた電話を、登録しておいた番号へ自動的に転送します。
着信転送には次の2種類があります。

1. **疑似着信転送**
   Atermの機能として着信転送をおこなうので、INSネット64の付加サービス契約をしなくても利用することができますが、INSネット64のB1、B2チャネルを両方使うので、内線通話以外の通信はできません。
2. **INSネット64の付加サービスの着信転送**
   INSネット64の付加サービス契約が必要になり、月々の付加サービス使用料がかかりますが、疑似着信転送と違い、使用するBチャネルは1つだけなので空いているポートを使用することができます。

利用条件

- 疑似着信転送中は、内線通話以外の通信はできません。
- 疑似着信転送の場合、転送トーキや転送元トーキは流れません。

設定方法

着信転送の選択と転送元・転送先の電話番号を登録した後、でかけるボタンを押します。
Windows98/Windows95, Windows NT4.0 ☞ 5-14,5-15ページ
Macintosh ☞ 5-32,5-33ページ
電話機 ☞ 5-47ページ

補足説明

- 設定すると、液晶ディスプレイに「↑」のピクトグラムが表示されます。
- Atermまでの通話料金は発信者に、Atermから転送先の通話料金はAterm側にかかります。疑似着信転送を使う場合、かかった料金はアナログAポートに蓄積されます。
- この機能はアナログポートに電話機を接続しなくても利用できます。
- Atermに着信があっても呼出音は鳴りません。
- 疑似着信転送を使う場合、INSネット64申し込み内容が通常通知（通話ごと非通知）ならば、転送先には契約者回線番号を通知します。

識別着信転送

（かかってきた特別の電話を別の電話番号につなげる）

特定の相手からかかってきた電話を、登録しておいた番号へ自動的に転送します。
着信転送（疑似着信転送、着信転送）の転送条件を次の 2 種類から選択することにより識別着信転送をおこないます。

1. 疑似識別着信 ☞2-12 ページ
2. INS なりわけのセキュリティ機能 ☞2-34 ページ

設定方法

●識別着信の設定をおこないます。
Windows98/Windows95, Windows NT4.0 ☞ 5-8 ページ
Macintosh ☞ 5-41 ページ
電話機 ☞ 5-47 ページ

●着信転送の設定をおこないます。
併せて、転送条件と転送元・転送先の電話番号を登録します。
Windows98/Windows95, Windows NT4.0 ☞ 5-14,5-15 ページ
Macintosh ☞ 5-32,5-33 ページ
電話機 ☞ 5-47 ページ

通信中転送 ☞ 2-37 ページ

2-4. 着信履歴を見る／かける

着信履歴表示／着信履歴先発信

最新の着信履歴を 50 件まで蓄積することができます。
着信履歴として発信者番号、着信時間、応答の有無、応答したアナログポートの情報を液晶ディスプレイに表示します。また、着信履歴を確認しながらその電話番号に発信する着信履歴先発信もできます。
51 件以降は、古い履歴順に自動的に上書きされるため削除されます。

操作方法

着信履歴表示／着信履歴先発信は、Aterm前面のボタンを使っても同様の操作をすることができます。**☞1-9, 1-10ページをご覧ください。**

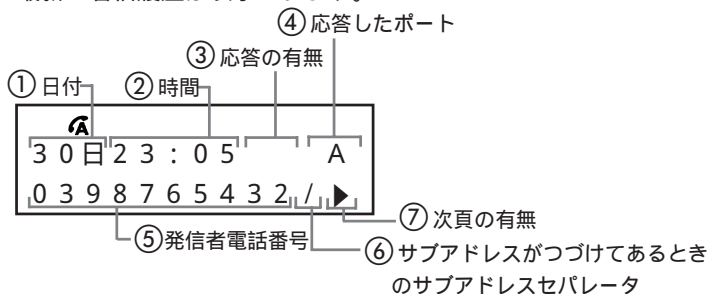
Aterm の液晶ディスプレイ

12月　1日　　9：47

ステップ1 **受話器をあげます**

接続してある電話機のどれからでも表示できます。

ステップ2 **【*】【*】【5】【1】を押します**

最新の着信履歴が表示されます。

① 着信した日付を表示します。
② 着信した時間を表示します。
③「○」は応答したことをあらわします。「×」は応答していないことをあらわします。
④ 応答した場合、ここに応答したポートを表示します。
⑤ 発信者電話番号を表示します。発信者番号が「ヒツウチ、コウシュウデンワ、ヒョウジケンガイ」のときは、電話番号の替わりにそれぞれの表示をします。☞**1-8ページ**
⑥ サブアドレスがつづけてあるときのサブアドレスセパレータをあらわします。
⑦「▶」は続きの情報があることをあらわします。
以下の操作で着信履歴を参照してください。

● 次の頁を見るときは、【6】を押します。

● 前の頁に戻るときは、【4】を押します。

● １つ新しい履歴を表示するときは、【2】を押します。
１つ新しい履歴が無い場合は、一番古い履歴が表示されます。

● １つ古い履歴を表示するときは、【8】を押します。
１つ古い履歴が無い場合は、一番新しい履歴が表示されます。

ステップ3 **着信履歴先に電話をかけるときは、電話番号が表示されているときに【#】を押します**

● 履歴データを消去するときは、【*】を押します。

もう一度【*】を押すと「ショウキョシマシタ」が表示され、すべての履歴データが消去されます。

ステップ4 **終了するときは受話器を置きます**

Atermの液晶ディスプレイ

３０日２３：０５ ○ Ａ
０３９８７６５４３２／ ▶

◀０１２３４■

３０日２３：０５ ○ Ａ
０３９８７６５４３２／ ▶

１日 １：２０ ○ Ｂ
Ｐ：ヒツウチ

３０日２３：０５ ○ Ａ
０３９８７６５４３２／ ▶

アナログ゛ Ａ ハッシン
０３９８７６５４３２／０

ショウキョシマス

ショウキョシマシタ

１２月 １日 ９：５５

Atermの電源を切ると、全ての着信履歴データは消去されます。

2-5. INSネット64のサービスについて

i・ナンバー

INS ネット 64 のi・ナンバーを利用すると、2 つの電話番号を持つことができます。
相手の方がかけてきたときに通知されるi・ナンバー情報ごとに、着信するポートを特定することができます。
1 つ目の電話番号（契約者回線番号）がi・ナンバー情報 1、2 つ目の電話番号（ダイヤルイン番号）がi・ナンバー情報 2 となります。

利用条件

INS ネット 64 の契約時にi・ナンバーの契約をします。

設定方法

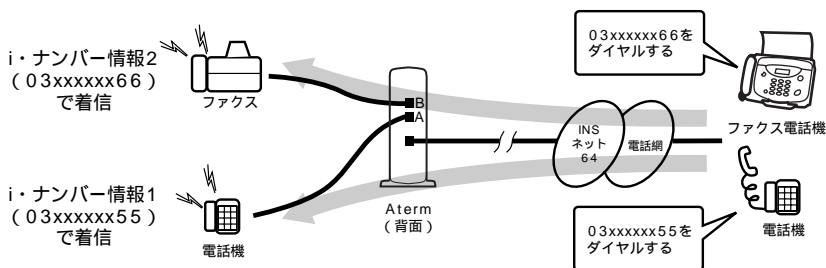
- 「i・ナンバーを使用する」に設定します。
- 「i・ナンバーに対応する電話番号」の入力と「着信するポート」を選択します。

Windows98/Windows95, Windows NT4.0 ☞ 5-6 ページ
Macintosh ☞5-29 ページ
電話機 ☞ 『はじめにお読みください』3-43 ページ

i・ナンバーで電話機とファクスを呼び分ける例

アナログポート	アナログポート接続機器
A	電話機（工場出荷状態）
B	FAX ／モデム

	電話番号	着信するポート	
		A	B
i・ナンバー情報 1	03xxxxxx55	✔	
i・ナンバー情報 2	03xxxxxx66		✔

※ アナログポートを［使用しない］に設定した場合は、どの着信も受け付けません。

ダイヤルインサービス

INS ネット 64 のダイヤルインサービスを利用すると、2 つ以上の番号で各アナログポートを呼び分けることができます。

利用条件

INSネット64の契約時にダイヤルインサービスを契約します。同時に「グローバル着信」を［利用］という項目に必ずチェックをしてください。

設定方法

- 「契約者回線番号のグローバル着信」を「利用する」にします。
- 「着信番号」の入力と「着信するポート」を選択します。
- 契約者回線番号（グローバル着信）への呼び出しの場合には、INS ネット 64 から着信番号情報が通知されません。
- ダイヤルイン番号への呼び出しの場合には、INS ネット 64 から着信では番号情報が通知されるので、その情報をもとに通信機器を呼び分けられます。

※ **契約者回線番号（グローバル着信）への着信を特定のポート呼びだしに使用すればダイヤルイン番号１つ分として使うことができます。**

Windows98/Windows95, Windows NT4.0 ☞ 5-5 ページ
Macintosh ☞ 5-29,5-30 ページ
電話機 ☞ 5-47 ページ

●契約者回線番号で呼び出す場合

- 契約者回線のグローバル着信を［利用する］に設定（工場出荷状態）
- 電話番号に契約者回線番号を入力してから契約者回線番号で着信するポートを選択

［グローバル着信を利用する］に設定することで、契約者回線番号の着信では電話番号の通知がなくても呼び出します。
ダイヤルイン番号の着信は、選択した番号と異なる番号が通知されるので、呼び出しません。

●ダイヤルイン番号で呼び出す場合

- 電話番号のダイヤル1番から7番まで契約した数のダイヤルイン番号を入力してから着信するポートを選択

電話番号の通知がない契約者回線番号の着信は呼び出しません。ダイヤルイン番号の着信は、電話番号が通知されるので、選択した番号と同じ場合に呼び出します。

INS ネット 64 契約が、「グローバル着信」を［利用］となっていても、Atermの設定がグローバル着信を［利用しない］となっている場合には、そのポートは契約者回線番号で呼び出しできなくなりますので注意してください。

INS ボイスワープ、INS ボイスワープセレクト

「INS ボイスワープ」、「INS ボイスワープセレクト」はフレックスホンの着信転送サービスとは異なり、ネットワーク転送型の転送サービスです。
INS ボイスワープ、INS ボイスワープセレクトの詳細については、INS ネット 64 の窓口にお問い合わせください。
Atermは、INSボイスワープ、INSボイスワープセレクトに対応したスティミュラスプロトコル手順をサポートしておりますので、これらサービスの全ての機能をご利用になることができます。

利用条件

INS ネット 64 の付加サービスの「INSボイスワープ」「INSボイスワープセレクト」を契約します。

設定方法

INSボイスワープは、契約者回線番号、ダイヤルイン番号毎におこないます。INSボイスワープを契約した番号を契約電話番号や起動用契約者番号として登録します。設定後、でかけるボタンを押します。
Windows98/Windows95, Windows NT4.0 ☞ 5-16 ページ
Macintosh ☞ 5-39 ページ
電話機 ☞ 5-47 ページ

補足説明

転送先の電話番号は電話機を使用し、INS ボイスワープの説明書を参照して設定してください。

INS なりわけサービス

INS なりわけサービスは、特定の相手からの着信であることを知らせるサービスです。あらかじめ登録した電話番号からの着信には「識別着信情報」を付加した着信がおこなわれ、登録されていない電話番号からの着信には「識別着信情報」のない通常の着信がおこなわれます。この「識別着信情報」の有無によって Aterm は、次のような機能を使うことができます。

- **識別リンギング機能** ☞ 2-13 ページ
  あらかじめ登録した電話番号からの着信を通常とは異なる呼出音で知らせます。
- **セキュリティ機能** ☞ 2-12 ページ
  あらかじめ登録した電話番号からの着信だけをおこないます。登録していない電話番号からの着信はおこないません。
- **選択コールウェイティング機能** ☞ 2-12 ページ
  通信中に着信があった場合、あらかじめ登録した番号からの着信だけに割込音を鳴らして知らせます。

INSなりわけサービスを利用するには、接続されている通信機器が「スティミュラスプロトコル（キーパッドプロトコル）手順」をサポートしている必要がありますが、Atermは、この手順をサポートしています。
電話番号の登録には、Atermのアナログポートに接続した電話機を使っておこないます。
INSなりわけサービスの詳細については、INSネット64の窓口にお問い合わせください。

利用条件

INS ネット 64 の付加サービスの「INS なりわけサービス」を契約します。

設定方法

INS なりわけサービスは、i・ナンバーまたは契約者回線番号、ダイヤルイン番号毎におこないます。
INS なりわけサービスを契約した番号を発信者通知番号として登録します。
Windows98/Windows95, Windows NT4.0 ☞5-4 ページ
Macintosh ☞ 5-29,5-30 ページ
電話機 ☞『はじめにお読みください』3-40, 3-41 ページ

補足説明

電話機の設定や種類によっては鳴らないことがあります。

INS ナンバー・ディスプレイ（オプション：INS ナンバー・リクエスト）

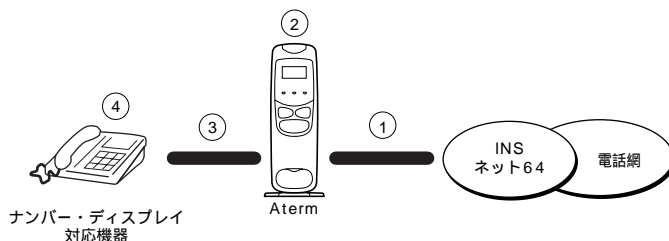
電話に出る前に発信者電話番号がAtermの液晶ディスプレイやナンバー・ディスプレイ対応の電話に表示されます。
着信時に発信者の電話番号を、または番号が通知されないときにその理由を通知するサービスです。

もともと、相手がINS ネット 64 加入者、デジタル携帯電話、PHS からの着信では、相手の電話番号を、Aterm の液晶ディスプレイとアナログポートに接続したナンバー・ディスプレイ対応機器に表示させることができます。INS ナンバー・ディスプレイサービスに加入すれば、アナログ網からの発信電話番号も表示できるようになります。

利用条件

INS ネット 64 の付加サービスの「INS ナンバー・ディスプレイ」を契約します。

動作

① ネットワークから発信者番号が付加された着信があります。（液晶ディスプレイにはこの時点で番号が表示されます）
② その発信者番号をモデム信号に変換します。
③「ナンバーディスプレイを使用する」と設定したアナログポート（A か B）にモデム信号を送出します（電話機は鳴動しません）。
④ モデム信号を受信したナンバー・ディスプレイ対応機器が発信者番号を表示します。

設定方法

- 「ナンバーディスプレイを使用する」に設定します。
- サブアドレス表示対応のナンバー・ディスプレイ対応機器にサブアドレスも表示させるには「サブアドレスを通知する」に設定します。

Windows98/Windows95, Windows NT4.0 ☞ 5-3,5-8 ページ
Macintosh ☞ 5-42 ページ
電話機 ☞ 5-47 ページ

電話番号以外の表示

■ **相手が通常非通知（回線ごと非通知）、または一般電話・公衆電話から「184」（イヤヨ）をつけた場合**

→「ヒツウチ」と表示されます。

■ **相手が公衆電話からかけた場合**

→「コウシュウデンワ」と表示されます。

■ **相手がサービス地域以外の電話からかけた場合**

→「ヒョウジケンガイ」と表示されます。

補足説明

- ナンバー・ディスプレイ対応機器の機種によっては、発信者番号が正常に表示されない場合があります。
- ナンバー・ディスプレイ対応機器の通話中に新たな着信があっても発信者番号は表示されません。また通話が終了してすぐに呼出音が鳴った場合にも発信者番号は表示されません。
- INS ナンバー・ディスプレイ着信中はらくらくユーティリティの OK や 登録 ボタンをクリックしないでください。
- 1つのアナログポートに複数のアナログ端末を接続した場合には、ナンバー・ディスプレイ対応機器が接続されていても正常に発信者番号通知をおこなえません。
- PHS 事業者・デジタル携帯電話によっては表示がおこなわれない場合があります。
- INSナンバー・ディスプレイサービスに加入していない場合で、Atermを「ナンバーディスプレイを使用する」に設定するとアナログ網から着信があった場合、Atermに相手の電話番号は表示されません。また、接続したナンバー・ディスプレイ対応機器は「ヒョウジケンガイ」と表示されます。

オプション：INS ナンバー・リクエスト

（INS ナンバー・ディスプレイをご契約の方がお申し込みいただけるオプションです）
電話番号を「通知しない」でかけてきた相手に、「こちらは○○○△△△の□□□□です。おそれいりますが、あなたの電話番号を通知しておかけ直しください」と音声で伝える機能です。
この場合、着信音は鳴りません。（かけた人は電話料金がかかります。）
INS ナンバー・リクエストをご利用になるには、Aterm に接続した電話機のダイヤル操作で設定することが必要です。詳細は、INS ネット 64 のINS ナンバー・リクエストの説明をご覧ください。

利用条件

INS ネット 64 の付加サービスの「INS ナンバー・ディスプレイ」のオプションの「ナンバー・リクエスト」を契約します。

通信中転送

（かかってきた電話を他の人に転送する）

通話中に別の相手を呼び出して、通話を転送できます。
B チャンネルは 1 本のみ使用するので、空いているポートを使用することができます。

操作方法

ステップ1 **通話中にフッキングします**

ステップ2 **「プププ…」という音が聞こえるので、転送先の電話番号をダイヤルします**

通話相手には、保留音が聞こえます。

ステップ3 **転送先の相手と通話します**

ステップ4 **もう一度フッキングします**

ステップ5 **「プップッ、プップッ」という音が聞こえている間に受話器を置きます**

通話中だった相手と、転送した相手が通話できます。

設定方法

アナログポートの設定をします。
Windows98/Windows95、Windows NT4.0 ☞5-17 ページ
Macintosh ☞5-32 ページ
電話機
受話器をあげる→【*】【*】【1】【*】【4】【*】【2】【6】【*】【下記】【#】【#】→受話器を置く
0：使用しない
1：使用する

転送先の相手が応答する前に転送する（応答前通信中転送）こともできます。
操作方法ステップ2で転送先の電話番号をダイヤルした後、転送先の相手が電話に出る前にフッキングしてから受話器をおいてください。

転送先がアナログのナンバー・ディスプレイを契約している回線の場合には、応答前通信中転送はご利用できません。
受話器をおいた後、着信音が鳴り転送をしません。

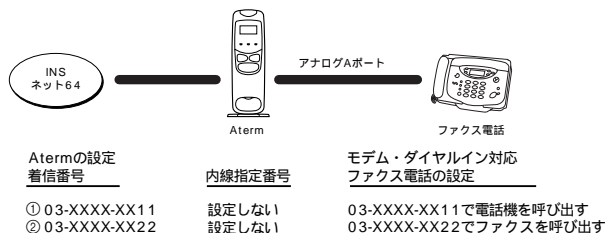
モデム・ダイヤルイン対応

着信時に着信した電話番号を、モデム信号で電話機等に送出するサービスです。モデム・ダイヤルイン対応の、ファクス電話のファクス着信と電話着信の呼びわけやホームテレホンの内線直接呼び出しなどで使用します。

利用条件

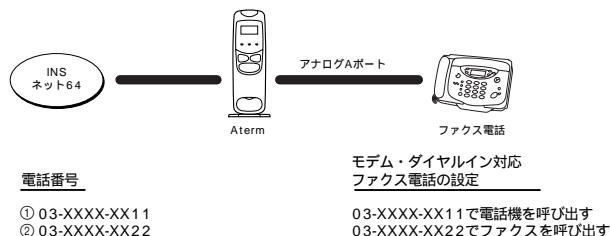
INSネット64の付加サービスのダイヤルインサービスまたはi・ナンバーの契約をされている場合にご使用になれます。

- **ダイヤルインサービスご利用の場合**

  各着信番号を設定したアナログポートを呼び出します。

※ 内線指定番号を設定すれば、着信番号（かかってきた電話番号）を内線指定番号に変換して送出します。

※ モデム・ダイヤルイン対応のファクス付き電話機に登録する電話番号は、その通信機器の取扱説明書によらず、市内局番から登録してください。

- **i・ナンバーをご利用の場合**

  i・ナンバーの設定により、設定した電話番号に対応するアナログポートを呼び出します。

※ モデム・ダイヤルイン対応のファクス付き電話機に登録する電話番号が市外局番からの場合は本装置の電話番号も市外局番から登録してください。市内局番の場合も同様に登録してください。

設定方法

- 「モデム・ダイヤルインを使用する」を設定します。
- ダイヤルインサービスをご利用の場合には、アナログポートに電話番号をそのまま送出か、内線指定番号に変換して送出するかを設定します。内線指定番号に変換するときは内線変換番号を入力します。1つのアナログポートに複数の番号を設定することができます。
  i・ナンバーをご利用の場合には、電話番号を入力します。
  1つのアナログポートに複数の番号を設定することができます。
- サブアドレスを送出する場合は、サブアドレスを通知する設定にします。

Windows98/Windows95, Windows NT4.0 ☞ 5-3 〜 5-7 ページ
Macintosh ☞ 5-28 〜 5-31,5-42 ページ
電話機 ☞ 5-47 ページ

補足説明

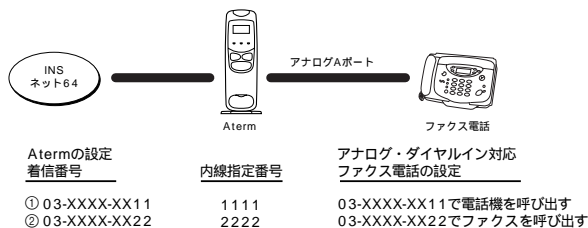
- INS ナンバー・ディスプレイ契約時は、アナログ・ダイヤルインは使用できません。モデム・ダイヤルインをご使用ください。
- ファクス付き電話機でコールウェイティングを設定したときは、電話中にファクスあての着信が入った場合も電話機に「ププッ」という音が聞こえます。
- ファクス付き電話機でリンガ呼び返し動作の場合は、ファクスと電話が両方呼び出されます。

アナログ・ダイヤルイン対応

着信時に着信した電話番号を、プッシュボタン信号で電話機等に送出するサービスです。アナログ・ダイヤルイン対応のファクス電話でファクス着信と電話着信の呼びわけやホームテレホンの内線直接呼び出しなどで使用します。

利用条件

INS ネット 64 の付加サービスのダイヤルインサービスまたはi・ナンバーの契約をされている場合にご使用になれます。

- **ダイヤルインサービスご利用の場合**
  各着信番号を設定したアナログポートを呼び出します。

※ 内線指定番号を設定すれば、着信番号（かかってきた電話番号）を内線指定番号に変換して送出します。

- **i・ナンバーをご利用の場合**
  i･ナンバーの設定により、設定した電話番号に対応するアナログポートを呼び出します。

電話番号	内線指定番号	アナログ・ダイヤルイン対応 ファクス電話の設定
① 03-XXXX-XX11	1111	03-XXXX-XX11で電話機を呼び出す
② 03-XXXX-XX22	2222	03-XXXX-XX22でファクスを呼び出す

設定方法

- 「アナログ・ダイヤルインを使用する」を設定します。
- アナログポートに電話番号を4桁の内線指定番号に変換して送出するように設定します。1 つのアナログポートに複数の番号を設定することができます。

Windows98/Windows95, Windows NT4.0 ☞ 5-3 〜 5-7 ページ
Macintosh ☞ 5-28 〜 5-31,5-42 ページ
電話機 ☞ 5-47 ページ

補足説明

- 「アナログ・ダイヤルインを使用する」に設定したアナログポートに対しては、内線通話や内線転送はできません。
- INS ナンバー・ディスプレイ契約時は、アナログ・ダイヤルインの使用はできませんので、モデム・ダイヤルイン機能をご使用ください。
- おやすみモード中、INS なりわけ、疑似なりわけ利用中ならびにブザー呼出時は、ご利用になれません。

3　便利な通信機能

Aterm に装備されている便利な
通信機能について説明しています。

3-1. 通信機能を利用する

非同期 / 同期 PPP 変換

非同期 PPP (Point to Point Protocol) 接続機能があるパソコンを ISDN 回線 64kbps（同期）のダイヤルアップ IP アクセスポイントを持つインターネットプロバイダに接続します。

設定方法

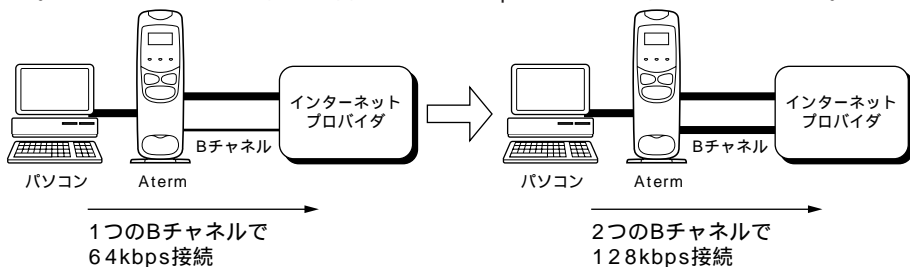
AT コマンド：at$n1=1
通常はインターネットアクセス時に使用するモデム定義ファイル（AtermIT SYNC115）やCCL ファイル（NEC AtermIT 64KPPP）で書かれているので、設定する必要はありません。

補足説明

ネットワークからの ACCM（※）を許容しない PPP アプリケーションをお使いの場合は、AT$N13=0 コマンドで ACCM を付加しないようにしてください。Windows98 や Windows95、Windows NT4.0 は ACCM を許容するので該当しません。

※ ACCM
Async Control Character Mapの略。非同期PPP通信で使用する制御キャラクタを2バイトのキャラクタに変換するかどうかを決めます。

128kbps マルチリンク PPP 通信

ISDN 回線 128kbps（同期）のダイヤルアップ IP アクセスポイントを持つインターネットプロバイダに接続します。
B1 チャネルでプロバイダに発信して PPP 接続を完了した後に、B2 チャネルで同様に発信します。2 つの B チャネルを使って合わせて 128kbps のデータ通信をおこないます。

設定方法

AT コマンド：at$n11=1
通常はインターネットアクセス時に使用するモデム定義ファイル（AtermIT MP128）やCCL ファイル（NEC AtermIT MP）で書かれているので、設定する必要はありません。

補足説明

- 128kbpsマルチリンクPPP通信状態になるとAtermのブザーが「ピッピッ」と鳴ります。
- 128kbpsマルチリンクPPP通信で発信しても、インターネットプロバイダのアクセスポイントのポートに空きが無い場合は､1つのBチャネルしか接続できない場合があります。このときは、自動的に同期64kbpsの通信となります。
- 128kbpsマルチリンクPPP通信では、ISDNの2つのBチャネルを使用します。その場合、通信料金はBチャネル1つしか使用しない電話や非同期通信、同期64K通信の倍かかります。また、通信時は、電話の発着信はできません。
- Atermのデータポートをお使いの場合､パソコン側のシリアルポートの速度は230.4kbpsにします。
  Windows98/Windows95では､230.4kbpsに対応した市販の高速RS-232Cポートを購入してください。Macintoshは、230.4kbps対応の機種をお使いください。
- 128kbpsマルチリンクPPP通信をおこなうためには､プロバイダ側が認証プロトコルとしてPAP（パスワード認証プロトコル）をサポートしている必要があり､2B目のPPPネゴシエーションは､1B目のネゴシエーションと同じ値を容認する必要があります。(プロバイダは、通常これらを容認しています。)
- ネットワークからのACCMを許容しないPPPアプリケーションをお使いの場合は、AT$N13=0コマンドでACCMを付加しないようにしてください。Windows 98やWindows 95、Windows NT4.0は、ACCMを許容するので該当しません。
- AtemIT75シリーズ/60/D/65EXシリーズ/65シリーズ/50DSU/55シリーズ/40/D/IWシリーズ同士であれば､128kbpsマルチリンクPPP通信を対向でおこなうことができます。このときは、発信側と着信側に、at$m8=0を設定してください。また、受信側は応答平均化機能を使用しないでください。
  なお、他の機種とは128kbpsマルチリンクPPP対向通信はできません。

BOD（Bandwidth on Demand）機能

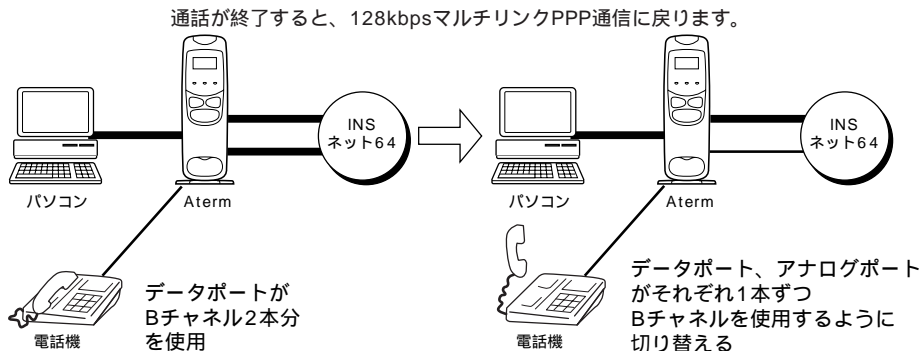
128kbpsマルチリンクPPP通信をおこなっているときに､通信データ量の多少または､アナログポートに接続している電話機の発着信によって､データ通信が使用するBチャネル数（1つまたは2つ）を自動的に変更する機能です。
通信データ量の多少によってBチャネル数を変更する方式を「スループットBOD」と呼び、アナログポートに接続している電話機の発着信によってBチャネル数を変更する方式を「リソースBOD」と呼びます。

●リソース BOD

128kbps マルチリンク PPP 通信では、データ通信で 2 つの B チャネルを使用するため、通常は、アナログポートの発着信はできません。しかし、リソース BOD を設定すると、アナログポートに接続した電話機の発着信があるとデータ通信で使用している B チャネルの 1 つを削除するため電話機を使用することができるようになります。

通話が終了すると、128kbpsマルチリンクPPP通信に戻ります。

パソコン
Aterm
INS ネット64
電話機
データポートが Bチャネル2本分 を使用

パソコン
Aterm
INS ネット64
電話機
データポート、アナログポート がそれぞれ1本ずつ Bチャネルを使用するように 切り替える

利用条件

INS ネット 64 の付加サービスの「通信中着信通知サービス」を契約します。

設定方法

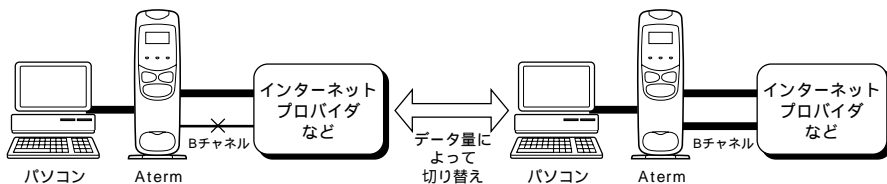
「リソース BOD」を設定します。

Windows98/Windows95, Windows NT4.0 ☞ 5-20 ページ
Macintosh☞ 5-45 ページ

補足説明

- 1 つの B チャネルを削除するときは、「ピッ」と音がします。通信終了時にも「ピッ」と音がすることがあります。
- プロバイダの混雑状況によっては、電話終了後に、2 つ目の B チャネルを追加できないことがあります。「ピッピッ」と鳴らないことで確認できます。このときは、電話機の受話器をあげる→2 秒待つ→戻す操作をすると、再度追加を試みます。
- 2 つ目の B チャネルの追加と電話をかけるタイミングがぶつかったときには、話中音が聞こえることがあります。再度かけなおしてください。
- リソース BOD とスループット BOD の両方を使用すると設定した場合は、B チャネルを削除するかしないかは、それぞれの BOD の削除条件によりますが、B チャネルを追加するのは、スループットがしきい値以上になった条件のときだけです。通話が終わっても条件が満たされなければ、B チャネルを追加しません。

●スループット BOD

「スループット BOD」では、通信データ量が少ないときには 1 つの B チャネルを使用し、多いときには 2 つの B チャネルを合わせて使用するので、通常は、2 つの B チャネルを使用する場合と比べて通信料金を節約することができます。

設定した「リンク追加算出時間」内の送出または受信データ量が「リンク追加しきい値」より大きくなれば、2 つ目の B チャネルを追加して、2 つの B チャネルを合わせて使用します。また、設定した「リンク削除算出時間」内の送出または受信データ量が「リンク削除しきい値」より小さくなれば、2 つ目の B チャネルを削除して、1 つの B チャネルだけを使用するようにします。

設定方法

「スループット BOD」と「リンク追加しきい値 / 算出時間」、「リンク削除しきい値 / 算出時間」を設定します。

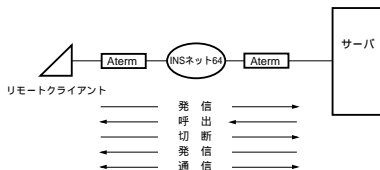
Windows98/Windows95, Windows NT4.0 ☞ 5-20 ページ
Macintosh ☞ 5-45 ページ

補足説明

- 「リンク追加」とは、B チャネルを追加することです。「リンク削除」とは、B チャネルを削除することです。
- 「しきい値」は、回線利用率（%）で示します。
  回線利用率（%）= 一定時間のデータ量の平均値／回線の最大データ量× 100
  ここで「回線の最大データ量」は、64kbps（=8kbyte/ 秒）と考えます。
- 例えば「リンク追加算出時間」が 30 秒、「リンク追加しきい値」が 70%の設定時は、30 秒間の回線利用率が70%より大きくなったときすなわち、30秒間のデータ量の平均値が 44.8kbps より大きくなったときに B チャネルを追加します。

スティルスコールバック

Atermを使ったクライアントとサーバのネットワークで、クライアント側から発信をおこなうと自動的にサーバ側 Aterm がクライアント側へかけ直します 。
スティルスコールバックを使用すると、例えば自宅 (リモートクライアント) ～会社 (サーバ) のネットワークで、自宅側の電話料金を発生させずに通信することができます。

次の手順でかけ直します。

利用条件

リモートクライアント側と同じ回線に複数のターミナルアダプタが接続されているときは、Atermを指定できるように、サブアドレスやダイヤルインを利用してください。指定しないとかけ直した時に他のターミナルアダプタが応答することがあります。

設定方法

クライアント（発信）側

- 「スティルスコールバックする」に設定します→ at$n10=1
- 「発信者通知番号設定」を「通知する」にします。（注）→ at$n12=1

Windows98/Windows95, Windows NT4.0☞ 5-18,5-23 ページ
Macintosh ☞ 5-30,5-44 ページ

- 「RS-CS フロー制御あり」（初期状態）にします。→ at\q3
- 「自動応答」（初期状態は RING1 回で自動応答）にします→ ats0=1

（注）相手に発信者番号を通知するように設定します。「INS ネット 64 契約」と「Aterm の設定」によって他の設定のしかたもできます。 ☞ **2-4,2-5 ページ**

サーバ（着信）側

- サーバの ER 信号をオンにしておきます。
- 「スティルスコールバックする」に設定します→ at$n10=1
- 「発信者通知番号設定」を「通知する」にします。→ at$n12=1

Windows98/Windows95, Windows NT4.0 ☞ 5-18,5-23 ページ
Macintosh ☞ 5-30,5-44 ページ

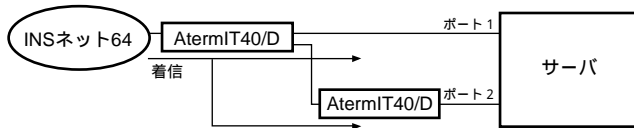
- 「RS-CS フロー制御あり」（初期状態）にします。→ at\q3
- 「自動応答」（初期状態は RING1 回で自動応答）にします→ ats0=1

補足説明

- AtermIW50/D/AtermIT75シリーズ/60/D/65EXシリーズ/65シリーズ/50DSU/55/45シリーズ/40/D/25DSU/IW シリーズ /IB55 シリーズ /IC20 でご利用できます。
- スティルスコールバックをおこなったかどうかは、通信の前後で累積通信料金が増えていないことで確認できます。
- 「スティルスコールバックする」に設定しておいても通常の発着信はおこなえます。
- 128kbps マルチリンク PPP 通信ではご利用になれません。
- アナログポートでは使用できません。

応答平均化

一本のINSネット64回線に複数のAtermが接続されているときに、各Atermへの着信応答を平均化することができます。この機能を使用すると、サーバに対する無効な着信を防止し、リソースの有効活用ができます。

下図の例で説明します。サーバは2台のAtermを介してINSネット64に接続されています。応答平均化機能がない場合、リモートクライアントからサーバにアクセスがあるとサーバのポート1とポート2に同時に着信がかかります。ここでサーバは両方のポートに応答しますが、早く応答したポートはリモートクライアントと通信状態になり、遅く応答したポートは接続に失敗して切断されてしまいます。このため、遅く応答したポートは着信から切断復旧まで次の着信を受けることができず、リソースが無効に消費されてしまいます。
ここで、応答平均化機能を設定すると、2台のAtermがサーバのポート1とポート2に交互に着信させることができるようになり、サーバへの無駄な着信が発生しなくなります。

利用条件

- 同一INSネット64回線に接続されているすべてのAtermを「応答平均化する」に設定してください。「応答平均化しない」ターミナルアダプタがあると着信順番は保証されません。

設定方法

「応答平均化する」と「接続端末数」を設定します。
Windows98/Windows95, Windows NT4.0 ☞ 5-23ページ
Macintosh ☞ 5-44ページ

補足説明

- AtermIW50/D/AtermIT75シリーズ/60/D/65EXシリーズ/65シリーズ/50DSU/55/45シリーズ/40/D/25DSU/IWシリーズ/IB55シリーズ/IC20でご利用できます。
- アナログポートでは使用できません。

無通信監視タイマ

接続したパソコンや通信相手とデータのやりとりがないときに、通信を切断します。うっかりした切断忘れを防止することができます。
監視時間は１～10分（初期値は10分）で１分刻みで設定でき、設定した時間内にデータのやりとりがなければ、通信を切断します。

設定方法

「無通信監視タイマ」と監視する時間を設定します。
Windows98/Windows95, Windows NT4.0 ☞ 5-21ページ
Macintosh ☞ 5-45ページ

補足説明

- インターネットのプロバイダによっては監視パケット等を定期的に発信する場合があります。この場合、無通信監視タイマが効かず、通信が切断されませんので、必ずパソコンから切断操作をおこなってください。

自動ボーレート検出

ハイパーターミナルなどの通信ソフトからATコマンドを入力するだけで、パソコンで設定した通信速度・データビット長・パリティビットをAtermが自動検出する機能です。速度検出が正常におこなわれると、パソコンの画面に「OK」が表示されます。

補足説明

- Atermの電源が切れると、検出した速度データは消去されます。保持したいときには、AT$Sコマンドを入力してください。
- ATは半角大文字 (AT) 、半角小文字 (at) のいずれでも検出できます。ただし、大文字・小文字の組み合わせ (Atまたは aT) は使用できません。

強制切断タイマ

通信時間が設定した時間を超えると強制的に通信を切断します。パソコンで切断操作をおこなっても、ソフトウェアが正常に動作しなくて切断できなかった場合の長時間接続を防止することができます。
設定時間は、1～10時間（初期値は10時間）で1時間刻みで設定でき、設定した時間、通信をおこなうと強制的に通信を切断します。

強制切断したくない場合は、必ず「切断しない」に設定してください。

設定方法

「強制切断タイマ」と時間を設定します。
Windows98/Windows95, Windows NT4.0 ☞ 5-21 ページ
Macintosh ☞ 5-44 ページ

補足説明

- 監視データを定期的に発信するので、無通信監視タイマが効かないプロバイダとの接続でもうっかりした切断忘れの防止ができます。
- Macintoshのモデム／プリンタポートは、通信ポートで一般的に使われるER信号とRS信号を一つの信号で制御しています。一般的にデータ通信では、RS-CSフロー制御を使いますが、Macintoshをお使いの場合、Atermは「ERを常にONとみなす」を設定しなければなりません。設定していないとデータ通信中にフローがかかった時にER信号（RS信号）がOFFになり、通信が切断されてしまうからです。これは、ER信号を使った切断ができないことを意味します。もう一つの切断方法は、ATコマンドで+++の後、ATHコマンドを送出することです。
  一般的に通信ソフトウェアは、切断時、この2つ（ER信号OFFと+++）を出しますが、ソフトウェアが異常動作をして、画面上は切断されているにもかかわらず、+++、ATHが送出されずに通信が切断できなくなることも考えられます。長時間接続して通信費用がかかるのを防止するためにも、強制切断タイマは設定しておくことをおすすめします。

識別着信

識別着信に登録した電話番号の相手のみ、着信させることができます。ただし、相手が発信者番号通知している場合のみ着信を受け付けることができます。本機能を設定すると、登録されていない相手からは着信しません。

設定方法

「識別着信する」と識別着信番号の登録をおこないます。
Windows98/Windows95, Windows NT4.0 ☞ 5-19 ページ
Macintosh ☞ 5-44 ページ

補足説明

- 識別着信番号に登録した番号は､3つのアナログポートとデータポートで共用になります。
- 識別着信番号に何も登録しないと、どこからの着信も受け付けません。
- 登録した番号と通知された番号は､桁数の末尾から短い桁数の番号まで照合して一致したときに着信を受け付けます。

着信ダイヤルイン複数選択（データポート）

契約者回線番号とダイヤルイン番号の中から､着信する電話番号を複数選択することができます。

動作

選択した電話番号に着信します。

設定方法

Windows98/Windows95, Windows NT4.0 ☞ 5-5 ページ
Macintosh ☞ 5-30 ページ

CS 遅延時間

パソコンからのRS信号がオフからオンになったとき、設定時間だけCS信号を遅延させてオンにすることができます。RSオンのV.110速度整合方式でのサンプリングのタイミングや中継網の関係で、RS オンに対応した CS オンが、通信相手端末が CD オンを受信するより早くなる場合があります。この時、CS オンを受信したパソコンはデータを送り始めますが、通信相手がCDオンでないため送られてきたデータを受信できないことがあります。このために、データ速度の24ビット分に設定した時間を足した時間分、CS信号を遅延してONにします。

設定方法

- 「フロー制御なし」に設定→ AT&K0、AT\Q0 ☞ **6-17, 6-21 ページ**
- 遅延時間を入力→ ATS26 ☞ **6-32 ページ**

補足説明

フロー制御なし通信をしているときに設定が有効です。

自己サブアドレス ☞ 2-16 ページ

フロー制御方式

自分のパソコンと通信相手のパソコンのシリアルポート速度が異なるときでも、データを欠かすことなく通信します。
通常は通信ソフトウェアで設定するので設定は不要です。

(1) XON/XOFF（ソフトフロー制御）

パソコンがデータ通信中に XON/XOFF（DC1: 11h/DC3: 13h）制御コードを入れてフロー制御をおこないます。XONがデータ受信可能を、XOFFがデータ受信不可をあらわします。パソコンから受信したXOFF制御コードは、データの一部として通信相手に送られるとともに、Aterm内で検出し、パソコンへの送信データをパソコンへ出さずにバッファに蓄積する動作をおこないます。

(2) CS フロー

AtermがデータポートのCS信号を用いてフロー制御をおこないます。パソコンからのデータが受信可能なときはオン、不可能なときはオフにします。パソコンからのデータ受信速度よりも回線へのデータ送信速度が遅く、受信したデータ量が Aterm 内にあるバッファの規定量を超えたときに、パソコンからのデータ送出を止めるために CS オフにします。

(3) RS-CS フロー（ハードフロー制御）（初期状態）

CS フロー制御とともにデータポートの RS 信号を用いてフロー制御をおこないます。パソコンが Aterm からのデータを受信可能なときはオン、不可能なときはオフにします。RS 信号は、V.110速度整合方式のXビットにマッピングさせ通信相手へのCS信号に反映します。

設定方法

コマンドでフロー制御方式を設定→ AT&K、AT￥Q
☞ **6-17,6-21 ページ**

補足説明

非同期／同期PPP通信や128kbpsマルチリンクPPP通信を使用するときは、RS-CSフローに固定されます。

非同期 / 同期自動判別着信、異速度通信

通信相手が非同期通信をおこなっている場合でも、非同期／同期 PPP 変換機能による同期64kbps通信をおこなっている場合でも、着信の際に自動的に相手の通信形態に合わせて応答します。また、通信速度を相手に合わせます。

設定方法

初期状態の「着速度チェックしない（異速度通信する）」、「RS-CS フロー制御」のままで利用できます。

パソコンのデータポート速度（パソコンで設定する速度）は、回線速度よりも速い速度に設定してください。回線速度以下に設定すると、フロー制御が間に合わずに、通信が切断されることがあります。

CTI 機能

CTI（コンピュータ・テレフォニー・インテグレーション）機能は、着信時に通知される情報をコンピュータで処理するなど、電話機とコンピュータを統合的に利用する機能のことです。Atermでは、CTI機能として、アナログポートに通知される着信情報に含まれる発信者番号などを、着信時にデータポートに以下の形式のリザルトコードで送出する機能を搭載しています。

RING ANALOG 発信者番号／発信者サブアドレス　着信番号／着信サブアドレス
↑ 最大 32 桁　↑ 最大 19 桁　↑ 最大 32 桁　↑ 最大 19 桁

非通知理由を受信したときは、発信者番号／発信者サブアドレスの代わりに以下の形式でリザルトコードを送出します。

RING ANALOG［非通知理由］着番号／着サブアドレス
↑
P：ユーザ拒否　O：サービス提供不可
C：公衆電話発信　S：サービス競合

※ サブアドレスセパレータ（／）は、固定です。
リザルトコードの最後に付加される［CR］［LF］は、固定です。
※ i・ナンバーをご利用のときは、着信番号のかわりにi・ナンバー情報に対応した電話番号が表示されます。

設定方法

「CTI モード使用する」に設定→ AT$A16=1 **☞ 6-23 ページ**

HLC 設定（HLC が一致する相手と通信する）

接続するパソコンやアナログ装置の種別をHLCに設定して、HLCが一致する相手とのみ通信をおこなうようにする機能です。相手がINSネット64に加入している場合にだけ利用できます。

コード	種　別
01	電話
04	G2/G3 ファクス
33	G4 ファクス
36	ミックスモード
49	テレテックス
50	ビデオテックス
53	テレックス
56	メッセージ処理システム(MHS)
65	OSI アプリケーション

アナログポートでは、選択した接続機器に対応した HLC が自動的に設定されます。

接続機器	コード	種別
電話	01	電話
FAX/ モデム	04	G2/G3 ファクス

動作

- 発信時は Aterm が自動的に HLC を付けて発信します。
- 着信時は発信者からの HLC を照合し、一致する場合にのみ通信をおこないます。
- HLC がない相手からの着信は受け付けます。

設定方法

HLC 設定とコードを入力します。

Windows98/Windows95, Windows NT4.0 ☞ 5-8,5-19 ページ
Macintosh ☞ 5-41,5-44 ページ
電話機 ☞ 5-47 ページ

補足説明

- アナログポートでは、「HLC を設定する」にしてあっても、着信時に HLC が一致しない場合も着信を受け付ける(HLCを付けて発信はするが、着信判別はしない)ように設定することができます。AT$A、AT$B コマンドで設定します。
- ファクス付き電話機のように相手が電話でもファクスでも着信を受け付けたいときには「HLC を設定しない」に設定します。HLC を設定すると ISDN 用電話機からの着信を受け付けません。

PIAFS（ピアフ）データ通信

PIAFS (PHS Internet Access Forum Standard の略) は高品質のデータ通信方式の開発のために標準化された規格です。
Aterm はこの PIAFS 2.0 版に準拠していますので、PIAFS32K 通信、PIAFS64K 通信をおこなうことができます。

通信のしかた

<発信時>

次のいずれかの方法で PIAFS 発信をおこないます。

- **発信時に通信モードを指定する方法**
  ・PIAFS32K モードのとき
  相手の電話番号の末尾に「PF」を付けて発信します。
  ・PIAFS64K モードのとき
  相手の電話番号の末尾に「PD」を付けて発信します。
- **PIAFS モードに切り替えてから発信する方法（AT$N コマンドで通信モードを切り替える）**
  AT$N1=2$N15=0（PIAFS32K モードのとき）
  AT$N1=2$N15=1（PIAFS64K モードのとき）

<着信時>

PIAFS モードでの着信があると、自動的に判別して通信をおこないます。

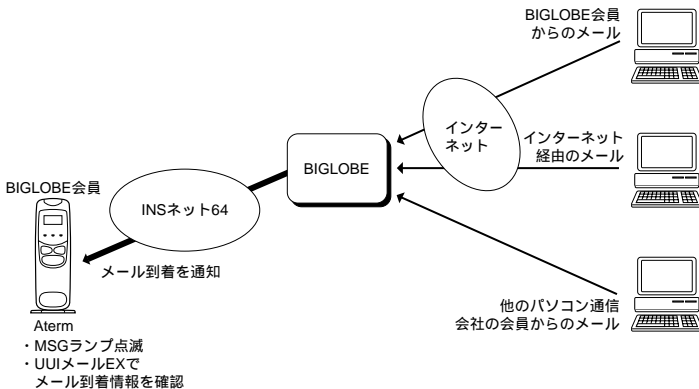
補足説明

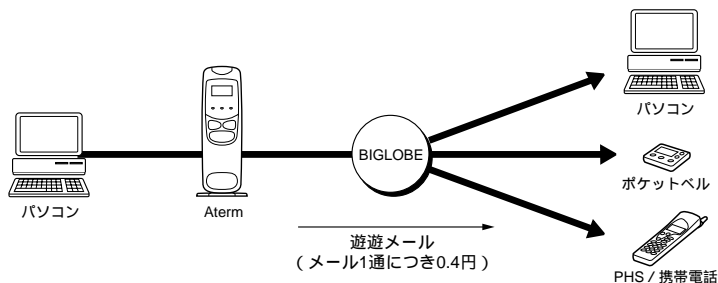
- Windows98/Windows95の場合、インストールされているダイヤルアップネットワークバージョンによっては、ダイヤルアップネットワークで相手の電話番号の末尾にPFやPDを付けて発信する場合は、「市外局番とダイヤルのプロパティを使う」のチェックをはずして、□にする必要があります。(☞ **『お困りのときには』 2-20 ページ)**
- PIAFS64Kモードをご利用になるには、発信者番号通知をおこなうようにしてください。☞ **2-4, 2-5 ページ**

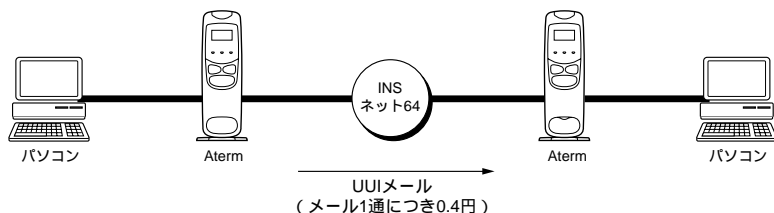
3-2. 電子メール着信通知や UUI メール・遊遊メールを利用する

Aterm では、INS ネット 64 の「ユーザ間情報サービス（UUI）」を利用して、「電子メール着信通知」「遊遊メール（UUI メール変換サービス）」「UUI メール」のメールサービスを利用することができます。

● 電子メール着信通知

インターネット／パソコン通信サービス「BIGLOBE」に電子メールが届くと、Aterm の MSG ランプが点滅して、電子メールが到着していることを知らせます。
ユーティリティ「UUI メール EX」をインストールしておけば、電子メールの到着を POP-UP で知らせてくれます。さらに、電子メールの発信元や用件（From,Subject）の情報をパソコンの画面で確認することができます。

● 遊遊メール（UUI メール変換サービス）

BIGLOBE に UUI メールを送付すると、BIGLOBE のサーバが電子メールの形式に変えて、インターネット上に送信します。電子メールでの呼び出しや、メッセージ送信を受け付けているPHS/携帯電話やポケットベルのショートメッセージサービスを利用することもできます。

● UUI メール

インターネットプロバイダやパソコン通信サービスを経由せずに、Aterm 間で直接メールを送受信することができます。

- **BIGLOBE とは**
  インターネットとパソコン通信の垣根をなくした " フルコース "プロバイダ「ビッグローブ」。新しいスタイルの情報メディアとしていま、ネットワーカたちの熱い視線を集めています。
- **AtermStation（http://aterm.cplaza.ne.jp）の「電子メール着信通知＆遊遊メール」に、各サービスの詳細が説明されていますのでご覧ください。**

利用するには

「電子メール着信通知」「遊遊メール」「UUI メール」を利用するために必要なことを説明します。必ず確認してください。

INS ネット 64 の契約

サービス名	電子メール着信通知	遊遊メール	UUI メール
ユーザ間情報通知	着信許可	–	着信許可
発着者番号通知	–	通常通知（呼毎通知許可）または 通常非通知（呼毎通知許可）※1	–
通信中着信通知	申込推奨※2	–	申込推奨※2

※1「通常非通知」にてご契約になっている方はらくらくユーティリティの設定で、データポートの発信者番号通知を「行う」に設定する必要があります。

※2「通信中着信通知」をお申し込みいただくことにより、2B チャネルを使った通話中でも、UUI メールの着信を受け付けることができるようになります。

BIGLOBE への申し込み

（「電子メール着信通知」や「遊遊メール」をご利用いただくためには必要です）

- BIGLOBE への加入（有料）
  インターネットで BIGLOBE トップページ（http://www.biglobe.ne.jp/）にアクセスします。BIGLOBE 紹介や加入方法に関するメニューがあります。
- メールオプション申し込みの設定（有料）
  BIGLOBE の登録ページ「BIGLOBE メール」（http://www.cplaza.ne.jp/blmail/）にアクセスします。サービスに該当する説明をよく読んで、お申し込みください。

Aterm の設定

データポートに発信者通知番号と着信番号を設定します。

Windows98/Windows95, Windows NT4.0 ☞ 5-18 ページ
Macintosh ☞ 5-35 ページ

使用ツール

	電子メール着信通知	遊遊メール	UUI メール
UUI メール EX ☞3-18 ページ (Windows98/Windows95,WindowsNT4.0)	○※1	○※2	○
電子メールユーティリティ ☞3-30 ページ (Macintosh)	○※1	×	○
テレホン UUI メール ☞3-31 ページ (電話機)	×	×	○
テレホン遊遊メール ☞3-31 ページ (電話機)	×	○※2	×

※1 BIGLOBE で設定した「通知表示名」を登録することが必要です。
※2 BIGLOBE の ID を登録することが必要です。

UUI メール EX を使う (Windows98/Windows95,WindowsNT4.0)

●インストールのしかた

ステップ1 **パソコンの電源を入れます**

ステップ2 **添付の「AtermIT40/D ユーティリティ集」CD-ROM を CD-ROM ドライブにセットします**

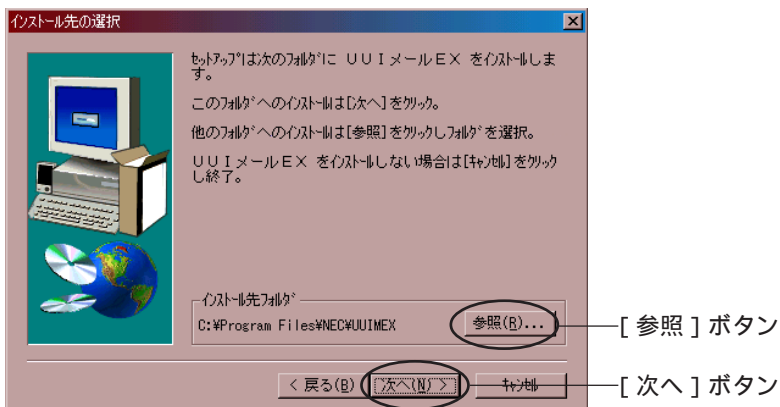
ステップ3 **タスクバーの［スタート］→［ファイル名を指定して実行］の順に選択します**

［ファイル名を指定］の画面が表示されます。

ステップ4 **名前の入力欄に、半角の文字で次のように入力し、OK ボタンをクリックします**

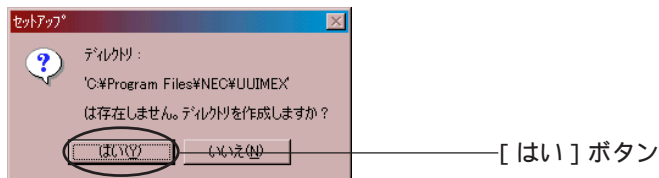
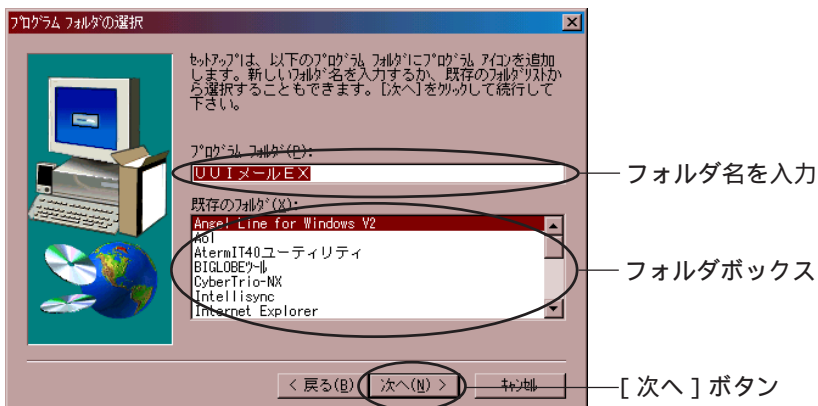
Q:\Util\Mail\UUiex\Setup.exe

ステップ5 **OK ボタンをクリックします**

ステップ6 **しばらくすると［インストール先の選択］画面が表示されるので、インストール先とフォルダ名を決めます**

通常は、このまま 次へ ボタンをクリックします。

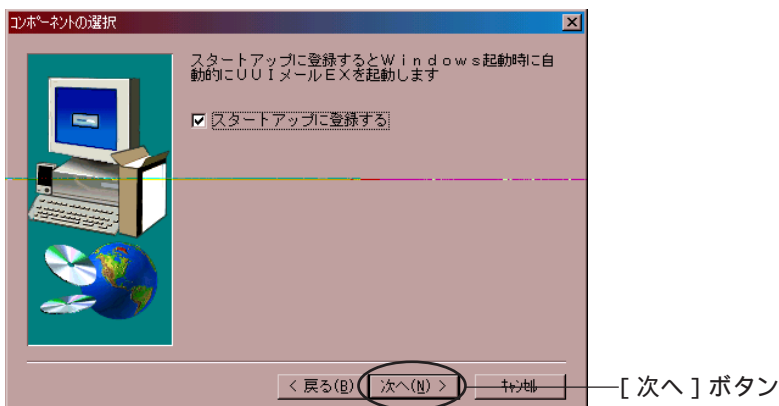
インストール先およびフォルダ名を変更するときは、参照ボタンをクリックし、表示された画面でインストール先を指定します。

― この画面が表示されたとき ―

はい ボタンをクリックします。

ステップ7 **[プログラムフォルダの選択] 画面が表示されるので、フォルダ名を決めます**

通常は、このまま 次へ ボタンをクリックします。

フォルダ名を変更するときは、プログラムフォルダボックスにフォルダ名を入力するか、既存のフォルダボックスから選択します。
インストールが始まります。

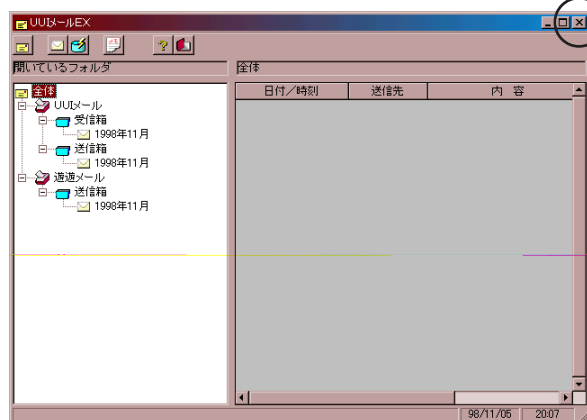
[コンポーネントの選択] 画面が表示されます。

ステップ8 **「スタートアップに登録する」のチェックボックスが☑であることを確認してから、 次へ ボタンをクリックします**

「スタートアップに登録する」のチェックボックスが☑（チェックされている）と、パソコンの起動時に自動的に「UUI メール EX」が起動します。
セットアップの完了画面が表示されます。

ステップ9 **「今すぐ UUI メール EX を起動する」のチェックボックスが☑であることを確認してから、[終了] ボタンをクリックします**

「README.TXT を参照する」のチェックボックスが☑である（チェックされている）と、UUI メール EX を起動する前に説明文が表示されます。

ステップ10 **ReadMe をよくお読みになった後は、クローズボックスをクリックします**

ステップ11 **しばらくすると［UUI メール EX］画面が表示されます**

クローズボックスをクリックすると、UUI メール EX が終了します。

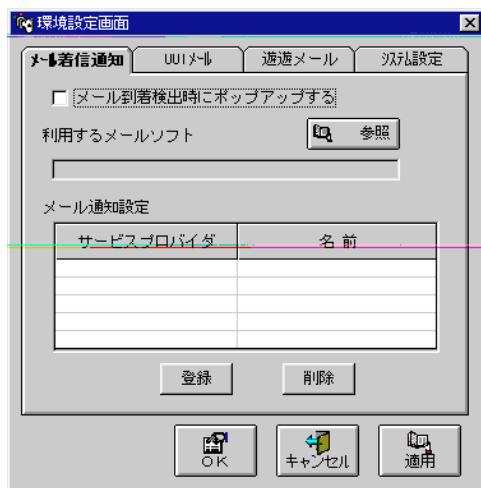
環境設定のしかた

●電子メール着信通知を使用する時の設定

ステップ1　**タスクトレイの中の［UUI メール EX］アイコン を右クリックします**

ポップアップメニューが表示されます。

ステップ2　**ポップアップメニューの中から「環境設定」を選びます**

環境設定画面が表示されます。

［UUI メール EX］画面の環境設定アイコンをクリックしても［環境設定］画面を表示させることができます。

ステップ3　**[メール着信通知]タグをクリックします**

電子メール着信通知の設定をします。

「メール到着検出時にポップアップする」
この項目のチェックボックスをクリックして☑にすると、パソコンの画面に電子メールを着信した事を知らせる表示をおこないます。

「参照」ボタン
必要に応じて「利用するメールソフト」を指定する場合にクリックします。
普段お使いの電子メールソフトを選びます。

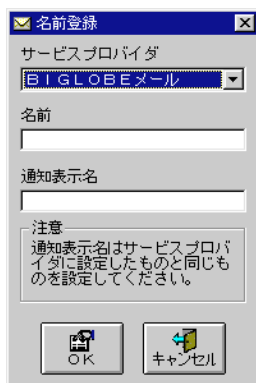
「利用するメールソフト」

参照 ボタンで指定した電子メールソフトが表示されます。電子メールソフトを指定していない場合は、空欄になります。

「メール通知設定」

電子メール着信通知をするときの名前を登録します。

❶ 登録する欄をクリックしてから、登録 ボタンをクリックします。

［名前登録］画面が表示されます。

「サービスプロバイダ」欄には、「BIGLOBE メール」が表示されています。

登録する欄をダブルクリックすることで［名前登録］画面を表示させることもできます。

❷「名前」欄に、電子メールが着信したときに表示させる自分の名前を入力します。

❸「通知表示名」に BIGLOBE メールオプション設定で入力した通知表示名と同じものを入力します。

❹ OK ボタンをクリックします。

「メール着信通知」画面に戻ります。

❺ 続けて名前の登録をするときは、❶～❹を繰り返します。

ステップ4 **適用 ボタンをクリックしてから、OK ボタンをクリックします**

●電子メール送信・ショートメッセージ送信（遊遊メール）を使用する時の設定

「BIGLOBE」に接続するための ID を設定します。

ステップ1 **タスクトレイの中の[UUI メール EX]アイコン を右クリックします**

ポップアップメニューが表示されます。

ステップ2 **ポップアップメニューの中から「環境設定」を選びます**

「環境設定」画面が表示されます。

参考

「UUI メール EX」画面の環境設定アイコンをクリックしても「環境設定」画面を表示させることができます。

ステップ3 **[遊遊メール]タグをクリックします**

「遊遊メール（UUI メール変換）サービス」画面が表示されます。

ステップ4 **[BIGLOBE-ID]の欄に BIGLOBE の ID 番号を入力します**

ステップ5 **適用 ボタンをクリックしてから、OK ボタンをクリックします**

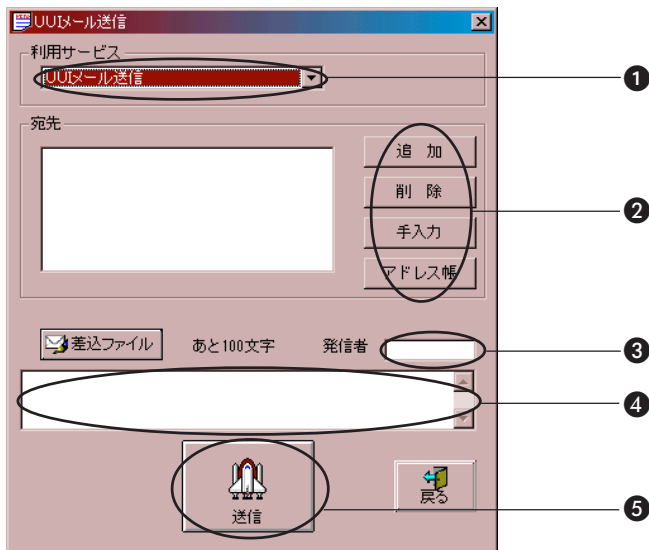
UUI メールを送る

ステップ1 **タスクトレイの中の[UUI メール EX]アイコン を右クリックします**

ポップアップメニューが表示されます。

あらかじめ「環境設定のしかた」(☞3-22 ページ)でプロバイダの設定やUUI メール、遊遊メールの設定をおこないます。

ステップ2 **利用するサービスの種類の「メール送信」(UUI メール送信、電子メール送信、ショートメッセージ送信)を選びます**

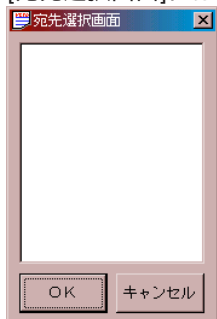
[UUI メール送信]画面が表示されます。

[UUI メール EX]画面のメール送信アイコンをクリックしても[UUI メール送信]画面を表示させることができます。

ステップ3 **メール送信先、メッセージ内容を入力します**

❶ [利用サービス]の欄が使用するサービス内容のメール送信になっているか確認します。

使用するサービス内容のメール送信になっていない場合は、▼をクリックしてプルダウンメニューの中から使用するサービス内容のメール送信を選びます。

❷ [宛先]の 追加 ボタンをクリックして[宛先選択画面]から送信する相手を選びます。

[宛先選択画面]には、アドレス帳に登録されている名前が表示されます。

アドレス帳への登録の方法 ☞ **次ページ**

送信先を直接に入力するときは、 手入力 ボタンをクリックします。宛先入力画面が表示されるので、送信先（相手の電話番号やメールアドレス等）を入力して OK ボタンをクリックします。

❸ 発信者名が表示されていることを確認します。

UUI メール送信の場合は、環境設定の「UUI メール」の発信者名に入力した名前が表示されます。

電子メール・ショートメッセージ送信の場合は、環境設定の「遊遊メール」の BIGLOBE-ID が表示されます。

❹ メッセージをメッセージ欄に入力します。

メッセージ入力欄の上に入力可能文字数が表示されています（入力可能文字数は、半角文字単位です）。

あらかじめ保存しておいたメッセージをメッセージ入力欄に入力するときは、 差込ファイル ボタンをクリックして保存しておいたメッセージファイルを選びます。

❺ メッセージの入力が終了したら、 送信 ボタンをクリックして送信します。

• メール送信すると、送信結果（送信完了または送信失敗）が表示されます。

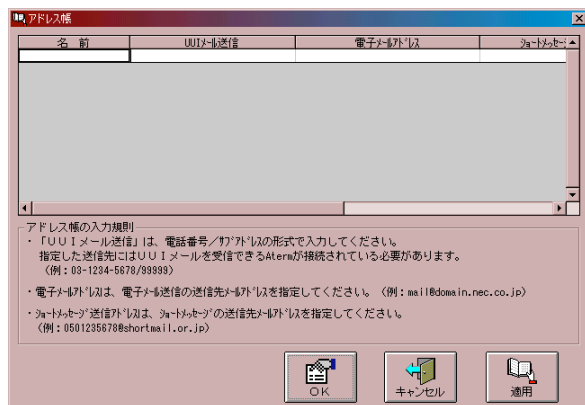
ステップ4 **送信終了後、AtermのSD/RDランプが消灯していることを確認してから OK ボタンをクリックします**

アドレス帳に登録する

ｽﾃｯﾌﾟ1　タスクトレイの中の[UUI メール EX]アイコン **を右クリックします**

ポップアップメニューが表示されます。

ｽﾃｯﾌﾟ2　ポップアップメニューの中から「アドレス帳」を選びます

［アドレス帳］画面が表示されます。

- **［UUI メール送信］画面の アドレス帳 ボタンをクリックしても［アドレス帳］画面を表示させることができます。**
- **［UUI メール EX］画面のアドレス帳アイコンをクリックしても［アドレス帳］画面を表示させることができます。**

ｽﾃｯﾌﾟ3　アドレスを入力します

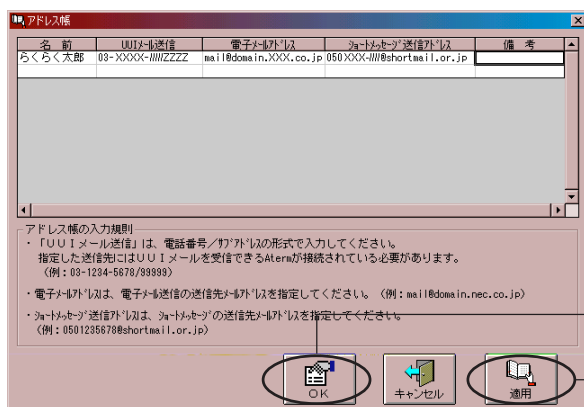
入力するときは、入力する枠をクリックするとその枠内に入力することができます。

名前：送信先の名前を入力します

UUI メール送信：UUI メール送信を使って送信する相手の場合は、送信先の電話番号を入力します。サブアドレスがある場合は、/ の後にサブアドレスを入力します。

電子メールアドレス：電子メール送信を使って送信する相手の電子メールアドレスを入力します。

ショートメッセージ送信アドレス：ショートメール送信を使って送信する相手のドメイン番号を入力します。

備考：備考を追加するときに入力します。

ステップ4 **入力が終了したら 適用 ボタンをクリックしてから OK ボタンをクリックします**

電子メールが届いたら

電子メール（BIGLOBE）が届くと、Aterm の「MSG」ランプがオレンジ色に点滅します。
タスクトレイの中の［UUI メール EX］アイコンも点滅します。

電子メール着信通知サービスの設定が正しくおこなわれていないと「MSG」ランプは点滅しません。

- 電子メール着信通話の場合、「新着メール通知」画面が表示されますので、［はい］ボタンをクリックします。「メール参照」画面で到着したメールの「From」と「Subject」を参照することができます。
- UUI メールの場合は、次の手順で内容を確認します。
  ① タスクトレイの中の［UUI メール EX］アイコンを右クリックします。
  ② ポップアップメニューから「UUI メール受信」を選びます。

「UUI メール参照」画面で内容を確認します。

インターネットに接続しているときはAtermと接続しているパソコンのCOMポート（通信ポート）を使用していますので、メールユーティリティソフトを起動することはできません。

電子メール着信通知・UUI メールを使う
（Macintosh の場合）

●インストールのしかた

ステップ1 **添付の「AtermIT40/D ユーティリティ集」CD-ROM を CD-ROM ドライブにセットします**

ステップ2 **CD-ROM のアイコンをダブルクリックします**

ステップ3 **「メールサービスユーティリティ」フォルダをハードディスクにドラッグ＆ドロップしてコピーします**

ステップ4 **次のファイルとフォルダがハードディスクの「メールメニューサービスユーティリティ」フォルダにコピーされたことを確認します**

- ユーザ ID 新規登録
- ユーザ ID 削除
- メール通知情報
- 記録情報
- UUI メール
- mlid.data
- address
- manual_m.txt
- html フォルダ

これでユーティリティのインストールは終了です。
設定についての詳細は「html」フォルダの「INDEX. HTM」ファイルをダブルクリックすると説明が出てきますので、ご覧ください。

テレホン UUI メール／テレホン遊遊メール

テレホン UUI メールを送る

テレホンUUIメールは、アナログポートに接続した電話機のプッシュボタンを使って別の場所の Aterm に UUI メール（メッセージ）を送ることができます。

利用条件

「INSネット64」お申込票の「コンサルティング項目＊＊＊必須項目＊＊＊」欄の「ユーザ間情報通知サービス」の「着信許可」にチェックします。また「コンサルティング項目＊＊＊付加機能等項目＊＊＊」欄の「毎月の使用料（無料）」の「通信中着信通知サービス」を塗りつぶして（■）ください。

送信方法

受話器をあげる→【⋆】【⋆】【2】【⋆】【1】【⋆】【相手の電話番号 *1】【#】【サブアドレス *2】【#】【⋆】【メッセージを作成 *3】【#】【#】→受話器を置く

*1【相手の電話番号】のかわりに【⋆】【3】を押すと前回の電話番号が表示されます。
*2 サブアドレスをつける場合は【⋆】を押します。サブアドレス（最大 15 桁）を入力後【#】を押します。サブアドレスが確定します。
サブアドレスをつけない場合は、【#】を押します。
*3【⋆】【3】を押すと前回のメッセージが表示されます。
メッセージの作成方法は ☞3-34 ページ

例）03-1234-5678 へ「ゲンキデスカ？」を送る場合
⋆⋆2⋆1⋆0312345678##⋆240403224404332167##

送信が終了すると「ソウシンシマシタ」が 5 秒間表示されます。
メッセージの送信をやめるときは、最後の【#】を押す前に受話器を置きます。
メッセージの送信が失敗したときは、「ソウシンシッパイサイソウシンシテクダサイ」が表示されます。再送信してください。☞3-35 ページ

テレホン遊遊メールでPHS／携帯電話やポケットベルへショートメッセージを送る（遊遊メール利用）

“ BIGLOBE ”の「遊遊メール」サービスを利用してPHS／携帯電話やポケットベルへ、電話機のプッシュボタンを使ってショートメッセージを送ることができます。

利用条件

- NECのインターネットプロバイダ「BIGLOBE」への加入と「遊遊メール」サービスの申し込みをする必要があります。
  このとき、BIGLOBEにお客様の電話番号、送信時のお名前と署名をあらかじめ設定する必要があります。
- 加入した「BIGLOBE」へ接続するアクセスポイントとID番号をあらかじめ登録する必要があります。登録の方法は ☞**3-36ページ**
- 発信者番号通知が必要です。
  「INSネット64」お申込票の「コンサルティング項目＊＊＊必須項目＊＊＊」欄の「発信者番号通知サービス」で「通常非通知」をご契約になっている方は、らくらくユーティリティの設定で、データポートの発信者番号通知を「行う」に設定する必要があります。

送信方法

受話器をあげる→【*】【*】【3】【1】（～【3】【8】*1）【*】【相手のポケットベル番号*2】【#】【*】【メッセージの作成*3】【#】【#】→受話器を置く

*1 31から38には、あらかじめPHS／携帯電話やポケットベルサーバーのドメインネームを登録しておきます。登録したドメインネームの番号を入力します。ドメインネーム登録のときにサーバーネームも登録しておくと、液晶ディスプレイにサーバーネームも表示されます。サーバーネームを登録していないときは、ドメイン番号だけが表示されます。
ドメインネームの登録の方法は ☞**3-36ページ**

*2 パスワードがある場合は、続けてパスワードも入力します。
パスワードで“ _ ”入力が必要なときは、【*】【9】【1】と押します。
【相手のポケットベル番号】のかわりに【*】【3】を押すと前回の電話番号が表示されます。

3 【】【3】を押すと前回のメッセージが表示されます。
メッセージの作成方法は ☞**3-34ページ**

送信が終了すると「ソウシンシマシタ」が5秒間表示されます。
メッセージの送信をやめるときは、最後の【#】を押す前に受話器を置きます。
メッセージの送信が失敗したときは、「ソウシンシッパイサイソウシンシテクダサイ」が表示されます。再送信してください。 ☞**3-35ページ**

テレホン遊遊メールで電子メールにメッセージを送る（遊遊メール利用）

“ BIGLOBE ” の「遊遊メール」サービスを利用して電子メールの宛先に、電話機のプッシュボタンを使って電子メールを送ることができます。

利用条件

● NEC のインターネットプロバイダ「BIGLOBE」への加入と「遊遊メール」サービスの申し込みをする必要があります。
　このとき、BIGLOBE にお客様の電話番号、送信時のお名前と署名をあらかじめ設定する必要があります。

● 加入した「BIGLOBE」へ接続するアクセスポイントとID番号をあらかじめ登録する必要があります。登録の方法は ☞**3-36 ページ**

● 発信者番号通知が必要です。
　「INSネット64」お申込票の「コンサルティング項目＊＊＊必須項目＊＊＊」欄の「発信者番号通知サービス」で「通常非通知」をご契約になっている方は、らくらくユーティリティの設定で、データポートの発信者番号通知を「行う」に設定する必要があります。

送信方法

受話器をあげる→【*】【*】【4】【1】*1【*】【相手のメールアドレス *2】【#】【*】【メッセージを作成 *3】【#】【#】→受話器を置く

1【】【*】【4】【1】のかわりに【*】【*】【4】【2】と押すと、あらかじめ短縮番号に登録したメールアドレスを使うことができます。短縮番号は、1～9 を使います。
　短縮番号の設定方法は ☞**3-37 ページ**

2【】【*】【4】【2】と押した場合は、短縮番号を入力します。短縮番号は、1～9 を入力します。入力した番号にメールアドレスが登録されていないときは、入力した短縮番号と「トウロクナシ」を液晶ディスプレイに表示します。
　英数字記号は、**3-39 ページ**の文字入力コマンド一覧表を参照してください。
　【相手のメールアドレス】のかわりに【*】【3】を押すと前回のメールアドレスが表示されます。

3【】【3】を押すと前回のメッセージが表示されます。
　メッセージの作成方法は ☞**3-34 ページ**

送信が終了すると「ソウシンシマシタ」が 5 秒間表示されます。
メッセージの送信をやめるときは、【#】を押す前に受話器を置きます。
メッセージの送信が失敗したときは、「ソウシンシッパイサイソウシンシテクダサイ」が表示されます。再送信してください。 ☞**3-35 ページ**

メッセージの作成方法

「文字入力コマンド一覧表」(☞**3-39ページ**)を参照しながらメッセージを作成します。入力できる文字数は、テレホンUUIメールでは100文字、テレホン遊遊メール（PHS/携帯電話、ポケットベル）では、[98文字ー電話番号ードメイン名]、テレホン遊遊メール（電子メール）では、[98文字ー相手メールアドレス］になります。入力可能文字数を超えると、エラー通知音（ピッピッ）が鳴り、超えた入力文に関しては無視されます。

英字の大文字／小文字を切り替えるときは、【*】【5】を押してから入力します。
数字に切り替えるときは、【*】【8】を押してから入力します。文字入力に戻すときは【*】【2】【*】【2】を押します。
定型文または、あらかじめ登録した自作伝言文を入れるときは【*】【0】【5】を入力してから定型文の番号を入れます。定型文の番号は「定型文コマンド表」（☞**3-39ページ**）を参照してください。

自作伝言文の登録

電話機のプッシュボタンを使って自作伝言文を作成し登録します。

受話器をあげる→【*】【*】【8】【2】【*】【自作伝言文を登録する番号を入力*1】【*】【メッセージの作成*2】【#】【#】→受話器を置く

*1 登録する番号は30～59の中から選びます。
10～29には定型文が登録されています。誤って10～29を入力したときは、入力した番号の定型文が液晶ディスプレイに表示されます。【#】を押すと自作伝言文を登録する番号入力に戻ります。

*2 **メッセージの作成方法について以下に説明します。**最大22文字入力できます。

例）「アシタハ?」の場合
【1】【1】【3】【2】【4】【1】【6】【1】【6】【7】と入力します

入力した文字を見るときは、【*】【1】を押します。
【*】【1】を押すごとにページを切り替えます。
文字を削除するときは、【*】【*】を押します。
【*】【*】を押すと1文字分削除します。

UUI メールを再送信する

メッセージの送信が失敗したときや、同じ相手にもう一度同じメッセージを送りたいときに再送信をします。

再送信できるUUI メールは、テレホンUUI メール、テレホン遊遊メール（PHS ／携帯電話、ポケットベル）、テレホン遊遊メール（電子メール）の区別なく１つ前のものだけです。
前回送信したのがテレホンUUI メールのときは、テレホンUUI メールの再送信だけおこなうことができます。他のUUI メールを使った再送信をすることはできないので、テレホン UUI メールで作成したメッセージを、再送信の操作を使ってテレホン遊遊メール（PHS ／携帯電話、ポケットベル）の相手やテレホン遊遊メール（電子メール）の相手へ送信することはできません。

＜テレホン UUI の場合＞
受話器をあげる→【*】【*】【2】【*】【3】【#】→受話器を置く

＜テレホン遊遊メール（PHS ／携帯電話、ポケットベル）の場合＞
受話器をあげる→【*】【*】【3】【9】【#】→受話器を置く

＜テレホン遊遊メール（電子メール）の場合＞
受話器をあげる→【*】【*】【4】【9】【#】→受話器を置く

再送信が終了すると「ソウシンシマシタ」が表示されます。

前回送信したメールと違うUUIメールの再送信コマンドが入力されると、「サイソウシンデキマセン　アテサキマチガイ」が表示されます。
例）前回、ポケットベルメールを送信したが、ステップ２のコマンドが電子メールの再送信（【*】【*】【4】【9】）コマンドになっている
このような場合は、もう一度やり直してください。

テレホン遊遊メールの設定

「BIGLOBE」のID番号の登録

テレホン遊遊メールは、送信操作をしているときの送信先へ直接送信するのではなく、一度BIGLOBEのサーバーを介してポケットベルサービスや電子メールの宛先にメッセージを送っています。必ず「BIGLOBE」のID番号の登録をおこなってください。
登録していない場合は、テレホン遊遊メールを使ったメッセージ送信をすることはできません。

ID番号の登録

受話器をあげる→【*】【*】【8】【5】【*】【0】【1】【*】【ID番号の入力】【#】【#】→受話器を置く

PHS／携帯電話、ポケットベルサーバーのドメインネームの登録

テレホン遊遊メールでPHS／携帯電話、ポケットベルへショートメッセージを送信するときのサーバーのドメインネームとサービスネームを登録します。

受話器をあげる→【*】【*】【8】【4】【*】【登録する短縮番号の入力 *1】【*】【ドメインネームの入力 *2】【#】【*】【サービスネームの入力 *3】【#】【#】→受話器を置く

*1 短縮番号は、01～08の中から選びます。
01～08の短縮番号は、テレホン遊遊メールを送信するときのステップ2の31～38に対応します。01に登録したドメインネームの宛先に送信するときは31に、08に登録したドメインネームの宛先に送信するときは38になります。
*2 最大40文字入力できます。
*3 入力方法は、メッセージ作成方法と同じです。 ☞**3-34ページ**
サービスネームを入力しない場合は、ドメインネームだけの登録になります。
最大12文字入力できます。

電子メールアドレスを短縮番号に登録

テレホン遊遊メールで電子メールを送信するときの送信先電子メールアドレスを短縮番号に登録します。

受話器をあげる→【*】【*】【8】【3】【*】【登録する短縮番号の入力 *1】【*】【電子メールアドレスの入力 *2】【#】【#】→受話器を置く

*1 短縮番号は、01 ～ 09 の中から選びます。
01～09の短縮番号は、テレホン遊遊メールを送信するときのステップ2の1～9に対応します。01 に登録した電子メールの宛先に送信するときは 1 に、9 に登録した電子メールの宛先に送信するときは 9 になります。
*2 メッセージの作成方法と同じです。☞**3-34 ページ**
最大 40 文字入力できます。

受信したUUIメールを液晶ディスプレイで参照したいとき

UUIメールを受信するとAtermのMSGランプがオレンジ色に点滅します。
UUIメールは、最大50件まで保存できます。受信したメールを指定して表示させることができます。

受話器をあげる→【*】【*】【2】【*】【2】【*】【見たいメールの番号を入力*1】【2】→受話器を置く**

*1 メールの番号は01～50を入力します。
*2 次のページを見るときは、【1】を押します。押すごとにページを切り替えます。

- 表示しているメール番号を確認するときは、【2】を押します。
- 次のメールを表示させるときは、【3】を押します。表示しようとしたメール情報がパソコンから送信された全角文字を含むものの場合、液晶ディスプレイに「PCメールデス」が表示されます。その場合は、「UUIメールEX」ユーティリティを使って内容を確認してください。
- 前のメールを表示させるときは、【4】を押します。前のメールまたは次のメールがないときは「メールガアリマセン」が表示されます。電話機のどれかのボタンを押すとメール選択画面に戻ります。
- メール画面に戻るときは、【5】を押します。
- 表示中のメールを削除するときは、【*】【*】を押します。【*】を1回押すと「サクジョサレマス」が表示されます。ここで、【*】以外を押すとピッピッと音が鳴ってメッセージ画面に戻ります。

**受信したメールは、「01」から順番にメール番号がつけられます。
メールの受信数が50を超えると、古いメールから順に削除されてメール番号がずれていきます。
メールを削除した場合も同様にメール番号がずれていきます。**

定型文入力コード一覧表

コマンド	メッセージ	コマンド	メッセージ
10	デンワクダサイ	20	シキュウ！
11	オクレマス	21	OK デス
12	ヘンコウシマス	22	NG デス
13	チュウシデス	23	シュウゴウ！
14	サキニカエリマス	24	マッテテ！
15	ルスデンアリ	25	ナニシテル？
16	ジカンデス	26	ドコニイル？
17	ジタク	27	イマイソガシイ
18	カイシャ	28	ゴメンナサイ
19	ガッコウ	29	アリガトウ

文字入力コマンド一覧表

ア	11	イ	12	ウ	13	エ	14	オ	15
カ	21	キ	22	ク	23	ケ	24	コ	25
サ	31	シ	32	ス	33	セ	34	ソ	35
タ	41	チ	42	ツ	43	テ	44	ト	45
ナ	51	ニ	52	ヌ	53	ネ	54	ノ	55
ハ	61	ヒ	62	フ	63	ヘ	64	ホ	65
マ	71	ミ	72	ム	73	メ	74	モ	75
ヤ	81	（	82	ユ	83	）	84	ヨ	85
ラ	91	リ	92	ル	93	レ	94	ロ	95
ワ	01	ヲ	02	ン	03	゛	04	゜	05
A	16	B	17	C	18	D	19	E	10
F	26	G	27	H	28	I	29	J	20
K	36	L	37	M	38	N	39	O	30
P	46	Q	47	R	48	S	49	T	40
U	56	V	57	W	58	X	59	Y	50
Z	66	？	67	！	68	―	69	／	60
￥	76	＆	77	＿	78	，	79	％	70
＊	86	＃	87	スペース	88	．	89	＠	80
1	96	2	97	3	98	4	99	5	90
6	06	7	07	8	08	9	09	0	00
訂正	**	頁メクリ	*1	-	*2	前回のデータ	*3	［	*4
大/小文字	*5	］	*6	スペース	*8	＿	*91	；	*92 注

注：遊遊メールでは使用できません。

4 さまざまな情報を見る

ここでは、らくらくユーティリティや、電話機を使って
いろいろな情報を表示させる方法を説明します。

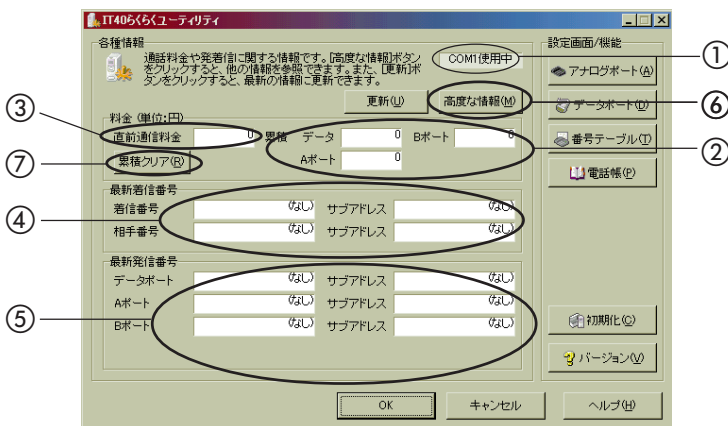
4-1. パソコンで情報を見る
(Windows®98/Windows®95, Windows NT®4.0の場合)

「IT40 らくらくユーティリティ」を使って、いろいろな情報を表示することができます。
あらかじめ「IT40 らくらくユーティリティ」をインストールしておいてください。
☞『はじめにお読みください』3-2 ページ

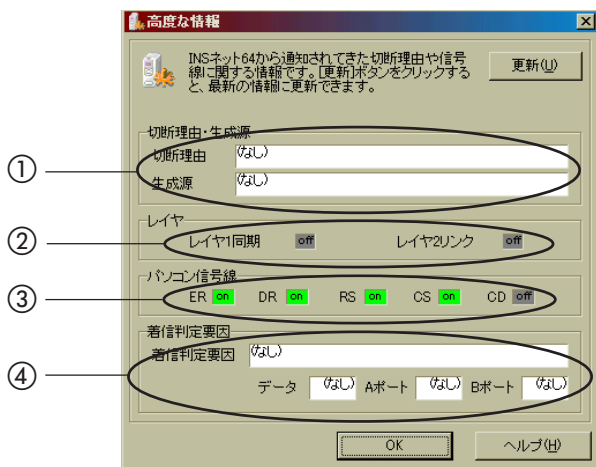
情報を表示している間は、通信はできません。

ステップ1 **パソコンの電源を入れます**

ステップ2 **タスクバーの［スタート］→［プログラム］→［AtermIT40 ユーティリティ］→「IT40 らくらくユーティリティ」の順に選択します**

「IT40 らくらくユーティリティ」情報表示画面が表示されます。

① Aterm が接続されているポートを表示します。
② 現在までの電話料金の累計を表示します。
③ 直前のデータ送信料金を表示します。
④ 最新の着信電話番号を表示します。
⑤ 最後に発信した電話番号を表示します。
⑥ 高度な情報 ボタンをクリックすると詳細画面が表示されます。
⑦ 累積クリア ボタンをクリックすると通話料金が 0 円に戻ります。

Windows®98 は、Microsoft® Windows®98 operating system の略です。
Windows®95 は、Microsoft® Windows®95 operating system の略です。
Windows NT®4.0 は、Microsoft® Windows NT® operating system version 4.0 の略です。

高度な情報 ボタンをクリックすると詳細表示の画面が表示されます。

① 発信側でのデータポートの切断理由と切断した場所を表示します。発信したけれど相手と接続できなかった場合に、原因を探ることができます。
切断理由には、INS ネット 64 から通知された切断理由を表示します。
生成源理由には、INS ネット 64 から通知された生成源理由を表示します。
☞ **6-39 ページ**

② INS ネット 64 のレイヤ 1 同期、レイヤ 2 リンクが正常に確立しているかを表示します。緑色に表示されていれば正常、灰色の表示は異常です。
☞ **『お困りのときには』1-3 ページ**

③ データポートの各信号線の状態を表示します。緑色に表示されている信号線はオン、灰色ならオフです。

④ 着信判定要因に、Aterm が着信を拒否した理由を表示します。
データ、A ポート、B ポートに表示されるコードは、診断情報です。
☞ **6-37 ページ**

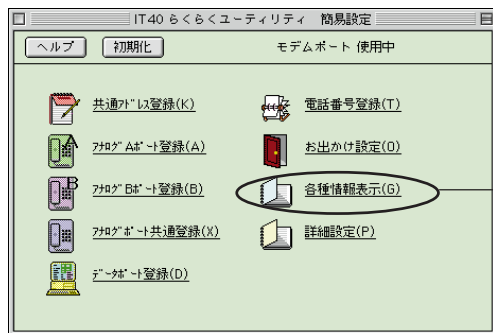
4-2. パソコンで情報を見る（Macintosh の場合）

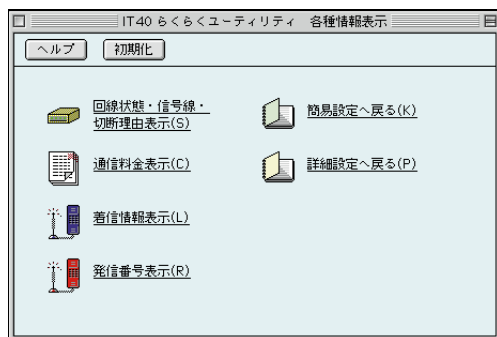
「IT40 らくらくユーティリティ」を使って、いろいろな情報を表示することができます。あらかじめ「IT40 らくらくユーティリティ」をインストールしておいてください。
☞『**はじめにお読みください**』**3-29 ページ**

ステップ1　パソコンの電源を入れます

ステップ2　［IT40 ユーティリティ］アイコンをダブルクリックします

「IT40 らくらくユーティリティ簡易設定」画面が表示されます。

ステップ3　［各種情報表示］アイコンをクリックします

「各種情報表示」画面が表示されます。

ステップ4　見たい情報のアイコンをクリックします

各情報の内容については、

［ヘルプ］ボタンをクリックして確認してください。

4-3．Atermのディスプレイで情報を見る（電話機から操作する）

アナログポートに接続した電話機を利用して、Atermの液晶ディスプレイに次の情報を表示することができます。

- **各ポートの電話料金の累計（累積料金の表示）**
- **着信履歴表示**　☞ 2-29ページ

- **使用中のポートが1つでもあると、電話機を使って情報を表示する操作はできません。**
- **操作中は電話がかかってきても着信しません。**

累積料金表示

累積料金表示は、Aterm前面のボタンを使っても同様の操作をすることができます。☞1-12ページをご覧ください。

Atermの液晶ディスプレイ

ステップ1　受話器をあげます

12月　1日　　0：00

ステップ2　【*】【*】【1】を押します

キノウセッテイ

ステップ3　【*】を押します

セッテイポ゜ートセンタク

ステップ4　【4】を押します。

キョウツウ　セッテイ　1

ステップ5 **【*】【7】【0】を押します**

ルイセキリョウキン

ステップ6 **【*】を押します**

データポートの累積料金が表示されます。

【*】を押すごとに（データポートでの累積料金→アナログ A →アナログ B →データポートでの累積料金）の順に表示されます。

ルイセキ　デ゛ータ
15600円

累積料金を「0」にするときは、【1】を押してください。

すべてのポートの累積料金が 0 円になります。

ルイセキ　デ゛ータ
0円

ステップ7 **【#】を押します**

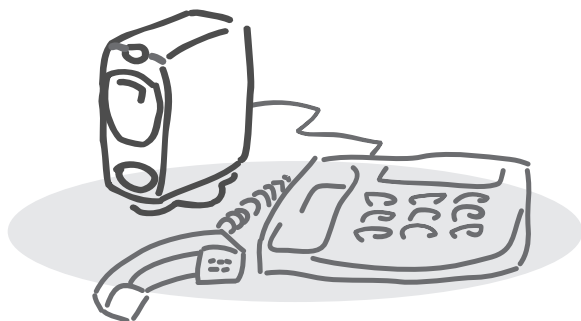
設定ポート選択に戻ります。

セッテイホ゜ートセンタク

ステップ8 **【#】を押します**

セッテイシマシタ

ステップ9 **受話器を置きます**

12月　1日　　0：05

5 Atermを設定する

Atermの設定のしかたを説明します。
ここでは、
パソコンでらくらくユーティリティ
(Windows98/Windows95、
WindowsNT4.0 ☞5-2ページ、
Macintosh ☞5-26ページ)を使用した設定と
電話機からの設定 (らくらくテレホン設定 ☞5-47ページ)
を説明します。

5-1. パソコンで設定する
(Windows®98/Windows®95, Windows NT®4.0での設定)

「IT40 らくらくユーティリティ」を使った設定のしかたを説明します。

らくらくユーティリティの起動のしかた

ステップ1 **データポートを他のアプリケーションで使用している場合は、そのアプリケーションを終了します**

ステップ2 **Windows の スタート → [プログラム] → [AtermIT40 ユーティリティ] → [IT40 らくらくユーティリティ] の順に選択します**

(ユーティリティをインストールしたときにプログラムフォルダ名を変更した場合は、上記と異なります)

ステップ3 **「IT40 らくらくユーティリティ」が起動し、「IT40 らくらくユーティリティ」画面が表示されます**

各画面の設定のしかた

- **設定する機能を選択し、設定します(◉や✓をチェックする)**
- **文字入力は入力欄 をクリックして、キーボード入力します**
- **設定内容を登録します(OK ボタンをクリックして登録完了)**

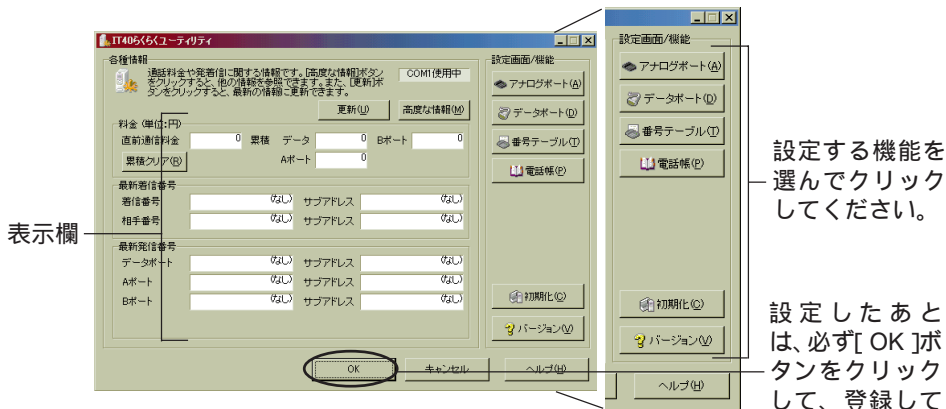
・アナログポート着信中は OK ボタンをクリックしないでください。クリックすると呼出音が途切れたりすることがあります。
・着信中はアナログポートの設定内容を登録することはできません。

設定が終わったら

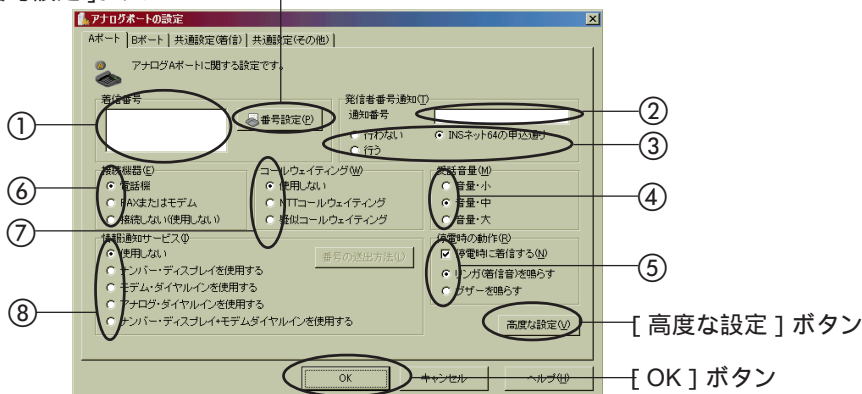
すべての登録が終わって、「IT40 らくらくユーティリティ」を終了する時は必ず「IT40 らくらくユーティリティ」画面で OK ボタンをクリックして Aterm のフラッシュメモリに書き込みます。

これで Aterm の電源を切っても設定値が消えません。

困った時は ヘルプ ボタンをクリックして、内容を確認してください。

「IT40 らくらくユーティリティ」画面

●アナログポートの設定

ここでは、アナログ A ポートの登録で説明します。
電話中などで使用しているときは登録できませんので、電話を切ってから設定をおこなってください。

〈アナログポート画面〉

① **着信番号（初期値：設定なし※）**
アナログ A ポートで着信させる電話番号を設定します。
設定は、番号設定 ボタンをクリックして表示された［電話番号テーブル］画面でおこないます。 ☞ **次ページ**
※「IT40 らくらくウィザード」で既に設定した場合は、その内容がここに表示されます。

② **通知番号（初期値：設定なし）**
［電話番号テーブル］で設定した番号が表示されます。 ☞ **次ページ**

③ **発信者番号通知（初期値：INS ネット 64 の申込通り）**
契約者回線番号、ダイヤルイン番号またはi・ナンバーを相手に通知するかどうかを設定します。

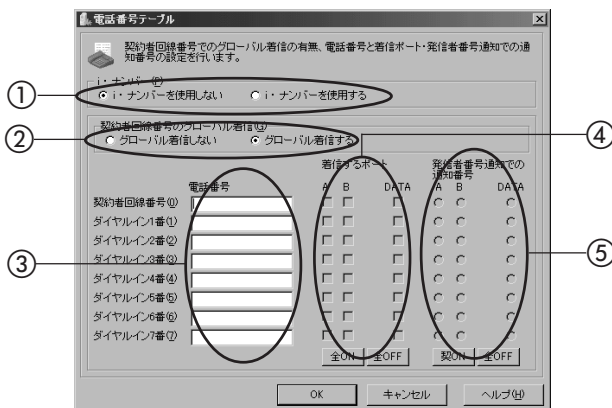
④ **受話音量（初期値：音量・中）**
アナログポートの受話音量を設定します。
「音量・小」にすると聞こえる音は小さく、「音量・大」にすると大きくなります。

⑤ **停電時の動作（初期値：停電時に着信する／リンガ(着信音)を鳴らす)（A ポート）**
停電時に着信するかしないかを設定します。
停電時に着信する場合は、リンガ（着信音）を鳴らすかブザーを鳴らすかを選びます。
「ブザー」に設定した場合、停電モード時に着信があるとAterm内蔵のブザーが鳴ります。
ただし、「アナログダイヤルインを使用する」に設定している場合は、ブザーが鳴らずにリンガが鳴ります。
ナンバー・ディスプレイやモデム・ダイヤルインをご利用の場合は、停電時の着信音を「リンガ」にすることを推奨します。「ブザー」に設定されていると、発信者番号や着信番号が正常に表示されない場合があります。

⑥ **接続機器（初期値：電話機）**
アナログポートに接続した機器を設定します。
「IT40 らくらくウィザード」で既に設定した場合は、その内容がここに表示されます。ファクス付の電話機は「FAX/ モデム」を選択します。

⑦ **コールウェイティング（初期値：使用しない）**
コールウェイティングの種類を設定します。

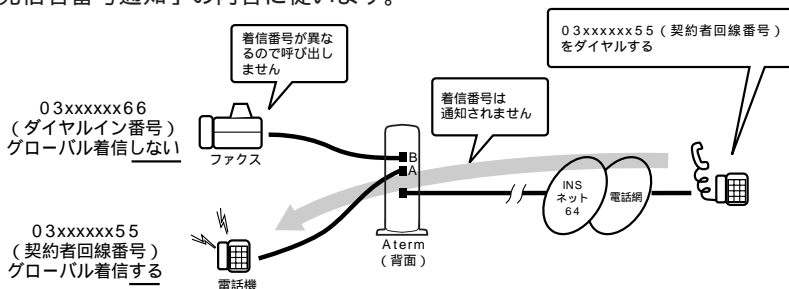
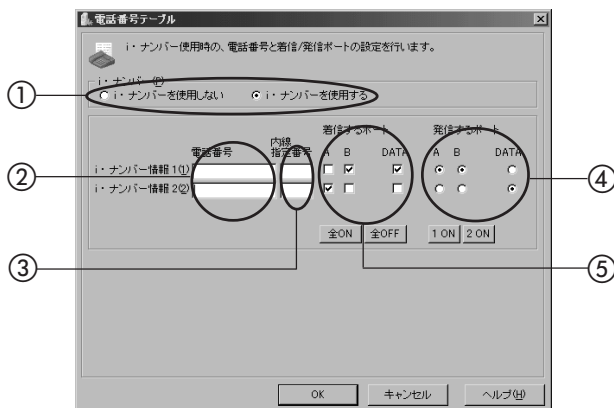
⑧ **情報通知サービス（初期値：使用しない）**
着信した電話番号をアナログポートに接続した電話機に通知するサービスの種類を設定します。
「モデム・ダイヤルインを使用する」、「ナンバー・ディスプレイ + モデム・ダイヤルインを使用する」、「アナログ・ダイヤルインを使用する」に設定したときは、併せて 番号の送出方法 ボタンをクリックして、アナログ A ポートに送出する番号も設定します。 ☞ **5-7 ページ**

●電話番号テーブル（契約者回線番号 / ダイヤルイン番号を登録）

① **[i・ナンバーを使用しない］をクリックします。**
［i・ナンバーを使用する］場合は、次のページの「i・ナンバーを設定する」を参照してください。

② **契約者回線番号のグローバル着信（初期値：グローバル着信する）**
INSネット64の付加サービスで契約した契約者回線番号のグローバル着信する／しないを設定します。
※「IT40 らくらくウィザード」で既に設定をした場合は、その内容がここに表示されます。

③ **電話番号設定（初期値：設定なし）**
契約者回線番号と契約しているダイヤルイン番号を入力します。

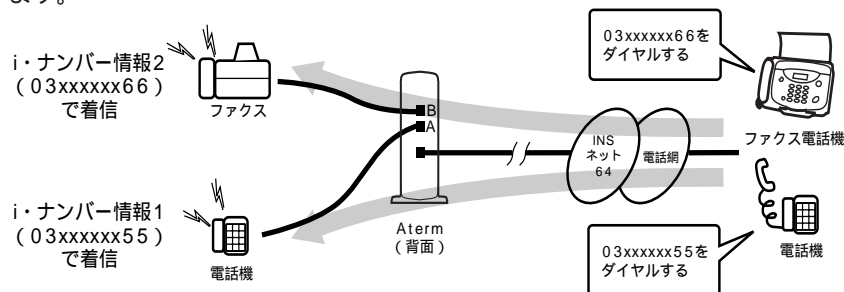
④ **着信するポート（初期値：設定なし）**
かかってきた電話番号でどのポートを呼び出すかを設定します。
呼び出すポートの□をクリックして設定します。

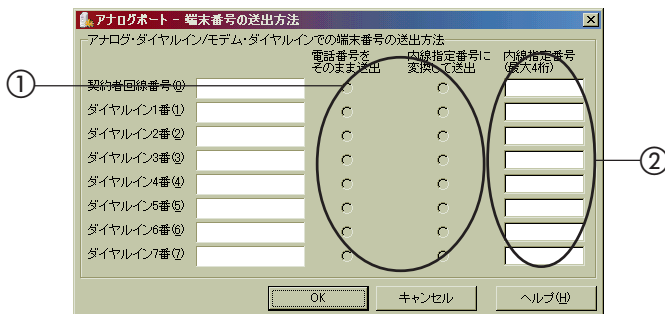
⑤ **発信者番号通知での通知番号（初期値：設定なし※）**
発信したときに通知する電話番号をポート毎に設定します。
○ をクリックして設定します。
※「IT40 らくらくウィザード」で既に設定した場合は、その内容がここに表示されます。
※ 全OFF ボタンをクリックした場合は、［アナログポートの設定］画面で設定した「発信者番号通知」の内容に従います。

●電話番号テーブル（i・ナンバーを設定）

① ［i・ナンバーを使用する］をクリックします。

② **電話番号（初期値：設定なし）**
i・ナンバー情報欄に電話番号を入力します。

③ **内線指定番号（初期値：設定なし）**
アナログ・ダイヤルインを使用するときに設定します。
0～9までの数字を使って4桁の任意の番号を設定できます。

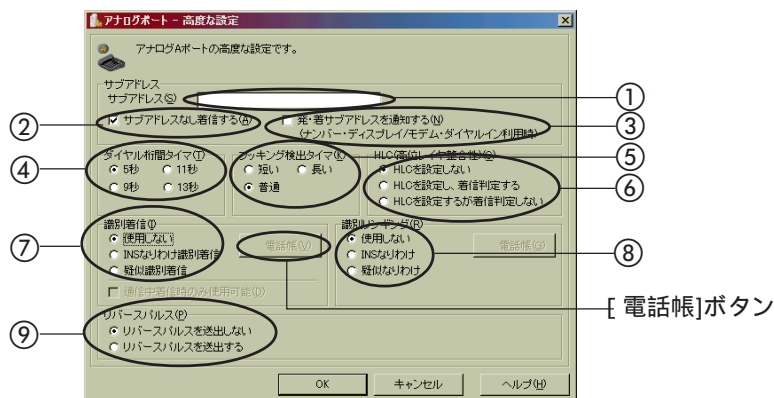
④ **着信するポート（初期値：設定なし）**
かかってきたi・ナンバーでどのポートを呼び出すかを設定します。
呼び出すポートの□をクリックして設定します。

⑤ **発信するポート（初期値：設定なし※）**
発信するi・ナンバーをポートごとに設定します。
○ をクリックして設定します。
※「IT40らくらくウィザード」で既に設定した場合は、その内容がここに表示されます。

注意！
電話番号の設定を正しくおこなわないと、相手に正しい電話番号が伝わらなかったり、INSネット64の各種サービスが利用できない場合があります。

●番号の送出方法

ダイヤルインサービスを利用している場合で、アナログ・ダイヤルインやモデム・ダイヤルインを使用するときに、アナログポートに接続した通信機器に送出する電話番号を設定します。

① **端末番号の送出方法（初期値：電話番号をそのまま送出）**
電話番号をそのままアナログポートに送出するか、電話番号を内線指定番号に変換して送出するかを設定します。
「送出する」側の○をクリックして◉にします。

② **内線指定番号（初期値：設定なし）**
0～9までの数字を使って4桁の任意の番号を設定できます。

●アナログポートの高度な設定

① **サブアドレス（初期値：設定なし）**
サブアドレスを入力します。

② **サブアドレスなし着信する（初期値：サブアドレスなし着信する）**
サブアドレスがない着信を受けるかどうかを設定します。

③ **発／着サブアドレスを通知する**
（ナンバー・ディスプレイ / モデム・ダイヤルイン利用時）（初期値：通知しない）
アナログポートにサブアドレスを通知するかしないかを選択します。

④ **ダイヤル桁間タイマ（初期値：5 秒）**
ダイヤル桁間タイマを設定します。「5秒」、「9秒」、「11秒」、「13秒」から選択します。

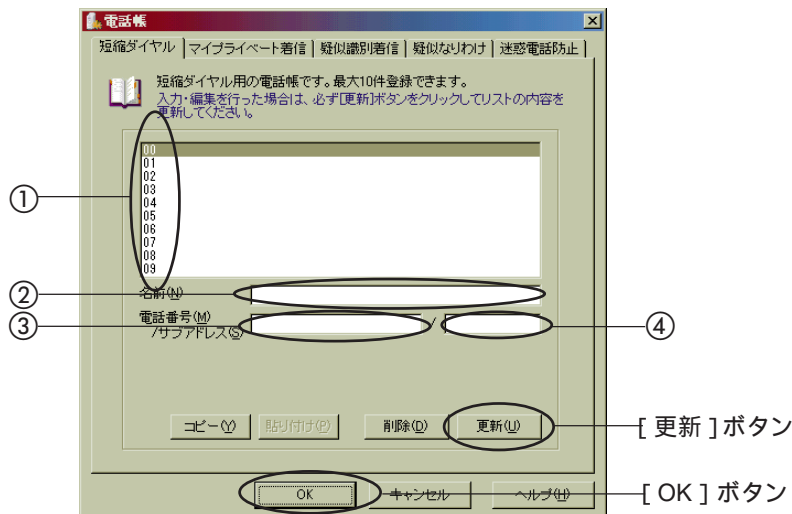
⑤ **フッキング検出タイマ（初期値：普通）**
フッキング検出タイマを設定します。
短い：0.03 ～ 1 秒　普通：0.3 ～ 1 秒　長い：0.5 ～ 1.5 秒

⑥ **HLC（高位レイヤ整合性）（初期値：HLC を設定しない）**
HLC（高位レイヤ整合性）の設定をします。

⑦ **識別着信（初期値：使用しない）**
識別着信をおこないます。
「疑似識別着信」に設定した場合は、電話帳 ボタンをクリックして識別着信する電話番号も設定します。☞ **5-10 ページ**
識別コールウェイティングするときには「通話中着信時のみ使用可能」のチェックボックスを ☑ にします。

⑧ **識別リンギング（初期値：使用しない）**
「疑似なりわけ」に設定した場合は、電話帳 ボタンをクリックして識別なりわけする電話番号も設定します。☞**5-11 ページ**

⑨ **リバースパルス（初期値：リバースパルスを送出しない）**
リバースパルスを送出するかしないかを設定します。
リバースパルスの検出によって通話を終了するしくみを持つ電話機対応の設定です。
留守番電話などで通話が切断されないときは「リバースパルスを送出する」に設定します。

● 短縮ダイヤル用の電話帳に登録する

ステップ1 ① **登録する番号を選択します**
番号は 00 ～ 09 の中から選択することができます。
② **名前の入力欄をクリックし、相手の名前を任意に入力します**
③ **電話番号の入力欄をクリックし、相手の電話番号を市外局番から入力します**
④ **サブアドレスがあるときは、サブアドレスの入力欄をクリックし、サブアドレスを入力します**

ステップ2 **[更新] ボタンをクリックします**

※続けて登録する場合はステップ 1 ～ステップ 2 を繰り返します。

ステップ3 **入力が終了したら [OK] ボタンをクリックします**

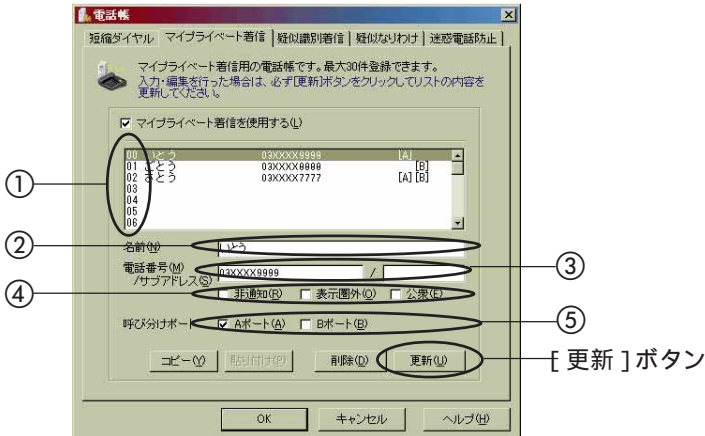
「IT40 らくらくユーティリティ」画面に戻ります。

登録内容を削除するときは

ステップ1 **削除する番号を選択します**

ステップ2 **[削除] ボタンをクリックします**
※ 続けて削除する場合はステップ 1 ～ステップ 2 を繰り返します。

ステップ3 **削除が終了したら [OK] ボタンをクリックします**

●マイプライベート着信用の電話帳に登録する

ステップ1 **[マイプライベート着信を使用する］のチェックボックスをクリックして ☑ にする**
マイプライベート着信を使用しないときは、［マイプライベート着信を使用する］のチェックボックスをもう一度クリックして☑を外します。

ステップ2 ① **登録する番号を選択します**
番号は 00 ～ 29 の中から選択することができます。
② **名前の欄をクリックし、相手の名前を任意に入力します**
③ **電話番号の入力欄をクリックし、相手の電話番号を市外局番から入力します**
④ **サブアドレスがあるときは、サブアドレスの入力欄をクリックし、サブアドレスを入力します**
⑤ **呼び分けポートを選択します**
呼び分けポート欄の中から着信するポートの前のチェックボックスを ☑ にします。

ステップ3 **更新 ボタンをクリックします**
※ 続けて登録する場合はステップ 2 ～ステップ 3 を繰り返します。

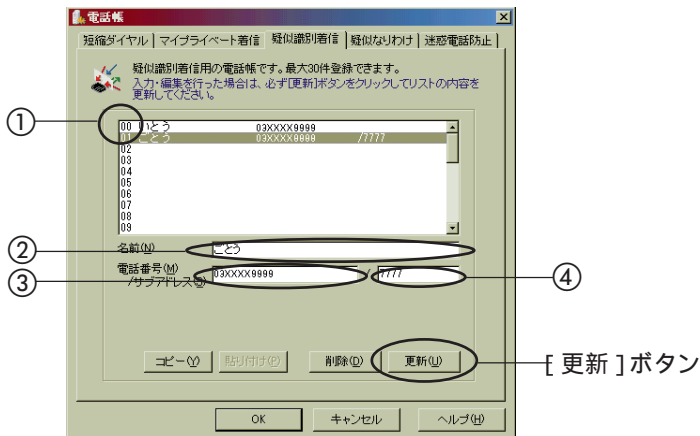
ステップ4 **入力が終了したら OK ボタンをクリックします**
「IT40 らくらくユーティリティ」画面に戻ります。

登録内容を削除するときは

ステップ1 **削除する番号を選択します**

ステップ2 **削除 ボタンをクリックします**
※ 続けて削除する場合はステップ 1 ～ステップ 2 を繰り返します。

ステップ3 **削除が終了したら OK ボタンをクリックします**

●疑似識別着信用の電話帳に登録する

ステップ1 ① **登録する番号を選択します**

番号は 00 ～ 29 の中から選択することができます。

② **名前の欄をクリックし、相手の名前を任意に入力します**

③ **電話番号の入力欄をクリックし、相手の電話番号を市外局番から入力します**

④ **サブアドレスがあるときは、サブアドレスの入力欄をクリックし、サブアドレスを入力します**

ステップ2 **[更新] ボタンをクリックします**

※ 続けて登録する場合はステップ 1 ～ステップ 2 を繰り返します。

ステップ3 **入力が終了したら [OK] ボタンをクリックします**

「IT40 らくらくユーティリティ」画面に戻ります。

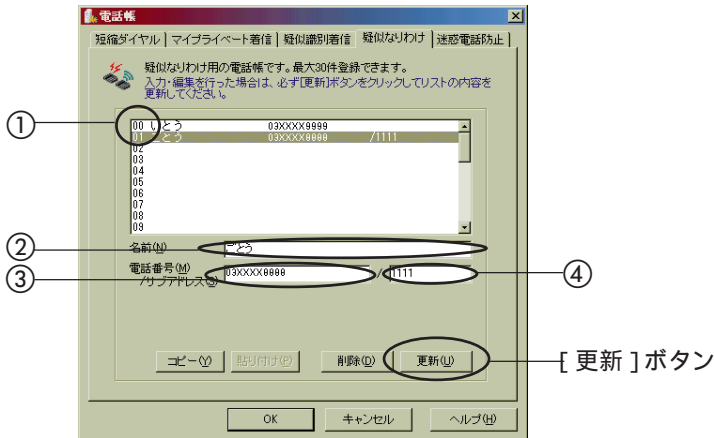
登録内容を削除するときは

ステップ1 **削除する番号を選択します**

ステップ2 **[削除] ボタンをクリックします**

※ 続けて削除する場合はステップ 1 ～ステップ 2 を繰り返します。

ステップ3 **削除が終了したら [OK] ボタンをクリックします**

●疑似なりわけ用の電話帳に登録する

ステップ1　① **登録する番号を選択します**

番号は 00 ～ 29 の中から選択することができます。

② **名前の欄をクリックし、相手の名前を任意に入力します**

③ **電話番号の入力欄をクリックし、相手の電話番号を市外局番から入力します**

④ **サブアドレスがあるときは、サブアドレスの入力欄をクリックし、サブアドレスを入力します**

ステップ2　**[更新] ボタンをクリックします**

※ 続けて登録する場合はステップ 1 ～ステップ 2 を繰り返します。

ステップ3　**入力が終了したら [OK] ボタンをクリックします**

「IT40 らくらくユーティリティ」画面に戻ります。

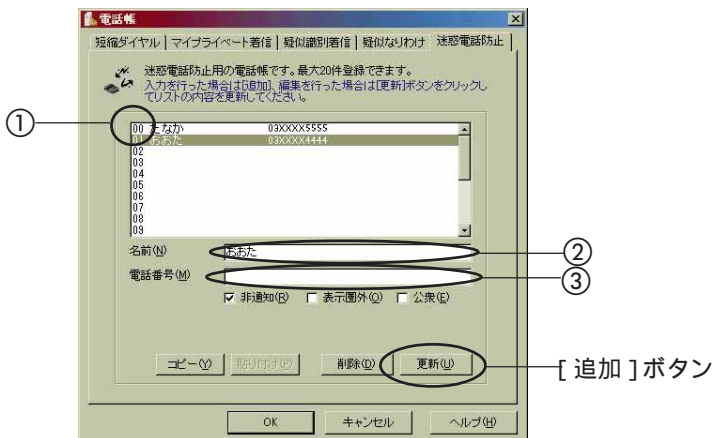
登録内容を削除するときは

ステップ1　**削除する番号を選択します**

ステップ2　**[削除] ボタンをクリックします**

※ 続けて削除する場合はステップ 1 ～ステップ 2 を繰り返します。

ステップ3　**削除が終了したら [OK] ボタンをクリックします**

●迷惑電話防止用の電話帳に登録する

ステップ1 ① **登録する番号を選択します**

番号は 00 〜 19 の中から選択することができます。

② **名前の欄をクリックし、相手の名前を任意に入力します**

③ **電話番号の入力欄をクリックし、相手の電話番号を市外局番から入力します**

非通知、表示圏外、公衆の着信を設定する場合は、それぞれの項目の左側のチェックボックスをチェックして☑にします。

ステップ2 **[追加] ボタンをクリックします**

※ 続けて登録する場合はステップ 1 〜ステップ 2 を繰り返します。

ステップ3 **入力が終了したら [OK] ボタンをクリックします**

「IT40 らくらくユーティリティ」画面に戻ります。

※ すでに登録されているデータを修正したときは、必ず[更新]ボタンをクリックしてください。

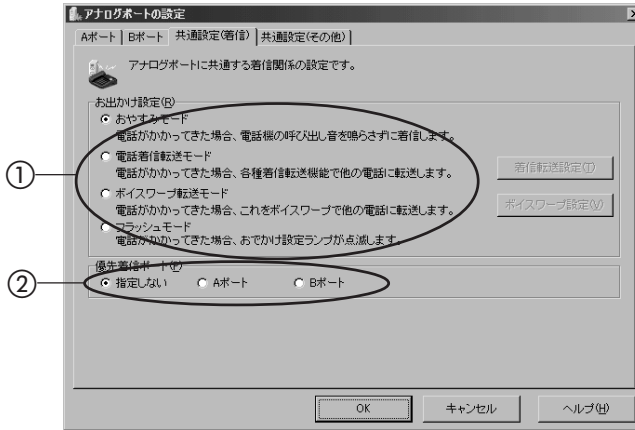
登録内容を削除するときは

ステップ1 **削除する番号を選択します**

ステップ2 **[削除] ボタンをクリックします**

※ 続けて削除する場合はステップ 1 〜ステップ 2 を繰り返します。

ステップ3 **削除が終了したら [OK] ボタンをクリックします**

●アナログポートの共通設定（着信）

① **お出かけ設定（初期値：おやすみモード）**
お出かけ設定をします。

●おやすみモード
おやすみモードを選びます。

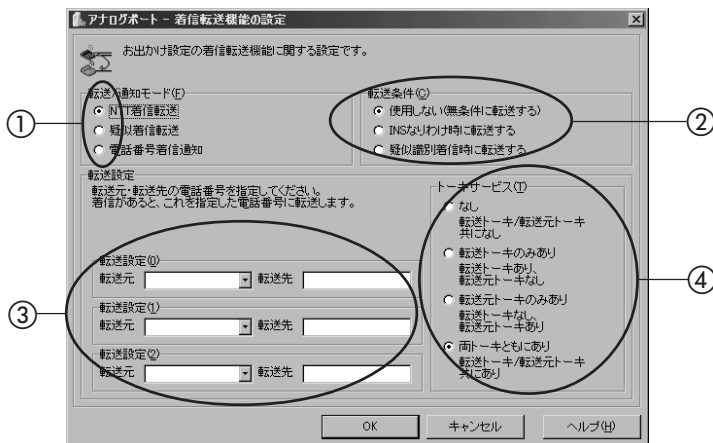
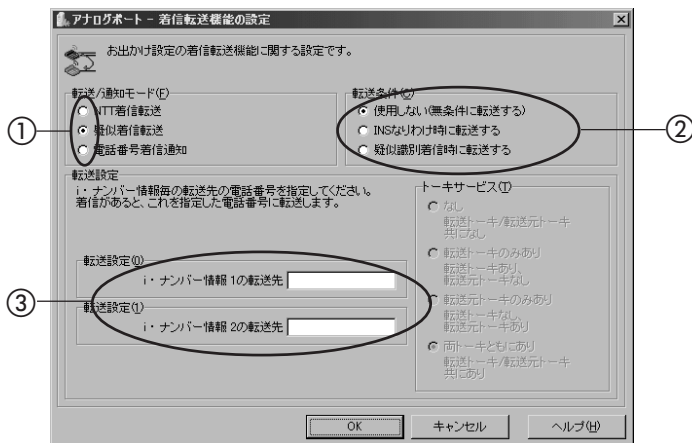
●電話着信転送モード
電話着信転送モードを選びます。併せて着信転送設定をおこないます。☞ **次ページ**

●ボイスワープ転送モード
ボイスワープ転送モードを選びます。併せてボイスワープ設定をおこないます。
☞ **5-16 ページ**

●フラッシュモード
フラッシュモードを選びます。

② **優先着信ポート（初期値：指定しない）**
優先着信ポートを指定しない設定や、優先着信するポートを選択します。

●アナログポートの着信転送機能の設定

［契約者回線番号またはダイヤルイン番号の場合］

［i・ナンバーの場合］

●「NTT 着信転送」または「疑似着信転送」を選択した場合

① 転送モード（初期値：疑似着信転送）

着信転送の方法を選択します。

② 転送条件（初期値：使用しない（無条件に転送する））

転送条件を設定します。

「疑似識別着信時に転送する」に設定した場合は、あらかじめ疑似識別着信用の電話帳に疑似識別する電話番号を登録しておきます。

次ページへ続く

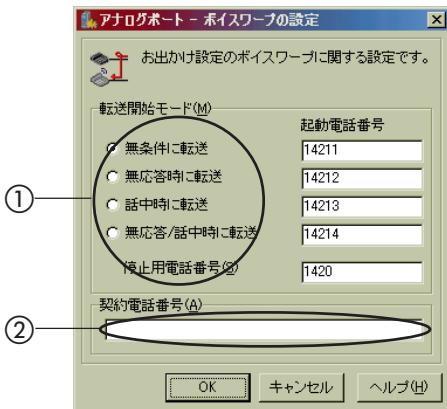
③ **転送設定（初期値：転送なし）**
着信転送や疑似着信転送をするときに、転送元の電話番号と転送先の電話番号を設定します。

- **契約者回線番号またはダイヤルイン番号の場合**
転送元の電話番号はプルダウンメニューから選択します。
転送先の電話番号は入力します。
※ 転送元のプルダウンメニューは設定済みの着信番号が表示されるので、着信番号を設定した後でおこなってください。

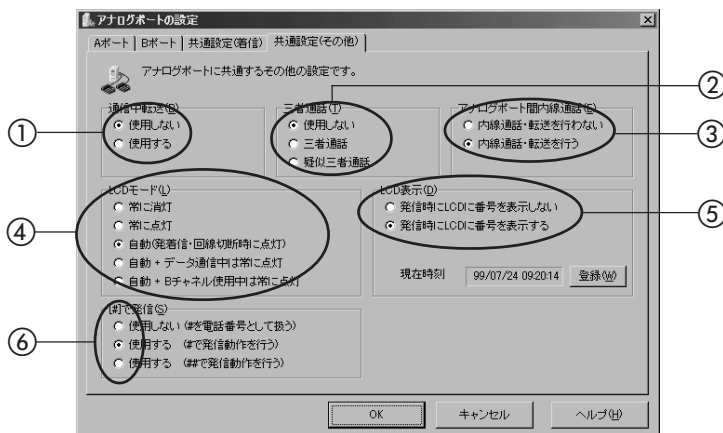
- **i・ナンバーの場合**
転送先の電話番号を入力します。

④ **トーキサービス（初期値：両トーキともにあり）**
着信転送時に転送トーキと転送元トーキを流すかどうかを設定します。
疑似着信転送では、転送トーキなしに固定されます。

●「電話番号着信通知」を選択した場合は、「着信転送先メールアドレス」と「BIGLOBE-ID」を入力してください。

●アナログポートのボイスワープの設定

① **転送開始モード**
転送開始モードを選択します。起動用電話番号がINSネット64付加サービス「INSボイスワープ」で変更された場合は、新たに入力します。また、ボイスワープ停止用電話番号がINSネット64付加サービス「INSボイスワープ」で変更された場合は、新たに入力します。

② **契約電話番号**
ボイスワープを契約した電話番号を入力します。

●アナログポートの共通設定（その他）

① **通信中転送（初期値：使用しない）**
通信中転送を使用するかどうかを設定します。

② **三者通話（初期値：使用しない）**
三者通話の設定をします。

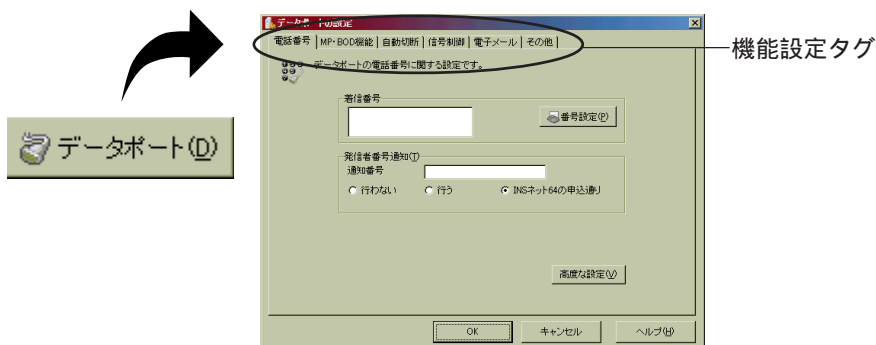
③ **アナログポート間内線通話（初期値：内線通話・転送をおこなう）**
内線通話の設定をします。

④ **LCD モード（初期値：自動）**
液晶ディスプレイのバックライトの点灯のしかたを設定します。

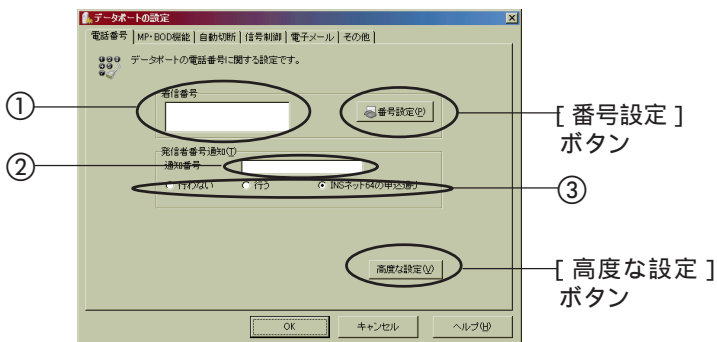
⑤ **LCD 表示（初期値：発信時に LCD に番号を表示する）**
液晶ディスプレイに番号表示をするかどうかを設定します。
「発信時にLCDに番号を表示する」に設定すると、発信するときにダイヤル番号を液晶ディスプレイに表示します。

⑥ **【＃】で発信（初期値：使用する）**
【＃】を押すとすぐに発信するか、しないかを設定します。
［使用する］場合は、【＃】または【＃】【＃】（＃を２回押す）で発信するかを選択します。

●データポートの設定

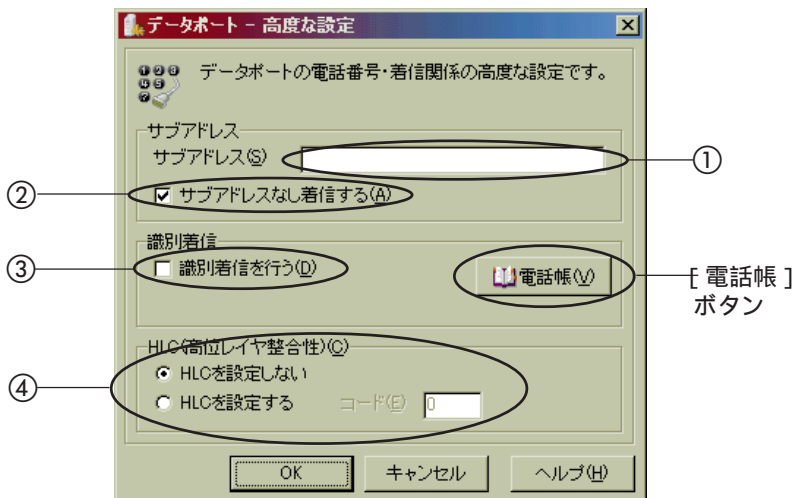
データポートがインターネットなどで通信中のときは、通信を終了してから設定をおこなってください。

〈データポート画面〉

※初期表示は電話番号タグ画面です。

●電話番号に関する設定

① **着信番号（初期値：設定なし）**
データポートで着信させる電話番号を設定します。設定は、 番号設定 ボタンをクリックして表示された［電話番号テーブル］画面でおこないます。☞**5-5, 5-6ページ**

② **通知番号（初期値：設定なし）**
［電話番号テーブル］画面で設定した通知番号が表示されます。

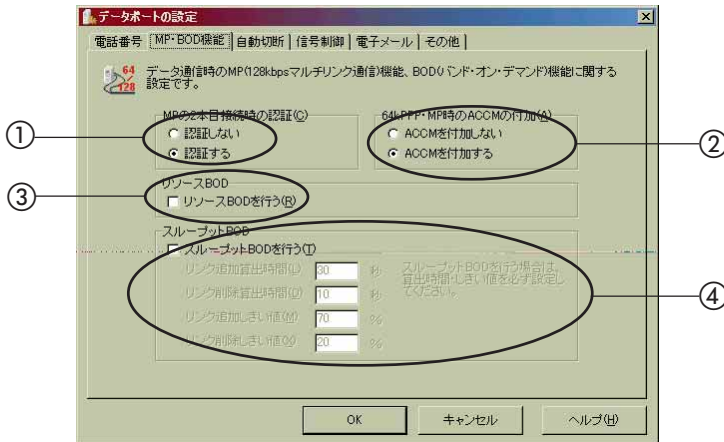
③ **発信者番号通知（初期値：INS ネット 64 の申込通り）**
契約者回線番号またはダイヤルイン番号を相手に通知するかどうかを設定します。

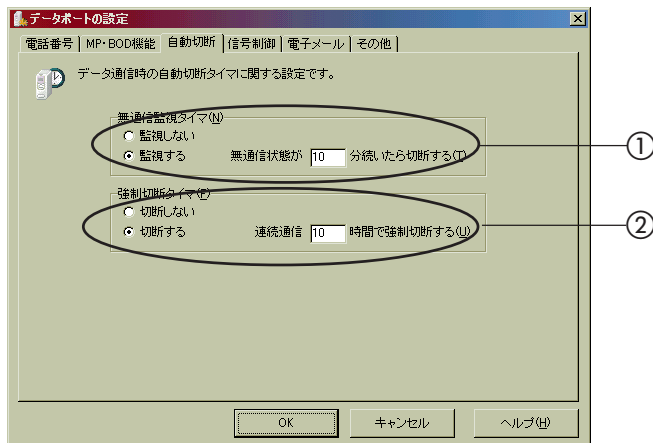
●データポートの高度な設定

① **サブアドレス（初期値：設定なし）**
サブアドレスを入力します。

② **サブアドレスなし着信する（初期値：サブアドレスなし着信する）**
サブアドレスがない着信を受けるかどうかを設定します。
☑（チェックマークをつける）で受ける設定になります。

③ **識別着信（初期値：識別をしない）**
識別着信するかしないかを設定します。
「識別着信する」に設定した場合は、電話帳 ボタンをクリックして識別着信する電話番号も設定します。☞**5-8 ページ**

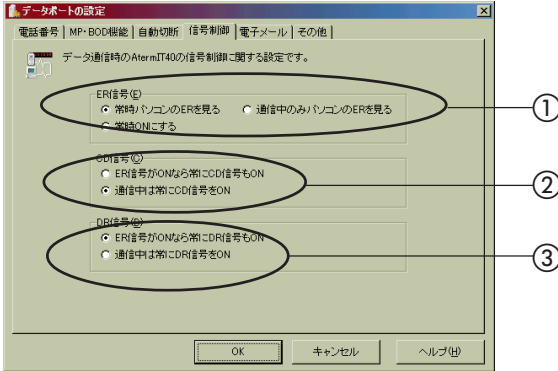
④ **HLC（高位レイヤ整合性）（初期値：HLC を設定しない）**
HLC（高位レイヤ整合性）の設定をします。

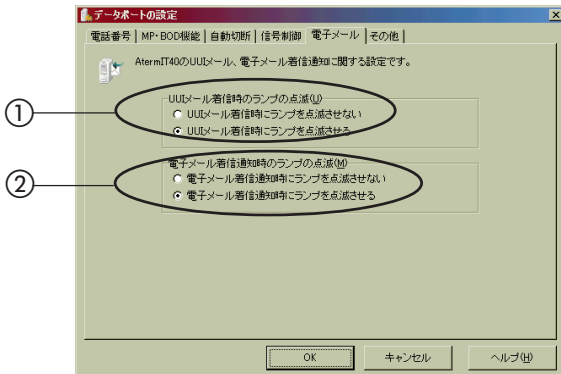
● MP･BOD 機能の設定

① **MP の 2 本目接続時の認証（初期値：認証する）**
　認証するかしないかを設定します。
② **64kPPP、MP 時の ACCM の付加（初期値：ACCM を付加する）**
　ACCM を付加するかしないかを設定します。
③ **リソース BOD（初期値：行わない）**
　リソース BOD の設定をします。
④ **スループット BOD（初期値：行わない）**
　スループット BOD の設定をします。
　スループット BOD を使用するときは、算出時間、しきい値のパラメータの入力もおこないます（初期値があります）。

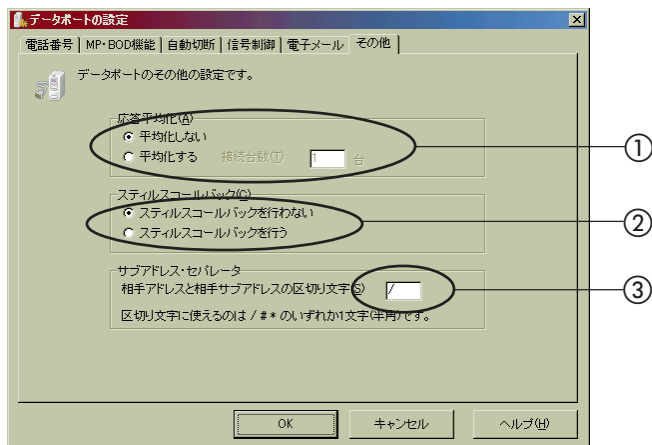
● 自動切断タイマに関する設定

① **無通信監視タイマ（初期値：監視する、10 分）**
監視するかしないかを設定をします。
「監視する」に設定したときは、その時間も入力します。

② **強制切断タイマ（初期値：切断する、10 時間）**
切断するかしないかを設定をします。
「切断する」に設定したときは、その時間も入力します。

● 信号線に関する設定

通信ソフトウェアで設定しますので特に設定する必要はありません。
詳しくは［ヘルプ］ボタンをクリックしてヘルプをご覧ください。

① **ER 信号（初期値：常時パソコンの ER を見る）**
　ER 信号の設定をします。
② **CD 信号（初期値：通信中は常に CD 信号を ON）**
　CD 信号の設定をします。
③ **DR 信号（初期値：ER 信号が ON なら常に DR 信号も ON）**
　DR 信号の設定をします。

● 電子メールに関する設定

① **UUI メール着信時のランプの点滅（初期値：ランプを点滅させる）**
　UUI メール着信時のランプを点滅させるかどうかを設定します。
② **電子メール着信通知時のランプの点滅（初期値：ランプを点滅させる）**
　電子メール着信通知時にランプを点滅させるかどうかを設定します。
　電子メール着信通知をご利用になるためには BIGLOBE との契約が必要です。

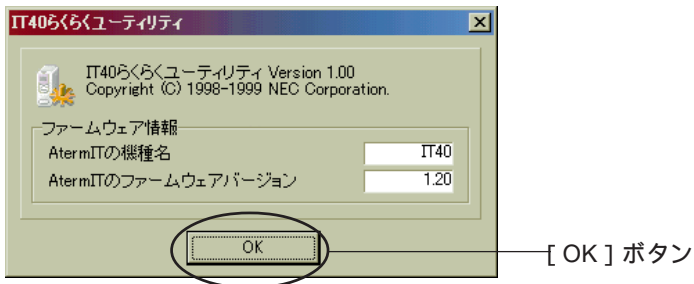
●その他の機能に関する設定

① **応答平均化（初期値：平均化しない）**
応答平均化するかしないかの設定します。
「平均化する」を選択したときは、1本のINSネット64に接続しているAtermの台数も入力します。

② **スティルスコールバック（初期値：スティルスコールバックを行わない）**
スティルスコールバックをおこなうかどうかを設定します。

③ **サブアドレス・セパレータ（初期値：／）**
発信する時にサブアドレスを使う場合、発信アドレスとサブアドレスを区切るサブアドレス・セパレータを設定します。
／、#、＊（半角のみ）が設定できます。

●バージョン情報を見る

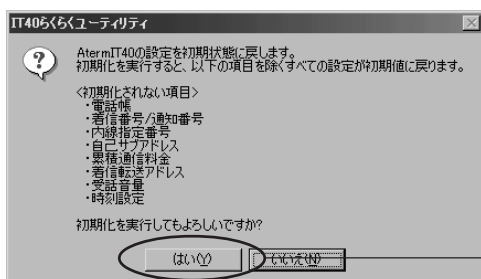
IT40らくらくユーティリティとAtermのファームウェアのバージョン情報を見ることができます。

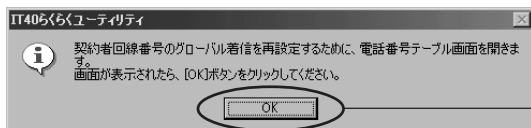
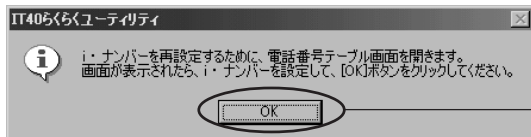
[IT40らくらくユーティリティ]画面の バージョン ボタンをクリックします

ステップ2 **見終わったら OK ボタンをクリックします**

●初期化する

初期化をおこなうと、電話帳、着信番号、通知番号、内線指定番号、自己サブアドレス、着信転送アドレス、累積通信料金、受話音量設定値、カレンダを除くすべての設定が初期値に戻ります。

ステップ1 **[IT40 らくらくユーティリティ］画面の 初期化 ボタンをクリックします**

ステップ2 **はい ボタンをクリックします**

ステップ3 **初期化が終了すると次の画面が表示されるので OK ボタンをクリックします**

・「i・ナンバーを使用しない」に設定している場合

・「i・ナンバーを使用する」に設定している場合

電話番号テーブルが表示されます。

ステップ4 **電話番号テーブルを設定してから OK ボタンをクリックします**

「i・ナンバーを使用する」に設定している場合は、i・ナンバーの設定をしてから OK ボタンをクリックします

5-2. パソコンで設定する
（Macintosh での設定）

ここでは「IT40 らくらくユーティリティ」を使った設定のしかたを説明します。

らくらくユーティリティの起動のしかた

① ［IT40 ユーティリティ］フォルダ中の［IT40 らくらくユーティリティ］アイコンをダブルクリックします

② IT40 らくらくユーティリティが起動し、「メニュー（簡易設定）」画面が表示されます

各画面の設定のしかた

- 設定する機能を選択し、設定します（◉や ☒ をチェックする）
- 文字入力は入力欄の ［　　　］ をクリックして、キーボード入力します
- 設定内容を登録します（ 登録 ボタンをクリックして登録完了）

- アナログポート着信中は、登録 ボタンをクリックしないでください。クリックすると呼出音が途切れたりすることがあります。
- 着信中はアナログポートの設定内容を登録することはできません。

設定が終わったら

- IT40 らくらくユーティリティ終了時は必ず終了画面で はい ボタンをクリックして Aterm のフラッシュメモリに書き込みます

これで Aterm の電源を切っても設定値が消えません。
※困った時は ヘルプ ボタンをクリックして、ヘルプを参照してください。

①　契約者回線番号のグローバル着信選択、通知 / 着信番号、内線指定番号

②③　アナログポート接続機器選択、コールウェイティング、発信者番号通知設定、番号設定

④　三者通話、着信転送、識別着信転送、通信中転送、内線通話・転送、優先着信ポート指定、マイプライベート着信、【#】発信

⑤　発信者番号通知設定、番号設定

⑥　短縮ダイヤル番号、マイプライベート着信番号、疑似識別着信番号、疑似なりわけ、迷惑電話防止番号

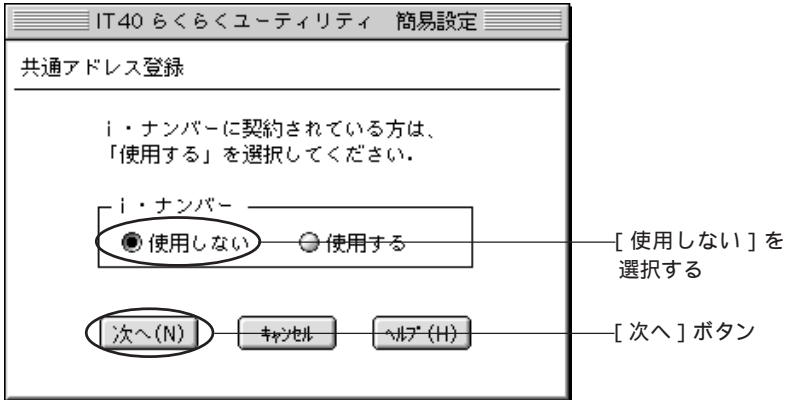
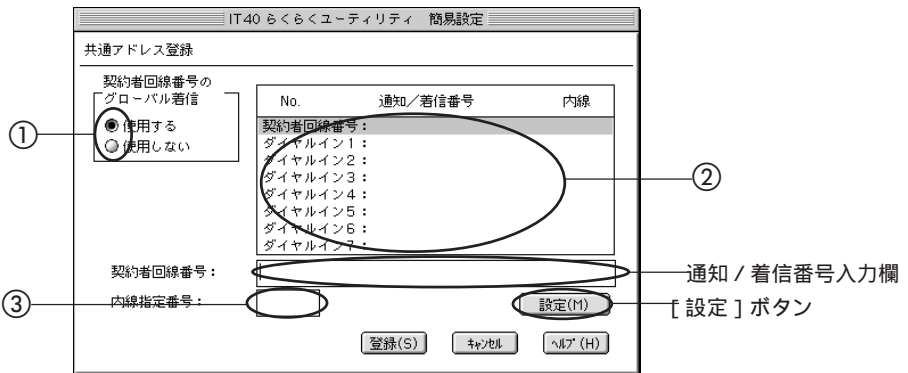
⑦　でかけるモード（おやすみ、電話着信転送、ボイスワープ転送、フラッシュ）

⑧　回線状態・信号線・切断理由表示、通話料金表示、着信情報表示、発信番号表示

⑨
- アナログポート：識別着信、識別リンギング、サブアドレス無し着信選択、HLC 設定、ダイヤル桁間タイマ設定、フッキング検出タイマ設定、リバースパルス送出、情報通知サービスの設定、停電モードの設定
- データポート：識別着信、サブアドレス無し着信選択、HLC 設定、スティルスコールバック、応答平均化、無通信監視タイマ、強制切断タイマ
- BOD 機能：リソース BOD、スループット BOD、スループット BOD パラメータ
- データポート信号制御：ER 信号、CD 信号、DR 信号
- 各種情報表示：回線状態・信号線・切断理由表示、通信料金表示、着信情報表示、発信者番号表示

簡易設定

● 共通アドレスの登録(契約者回線番号/ダイヤルイン番号の登録)

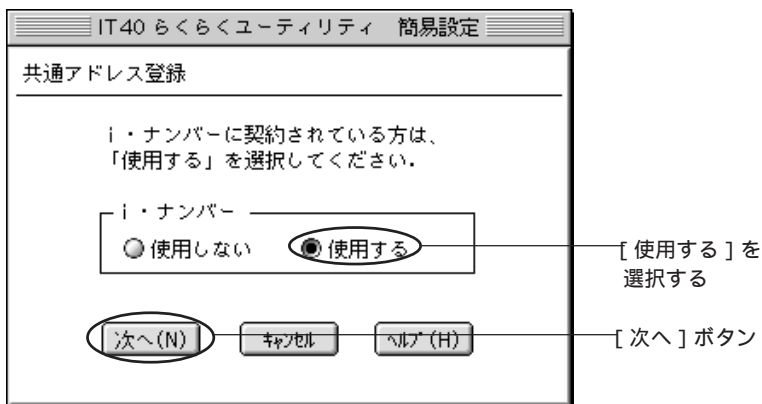
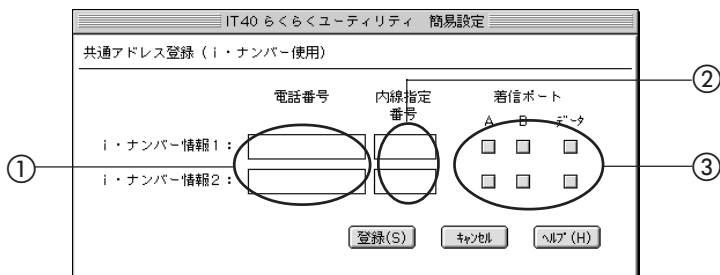
ここでは各ポートに共通する各種アドレス(電話番号)の登録をおこないます。
次の画面で[i・ナンバー]の[使用しない]をクリックし、次へ ボタンをクリックします。
[i・ナンバーを使用する]場合は、次ページの[i・ナンバーを設定する]を参照してください。

[共通アドレス登録]画面が表示されます。

① **契約者回線番号のグローバル着信選択(初期値:使用する)**
契約者回線番号のグローバル着信の設定を契約と合わせて設定します。

② **通知 / 着信番号**
契約している契約者回線番号およびダイヤルイン番号の通知 / 着信番号を入力します。

③ **内線指定番号**
アナログ・ダイヤルインサービスを使用する場合、内線番号を入力します。

「通知 / 着信番号」を登録する場合、任意の番号を選んでクリックしてから通知／着信番号入力欄に電話番号を入力します。

● 共通アドレスの登録（i・ナンバーの設定）

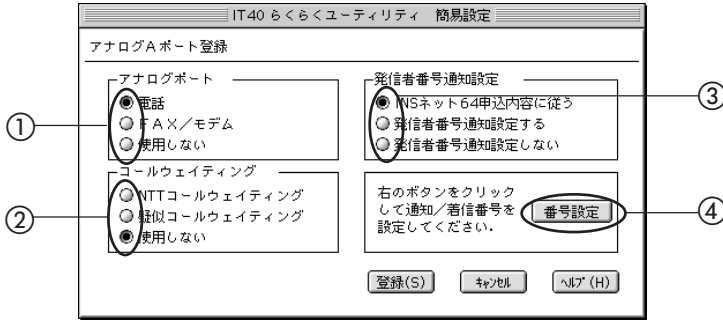
次の画面で［i・ナンバー］の［使用する］をクリックし、次へ ボタンをクリックします。

［共通アドレス登録］画面が表示されます。

① **電話番号（初期値：設定なし）**
i・ナンバー情報欄に電話番号を入力します。

② **内線指定番号（初期値：設定なし）**
アナログ・ダイヤルインやモデム・ダイヤルインを使用するときに設定します。
0～9までの数字を使って4桁の任意の番号を設定できます。

③ **着信ポート（初期値：設定なし）**
かかってきたi・ナンバーでどのポートを呼び出すかを設定します。
呼び出すポートの□をクリックして設定します。

電話番号の設定を正しくおこなわないと、相手に正しい電話番号が伝わらなかったり、INSネット64の各種サービスが利用できない場合があります。

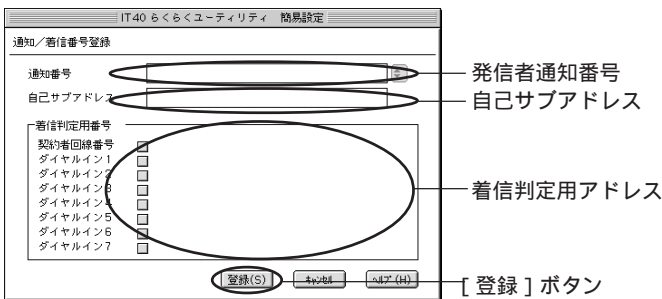
●アナログポートの設定

ここでは、アナログ A ポートの登録で説明します。
電話中などで使用中のときは、電話を切るなどしてから設定をおこなってください。

① **アナログポート（初期値：電話）**
アナログポートに接続されている機器の種類を設定します。

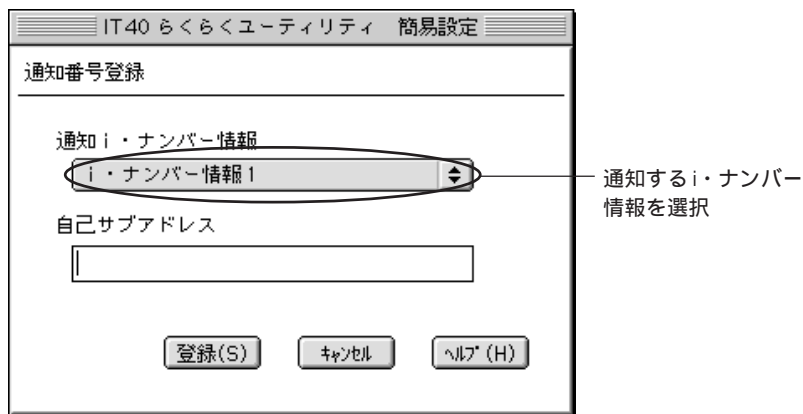
② **コールウェイティング（初期値：使用しない）**
コールウェイティングの種類を設定します。

③ **発信者番号通知設定（初期値：INS ネット 64 申込内容に従う）**
契約者回線番号またはダイヤルイン番号を相手に通知するかどうかを設定します。

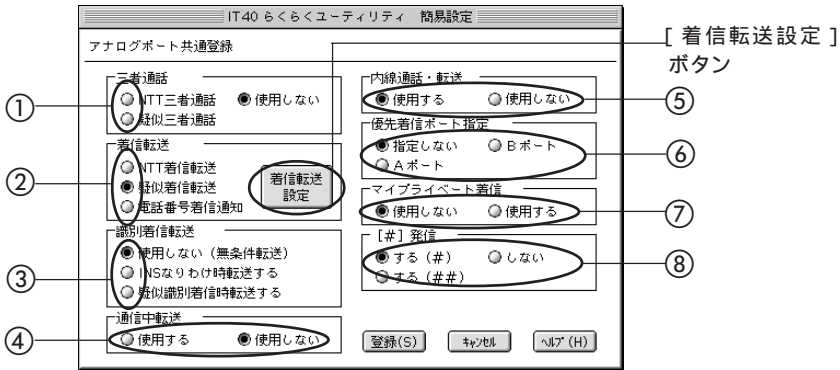
④ **番号設定**
アナログポートの発信者通知番号と着信判定用番号を選択します。
番号設定 ボタンをクリックします。

[契約者回線番号またはダイヤルイン番号の場合]

[契約者回線番号またはダイヤルイン番号の場合]（発信者）通知番号には、契約した電話番号の中から発信時に通知する電話番号を選択します。
着信判定用番号は、共通アドレス登録で登録した電話番号から□をクリックして☑にして選択します。最大 8 個まで選択可能です。

次ページへ続く

[i・ナンバーの場合]

相手に通知する電話番号をi・ナンバー情報 1, 2 から選択します。

自己サブアドレスを使用する場合は入力します（通常は入力しません）。
登録 ボタンをクリックします。

●アナログポート共通登録

① **三者通話（初期値：使用しない）**
三者通話の設定をします。

② **着信転送（初期値：疑似着信転送）**
着信転送の設定をします。
着信転送設定 ボタンをクリックして「着信転送先番号」と「転送トーキ」も設定します。 ☞ **次ページ**

③ **識別着信転送（初期値：使用しない）**
識別着信転送の設定をします。

④ **通信中転送（初期値：使用しない）**
通話中転送の設定をします。

⑤ **内線通話・転送（初期値：使用する）**
内線通話・転送の設定をします。

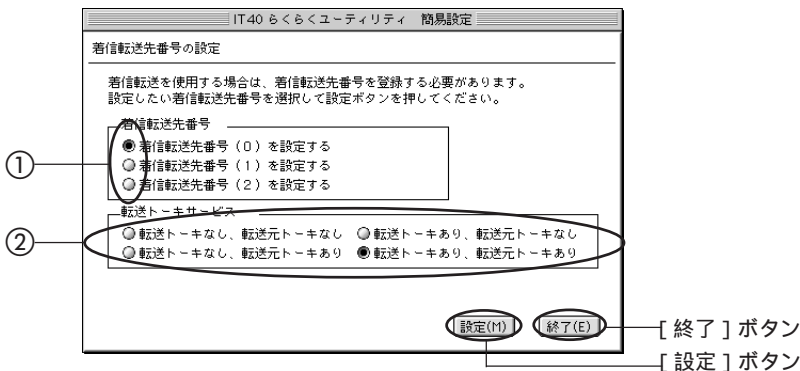
⑥ **優先着信ポート指定（初期値：指定しない）**
優先着信ポートの設定をします。

⑦ **マイプライベート着信（初期値：使用しない）**
マイプライベート着信の設定をします。

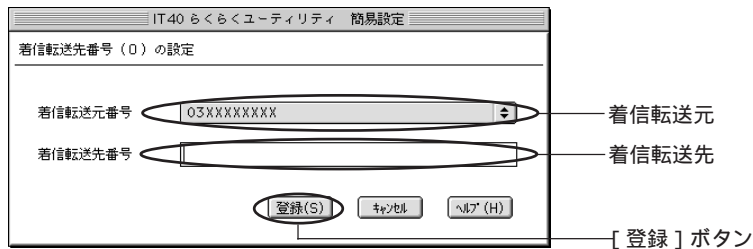
⑧ **【＃】発信（初期値：する（＃））**
【＃】を押すとすぐに発信するか、しないかを設定します。
【＃】発信する場合は、【＃】または【＃】【＃】（＃を２回押す）で発信する選択をします。

＜着信転送＞

[契約者回線番号またはダイヤルイン番号の場合]

「着信転送」の 着信転送設定 ボタンをクリックすると［着信転送先番号の設定］画面が表示されます。

① **着信転送先番号**

着信転送をおこなう着信転送先番号を選択し、転送トーキサービスを選択してから 設定 ボタンをクリックします。

着信転送先番号の設定画面が表示されます。

着信転送元番号をプルダウンメニューから選択し、着信転送先番号（電話番号）を入力してから、登録 ボタンをクリックします。

※着信転送元のプルダウンメニューには設定済みの着信番号が表示されます。
　画面は着信転送先番号(0)の例です。

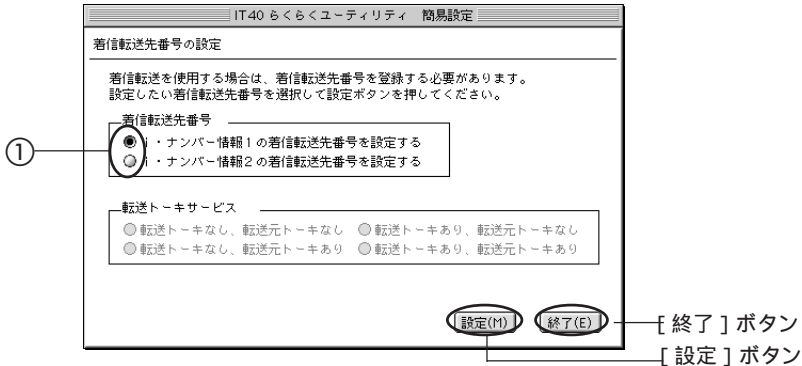
② **転送トーキサービス（初期値：転送トーキあり、転送元トーキあり）**

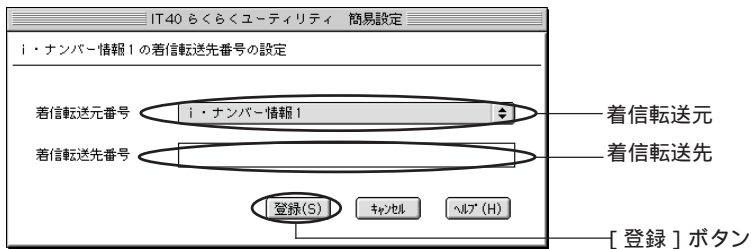
着信転送時に転送トーキと転送元トーキを流すかどうかを設定します。電話番号ごとに設定することはできません。また疑似着信転送では、転送トーキなしに固定されます。

③ **電話番号着信通知（遊遊メール）のときは、「BIGLOBE-ID」を入力します。**

＜着信転送＞

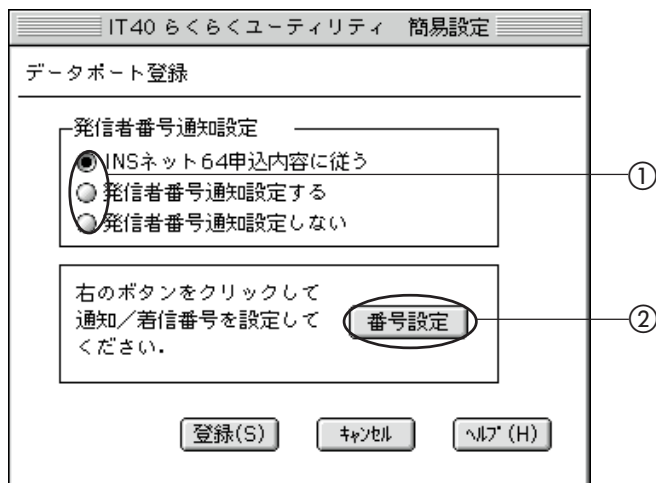
[i・ナンバーの場合]

「着信転送」の 着信転送設定 ボタンをクリックすると［着信転送先番号の設定］画面が表示されます。

① **着信転送先番号**

着信転送をおこなうi・ナンバー情報を選択し、設定 ボタンをクリックします。
着信転送先番号の設定画面が表示されます。

着信転送元番号をプルダウンメニューから選択し、着信転送先番号（電話番号）を入力してから、登録 ボタンをクリックします。

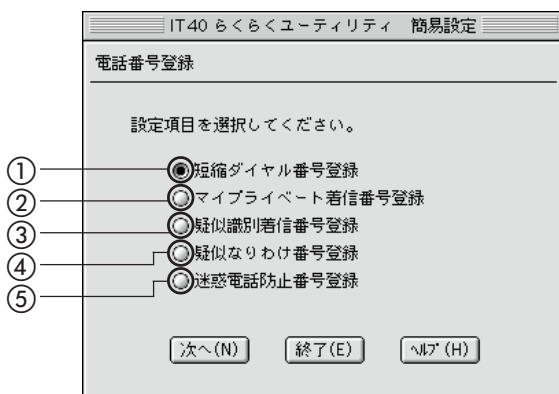
※着信転送元のプルダウンメニューには設定済みのi・ナンバー情報が表示されます。
画面はi・ナンバー情報１の例です。

② **電話番号着信通知（遊遊メール）のときは、「BIGLOBE-ID」を入力します。**

●データポート登録

① **発信者番号通知設定（初期値：INS ネット 64 申込内容に従う）**
契約者回線番号またはダイヤルイン番号を相手に通知するかどうかを設定します。

② **番号設定（初期値：設定なし）**
通知する番号と着信する番号を設定します。
発信者通知番号を選択し、必要であれば、自己サブアドレスを入力します。
着信判定用番号は、共通アドレス登録で登録したi・ナンバーまたは電話番号から選択します。

● 電話番号の登録

ここでは電話の発 / 着信機能を使う上で事前におこなっておく必要のある電話番号の登録について説明します。

① **短縮ダイヤル番号登録（最大 10 件）**
　短縮ダイヤル番号の設定をします。

② **マイプライベート着信番号登録（最大 30 件）**
　マイプライベート着信番号の設定をします。
　相手の電話番号の他に着信させるポートも設定します。

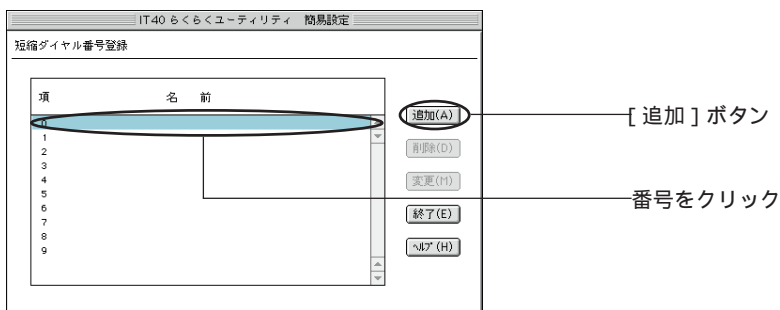
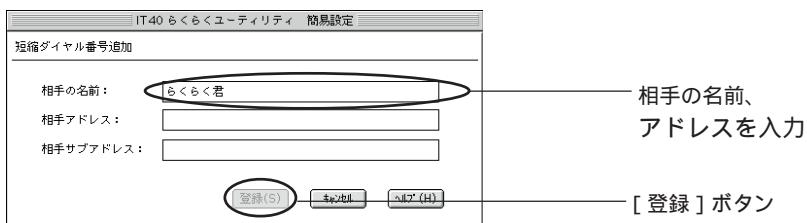
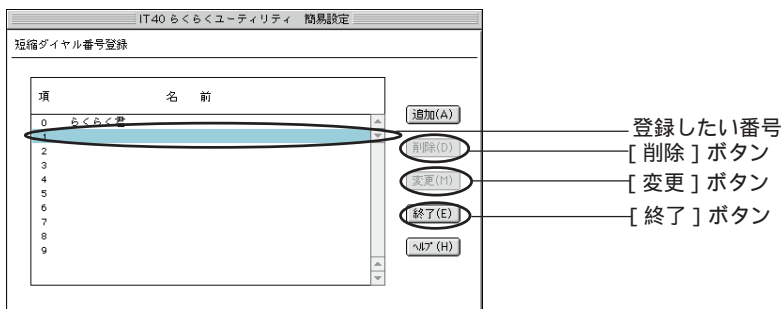
③ **疑似識別着信番号登録（最大 30 件）**
　疑似識別着信番号の設定をします。

④ **疑似なりわけ番号登録（最大 30 件）**
　疑似なりわけ番号の設定をします。

⑤ **迷惑電話防止番号登録（最大 20 件）**
　迷惑電話防止番号の設定をします。

次ページに具体例として短縮ダイヤル番号登録の手順を説明しています。
他の電話番号登録も同様の手順でおこなえます。

＜短縮ダイヤル番号登録＞

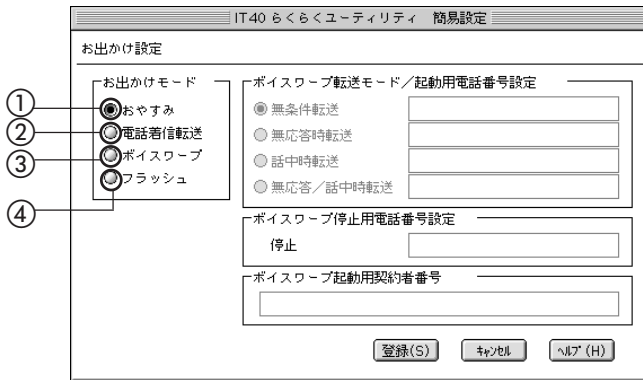
ステップ1 **登録したい番号と 追加 ボタンをクリックします**

ステップ2 **相手の名前欄に名前を、相手アドレス欄に電話番号を入力し、 登録 ボタンをクリックします**

ステップ3 **続けて登録するときは、登録したい番号をクリックし、ステップ1〜2をくり返します**

● **登録番号を変更したい場合**

ステップ1で 追加 ボタンの代わりに 変更 ボタンをクリックします。ステップ2の操作は同じです。

● **登録番号を削除したい場合**

ステップ1で 追加 ボタンの代わりに 削除 ボタンをクリックします。ステップ2の操作は必要がありません。

● お出かけ設定

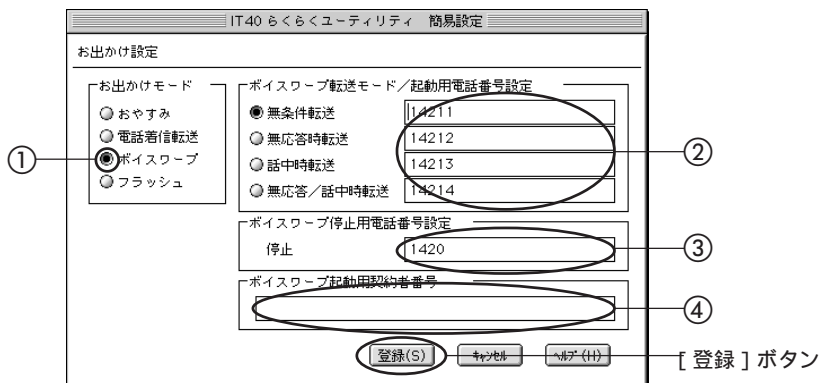
ここで設定した内容は、Aterm 本体のでかけるボタンを押すとそのモードに入ります。

① **おやすみモード**
　おやすみモードを選びます。

② **電話着信転送モード**
　電話着信転送モード（疑似着信転送、NTT 着信転送、電話番号着信通知（遊遊メール））を選びます。アナログポート共通登録の着信転送で選んだ転送方式になります。

③ **ボイスワープ転送モード**
　ボイスワープを選びます。

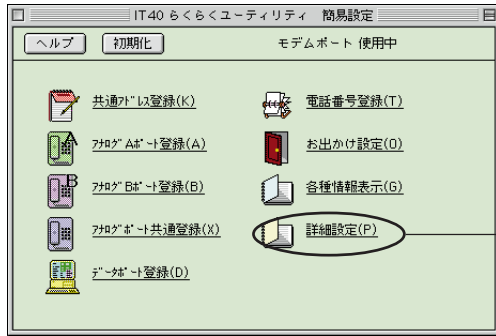
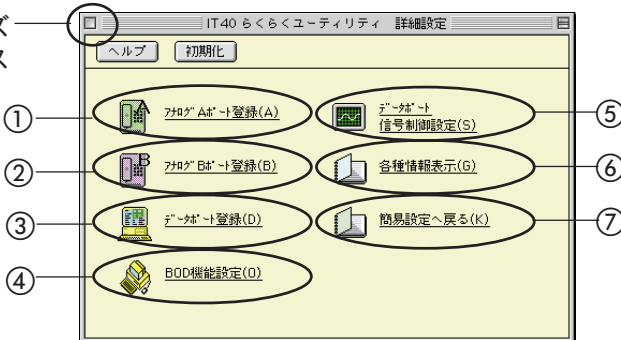
次ページも併せて設定します。

④ **フラッシュモード**
　フラッシュモードを選びます。

<ボイスワープ転送モード>

① ボイスワープをクリックします。
② ボイスワープの開始モードを選択します。起動用電話番号は INS ネット 64 の付加サービス「INS ボイスワープ」で変更された場合のみ、新たに入力します。
③ ボイスワープ停止用電話番号は INS ネット 64 の付加サービス「INS ボイスワープ」で変更された場合のみ、新たに入力します。
④ INS ボイスワープを契約した電話番号を入力します。

登録 ボタンをクリックします。

詳細設定

［簡易設定］画面で［詳細設定］をクリックします

＜詳細設定画面＞

①② ――― 識別着信、識別リンギング、サブアドレス無し着信選択、HLC設定、ダイヤル桁間タイマ設定、フッキング検出タイマ設定、リバースパルス送出、情報通知サービスの設定、停電モードの設定

③ ――― 識別着信、サブアドレス無し着信選択、HLC設定、スティルスコールバック、応答平均化、無通信監視タイマ、強制切断タイマ

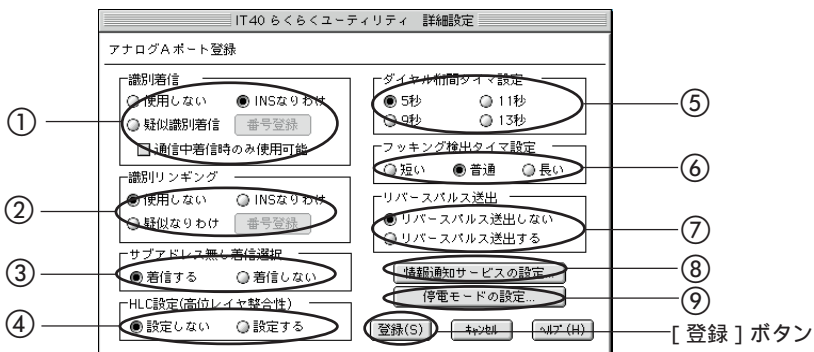
④ ――― リソースBOD、スループットBOD、スループットBODパラメータ

⑤ ――― ER信号、CD信号、DR信号

⑥ ――― 「4 さまざまな情報を見る」をご覧ください。☞4-1ページ

⑦ ――― 簡易設定画面へ戻ります

●アナログポートの登録

アナログ A ポートの登録で説明します。

① **識別着信（初期値：使用しない）**
識別着信をするかしないかとその方法を設定します。
疑似識別着信を選択したときは、番号登録 ボタンをクリックして、表示された画面で相手電話番号を登録します。
また、識別着信転送をおこなうときは、「通信中着信時のみ使用可能」を☑します。

② **識別リンギング（初期値：使用しない）**
識別リンギングをするかしないかとその方法を設定します。

③ **サブアドレス無し着信選択（初期値：着信する）**
サブアドレスがない着信を受けるかどうかを設定します。

④ **HLC 設定（高位レイヤ整合性）（初期値：設定しない）**
HLC（高位レイヤ整合性）の設定をします。

⑤ **ダイヤル桁間タイマ設定（初期値：5 秒）**
ダイヤル桁間タイマを設定します。
「5 秒」、「9 秒」、「11 秒」、「13 秒」から選択します。

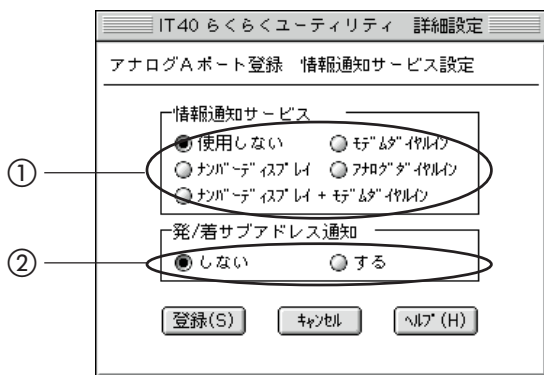
⑥ **フッキング検出タイマ設定（初期値：普通）**
フッキング検出タイマを設定します。

⑦ **リバースパルス送出（初期値：送出しない）**
リバースパルスを送出するかしないかを設定します。
リバースパルスの検出によって通話を終了するしくみを持つ電話機対応の設定です。
留守番電話などで通話が切断されないときは「リバースパルス送出する」に設定します。

⑧ **情報通知サービス設定**
着信した電話番号をアナログポートに接続した電話機に通知する際のサービスの種類を設定します。 ☞ **次ページ**

⑨ **停電モードの設定** ☞ **5-43 ページ**
停電時に着信するかしないかを設定します。

＜情報通知サービスの設定＞

情報通知サービスの設定 ボタンをクリックすると表示されます。

① 情報通知サービス（初期値：使用しない）

着信した電話の番号をアナログポートに接続した電話機に通知する際のサービスを5 つの項目から選択できます。

「ナンバーディスプレイ」： ナンバーディスプレイ対応電話機を使用する場合に選択します。

「ナンバーディスプレイ＋モデムダイヤルイン」： ナンバー・ディスプレイとモデム・ダイヤルインを同時に使用する場合に選択します。

「モデムダイヤルイン」： モデム・ダイヤルインを使用する場合に選択します。

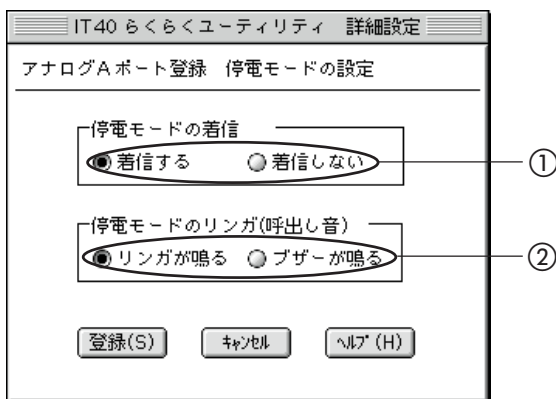
「アナログダイヤルイン」： アナログ・ダイヤルインを使用する場合に選択します。

「使用しない」： 何も情報通知がされません。

② 発／着サブアドレス通知（初期値：しない）

「情報通知サービス」で「ナンバー・ディスプレイ」、「ナンバー・ディスプレイ＋モデム・ダイヤルイン」、「モデム・ダイヤルイン」のいずれかを選択した場合でサブアドレスも通知する場合に、発／着信時にサブアドレス通知をするかしないかを設定します。

＜停電モードの設定＞（アナログ A ポート）

停電モードの設定 ボタンをクリックすると表示されます。

① **停電モードの着信（初期値：着信する）**

停電時に着信するかしないかを設定します。

② **停電モードのリンガ（呼出し音）（初期値：リンガが鳴る）**

① 停電モードの着信を「着信する」に設定したときに、リンガが鳴るかブザーが鳴るかを設定します。「ブザーが鳴る」に設定した場合、停電モード時に着信があるとAterm 内蔵のブザーが鳴ります。

ただし「アナログダイヤルイン」に設定してある場合は、ブザーは鳴らずにリンガが鳴ります。

ナンバー・ディスプレイやモデム・ダイヤルインをご利用の場合は、停電時の着信音を「リンガが鳴る」にすることを推奨します。「ブザーが鳴る」に設定されていると発信者番号や着信番号が正常に表示されない場合があります。

●データポート登録

① **識別着信（初期値：しない）**
　識別着信するかしないかを設定します。
　識別着信する場合は、［番号登録］ボタンをクリックして表示された画面で相手の電話番号を登録してください。

② **サブアドレス無し着信選択（初期値：着信する）**
　サブアドレスがない着信を受けるかどうかを設定します。

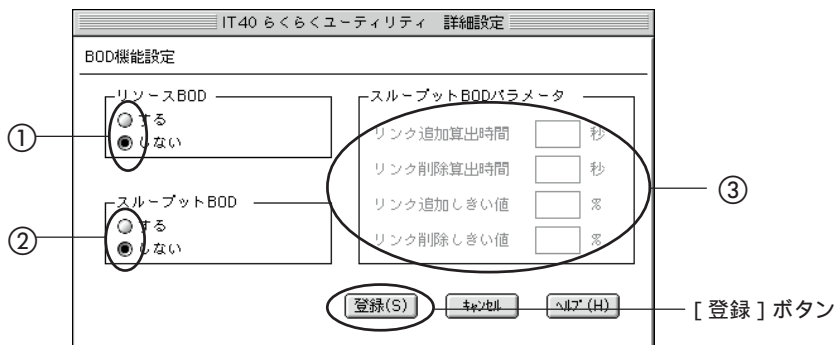
③ **HLC 設定（高位レイヤ整合性）（初期値：設定しない）**
　HLC（高位レイヤ整合性）の設定をします。

④ **スティルスコールバック（初期値：コールバックしない）**
　スティルスコールバックの設定をします。

⑤ **応答平均化（初期値：応答平均化しない）**
　応答平均化の設定をします。

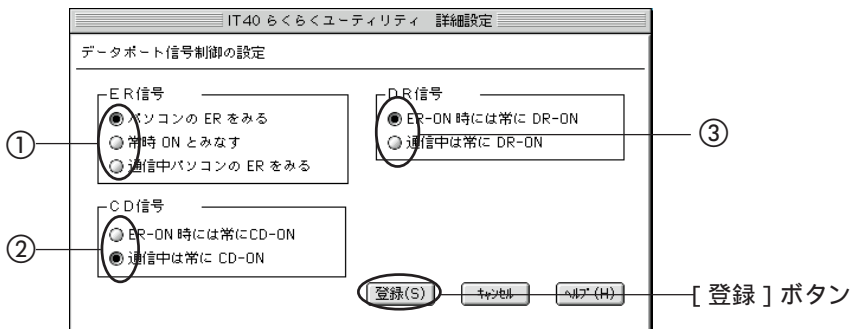
⑥ **無通信監視タイマ（初期値：監視する、10 分）**
　無通信監視タイマの設定をします。
　「監視する」に設定したときは、その時間も入力します。

⑦ **強制切断タイマ（初期値：切断する、10 時間）**
　強制切断タイマの設定をします。
　「切断する」に設定したときは、その時間も入力します。

● BOD (Bandwidth On Demand) 機能

① **リソース BOD（初期値：しない）**
リソース BOD の設定をします。

② **スループット BOD（初期値：しない）**
スループット BOD の設定をします。

③ **スループット BOD パラメータ**
②スループット BOD の設定を「する」にしたときに、算出時間としきい値の設定をします（初期値があります）。

● データポート信号制御の設定

① **ER 信号（初期値：パソコンの ER をみる）**
ER 信号の設定をします。

② **CD 信号（初期値：通信中は常に CD-ON）**
CD 信号の設定をします。

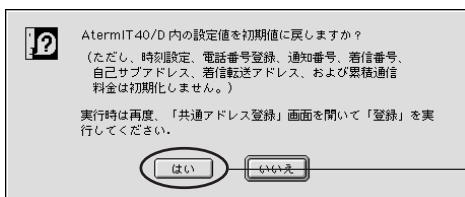
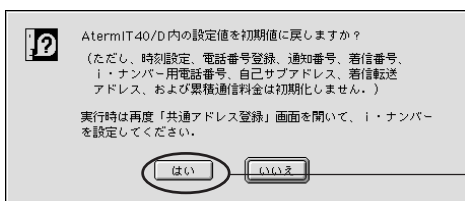
③ **DR 信号（初期値：ER-ON 時には常に DR-ON）**
DR 信号の設定をします。

●初期設定値に戻す

注意! 初期化をおこなうと、電話帳、通知番号、着信番号、内線指定番号、自己サブアドレス、着信転送アドレス、累積通信料金、受話音量設定、カレンダを除くすべての設定が初期値に戻ります。

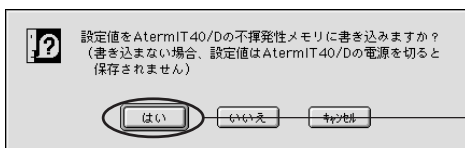
ステップ1 「IT40 らくらくユーティリティ簡易設定」画面の 初期化 ボタンをクリックすると次の画面が表示されます

ステップ2 はい ボタンをクリックすると初期化されます

・i・ナンバーを「使用しない」に設定している場合

・i・ナンバーを「使用する」に設定している場合

●らくらくユーティリティを終了する

ステップ1 [詳細設定] 画面を開いている場合は、「クローズボックス」をクリックします

ステップ2 [簡易設定] 画面のクローズボックスをクリックします

ステップ3 [設定値をAtermIT40/Dの不揮発性メモリに書き込みますか？]が表示されるので、はい ボタンをクリックします

Aterm の不揮発性メモリに設定内容が登録されます。
Aterm の電源を切っても設定した内容が残ります。

5-3. 電話機で設定する

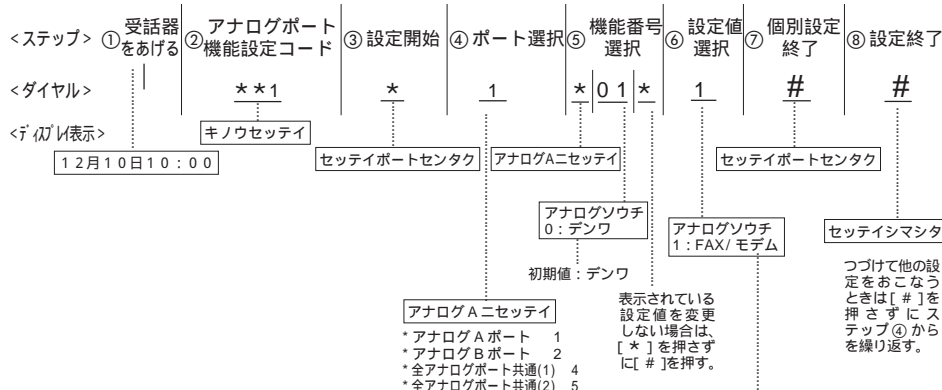
パソコンが使える場合は、ご使用の環境に応じて5-1章や5-2章で設定することをおすすめします。
電話機からの設定では、Aterm の液晶ディスプレイを見ながら設定します。電話機は Aterm の近くに置いて操作してください。また、設定をおこなう電話機以外は、すべて受話器を置いた状態にしてください。

設定のしかた

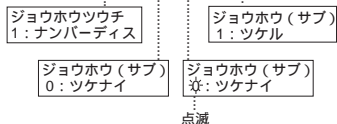
電話機で各種機能の設定をするためには、下記のような合計12桁（異なる設定もあります）のダイヤル操作をおこなってください。

利用したい機能の設定値は次ページ以降（☞5-48～5-50ページ）の設定項目一覧を参照してください。

●ダイヤル操作例

「アナログ A ポートをアナログポート接続機器選択で FAX ／モデムに設定する」場合

・**情報通知サービス**
・**着信転送**
・**着信番号**
・**マイプライベート着信**
の場合<ステップ>⑥がこの操作になります。

「情報通知サービスのナンバー・ディスプレイを選択し、情報通知サービス時のサブアドレスを つける に設定する」場合
（設定値と追加設定値の間に [#][*] を入力してください。ただし、追加設定値のない場合は設定値入力後ステップ⑦へ進んでください）

<ステップ> ⑥設定値・追加設定値選択
<ダイヤル> 1 # * 1
<液晶ﾃﾞｨｽﾌﾟﾚｲ表示>
ジョウホウツウチ 1：ナンバーディス
ジョウホウ（サブ） 0：ツケナイ
ジョウホウ（サブ） 0：ツケナイ
点滅
ジョウホウ（サブ） 1：ツケル

つづけて他の設定もおこなう場合は

ステップ⑦「個別設定終了（1回目の＃）」の後、ステップ④「ポート選択」から繰り返しおこなってください。
設定を終了（または中断）する場合は、受話器を置いてください。

設定項目一覧

＜個別アナログポート設定＞ アナログポート(A, B)毎に設定が必要な項目

機能	機能番号	設定内容	設定値
ｱﾅﾛｸﾞﾎﾟｰﾄ接続機器選択	01	電話	0
		FAX ／ﾓﾃﾞﾑ	1
		なし	2
ｺｰﾙｳｪｲﾃｨﾝｸﾞ	02	使用しない	0
		NTTｺｰﾙｳｪｲﾃｨﾝｸﾞ	1
		疑似ｺｰﾙｳｪｲﾃｨﾝｸﾞ	2
ｾｷｭﾘﾃｨ+ 選択ｺｰﾙｳｪｲﾃｨﾝｸﾞ	03	使用しない	0
		INS なりわけ識別着信	1
		疑似識別着信	2
		INS なりわけ選択ｺｰﾙｳｪｲﾃｨﾝｸﾞ	3
		疑似選択ｺｰﾙｳｪｲﾃｨﾝｸﾞ	4
HLC	04	使用しない	0
		使用する	1
		使用するが着信判定はしない	2
ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ着信	05	着信する	0
		着信しない	1
ｻﾌﾞｱﾄﾞﾚｽなし着信	06	着信する	0
		着信しない	1
ﾀﾞｲﾔﾙ桁間ﾀｲﾏ	07	5 秒	0
		9 秒	1
		11 秒	2
		13 秒	3
ﾌｯｷﾝｸﾞ検出ﾀｲﾏ	08	30ms - 1000ms	0
		300ms - 1000ms	1
		500ms - 1500ms	2

機能	機能番号	設定内容	設定値
発信者番号通知 発信者番号通知	09	発信者番号を通知しない	0
		発信者番号を通知する	1
		INSﾈｯﾄ64 の申込内容に従う	2
受話音量	12	小	0
		中	1
		大	2
ﾘﾊﾞｰｽﾊﾟﾙｽ送出	13	送出しない	0
		送出する	1
通話中の受話音量変更	14	変更しない（*# 無効）	0
		変更する（*# 有効）	1
識別ﾘﾝｷﾞﾝｸﾞ	15	使用しない	0
		INS なりわけ	1
		疑似なりわけ	2
着信番号選択	91	8 件の着信番号から選択 選択ｺﾏﾝﾄﾞ：0 次頁ｺﾏﾝﾄﾞ：1 選択番号確認：2 次番号参照 ：3 前番号参照 ：4	
相手に通知する電話番号	92	32 桁まで（0~9 のみ使用）	0~9
自己ｻﾌﾞｱﾄﾞﾚｽ	93	19 桁まで（0~9 のみ使用）	0~9
着信するﾎﾟｰﾄ	94	i・ﾅﾝﾊﾞｰ情報 1	1
		i・ﾅﾝﾊﾞｰ情報 2	2
発信するﾎﾟｰﾄ	95	i・ﾅﾝﾊﾞｰ情報 1	1
		i・ﾅﾝﾊﾞｰ情報 2	2

アナログ・ダイヤルインまたはモデム・ダイヤルインを使用する方は、内線指定番号の設定をします。

機能	機能番号	設定内容	設定値	追加機能	追加設定内容	追加設定値
情報通知ｻｰﾋﾞｽ ※ 1	10	しない	0			
		ﾅﾝﾊﾞｰ・ﾃﾞｨｽﾌﾟﾚｲ	1	情報通知ｻｰﾋﾞｽ時のｻﾌﾞｱﾄﾞﾚｽ	つけない	0
		ﾓﾃﾞﾑ・ﾀﾞｲﾔﾙｲﾝ	2		つける	1
		ｱﾅﾛｸﾞ・ﾀﾞｲﾙｲﾝ	3			
		ﾅﾝﾊﾞｰ・ﾃﾞｨｽﾌﾟﾚｲ＆ﾓﾃﾞﾑ・ﾀﾞｲﾔﾙｲﾝ	4	情報通知ｻｰﾋﾞｽ時のｻﾌﾞｱﾄﾞﾚｽ	つけない	0
					つける	1

※ 1 通常は設定する必要はありません

＜全アナログポート共通設定＞　（1）

機能	機能番号	設定内容	設定値
停電時の着信 (Aﾎﾟｰﾄのみ 着信可能)	22	着信ﾌﾞｻﾞｰ	0
		着信ﾘﾝｶﾞ	1
		着信なし	3
優先着信 ﾎﾟｰﾄ ※2	23	優先なし	0
		Aを優先	1
		Bを優先	2
内線通話・ 内線転送	24	使用しない	0
		使用する	1
三者通話	25	使用しない	0
		NTT三者通話	1
		疑似三者通話	2
通信中転送	26	使用しない	0
		使用する	1
選択着信転送	28	無条件転送	0
		INSなりわけ機能による転送	1
		疑似識別着信転送	2
着信転送先 ｱﾄﾞﾚｽ	30	着信転送先(0)	0~9
	31	着信転送先(1)	0~9
	32	着信転送先(2)	0~9
電話番号転送先 ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ	35	転送先ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ(0)	英数字 記号 ※4
	36	転送先ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ(1)	
	37	転送先ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ(2)	
着信転送元※3 ｱﾄﾞﾚｽ・ ｻﾌﾞｱﾄﾞﾚｽ	40	着信転送元(0)	0~9
	41	着信転送元(1)	0~9
	42	着信転送元(2)	0~9

機能	機能番号	設定内容	設定値
着信転送元※3 ｱﾄﾞﾚｽ・ ｻﾌﾞｱﾄﾞﾚｽ	43	着信転送元 ｻﾌﾞｱﾄﾞﾚｽ(0)	0~9
	44	着信転送元 ｻﾌﾞｱﾄﾞﾚｽ(1)	0~9
	45	着信転送元 ｻﾌﾞｱﾄﾞﾚｽ(2)	0~9
短縮番号	50~59	ｱﾄﾞﾚｽ部分	0~9
	60~69	ｻﾌﾞｱﾄﾞﾚｽ部分	0~9
累積料金表示・ 初期化	70	累積料金→0円	1
発信時ｱﾄﾞﾚｽ 表示	71	表示しない	0
		表示する	1
ﾏｲﾌﾟﾗｲﾍﾞｰﾄ着信	72	使用しない	0
		使用する	1
お出かけﾓｰﾄﾞ	73	おやすみﾓｰﾄﾞ	1
		電話着信転送ﾓｰﾄﾞ	2
		ﾎﾞｲｽﾜｰﾌﾟ転送ﾓｰﾄﾞ	3
		ﾌﾗｯｼｭﾓｰﾄﾞ	4
ﾎﾞｲｽﾜｰﾌﾟ転送 ﾓｰﾄﾞ	74	無条件転送	1
		無応答時転送	2
		話中時転送	3
		無応答または話中時転送	4
＃発信	75	発信しない	0
		＃で発信する	1
		＃＃で発信する	2
i・ﾅﾝﾊﾞｰ	76	使用しない	0
		使用する	1

※2「使用しない」に設定したアナログポートの選択はできません。
※3 併せて着信番号の設定もおこなってください。
※4 英数字記号は**3-39ページ**の文字入力コマンド一覧表を参照して入力してください。

機能	機能番号	設定内容	設定値	追加機能	追加設定内容	追加設定値
着信転送	27	着信転送	1	転送ﾄｰｷ	なし・なし	0
					あり・なし	1
					なし・あり	2
					あり・あり	3
		疑似着信転送	2			
		電話番号着信転送	3			
着信番号	80～87	電話番号	0～9	内線指定番号※5	内線指定番号	0～9

※ 5はアナログ・ダイヤルイン、モデム・ダイヤルイン使用時に設定します。
（通常は設定する必要はありません）

＜全アナログポート共通設定＞　(2)

機能	機能番号	設定内容	設定値	追加設定		設定値
ﾏｲﾌﾟﾗｲﾍﾞｰﾄ 着信	100~129	ｱﾄﾞﾚｽ(32桁)､ｻﾌﾞｱﾄﾞﾚｽ(19桁) P：ﾋﾂｳﾁ C：ｺｳｼｭｳﾃﾞﾝﾜ O：ﾋｮｳｼﾞｹﾝｶﾞｲ※5	0~9 *01 *02 *03	着信 ﾎﾟｰﾄ 選択	Aﾎﾟｰﾄ	1
					Bﾎﾟｰﾄ	2
識別ﾘﾝｷﾞﾝｸﾞ	200~229	ｱﾄﾞﾚｽ(32桁)､ｻﾌﾞｱﾄﾞﾚｽ(19桁) ※6	0~9			
ｾｷｭﾘﾃｨ＋ 選択ｺｰﾙｳｪﾃｨﾝｸﾞ	300~329	ｱﾄﾞﾚｽ(32桁)､ｻﾌﾞｱﾄﾞﾚｽ(19桁) ※6	0~9			
i･ﾅﾝﾊﾞｰ情報 の電話番号	901	i･ﾅﾝﾊﾞｰ情報1の電話番号 参照・設定	0～9			
	902	i･ﾅﾝﾊﾞｰ情報2の電話番号 参照・設定	0～9			
ﾎﾞｲｽﾜｰﾌﾟ設定	910 911	停止番号既存値参照・設定 無条件番号既存値参照・設定	0~9 0~9			
	912	無応答番号既存値参照・設定	0~9			
	913	話中番号既存値参照・設定	0~9			
	914	無応答＋話中番号 既存値参照・設定	0~9			
	919	自己ｱﾄﾞﾚｽ参照・設定	0~9			

※6 サブアドレスを使用するときは、アドレスを設定した後【#】【*】を押して、つづけてサブアドレスを設定します。通常はサブアドレスの設定をする必要はありません。

ご購入時の初期設定値に戻すときは

Atermに設定した内容をすべて消去し、ご購入時の状態に戻します。

この操作をおこなうと、すでに設定された内容がすべて消去されます。また、本装置の全ての通信は切断されますので、通信中でないことを確認してから操作してください。

初期化は、Aterm前面のボタンを使っても同様の操作をすることができます。 **☞1-14ページをご覧ください。**

Atermの液晶ディスプレイ

ステップ1 受話器をあげます

接続してある電話機のどれからでも設定できます。

12月　1日　10：00

ステップ2 【*】【*】【9】【8】と押します

ショキカシマス

ステップ3 【*】を押します

設定内容を消去します。液晶ディスプレイ表示は右図のようになります。

1月　1日　0：00

ステップ4 受話器を置きます

日付・時刻を設定する

液晶ディスプレイに表示する月、日、時、分の設定をおこないます。

Atermの液晶ディスプレイ

ステップ1 **受話器をあげます**
接続してある電話機のどれからでも設定できます。

1月　1日　　0：00

ステップ2 **【*】【*】【1】【*】と押します**

セッテイポ゜ートセンタク

ステップ3 **【9】を押します**

ジ゛コク　セッテイ

ステップ4 **【*】を押します**

99年01月01日
00：00

ステップ5 **年、月、日、時、分の順に入力します**
年は、西暦の下2桁を入力します。
月、日、時、分、が1桁の場合は、0も入力します。
例：1999年12月1日10時10分の場合
【9】【9】【1】【2】【0】【1】【1】【0】【1】【0】と入力します。
● 【*】を押すと入力場所がスキップします。

ステップ6 **【#】を押します**

99年12月01日
10：10

5秒後

12月　1日　10：10

ステップ7 **受話器を置きます**
● 入力の途中で受話器を置くと設定がキャンセルされます。

参考

カレンダの代わりに機種名を表示させることができます。
受話器をあげて次の操作をします。

Atermの液晶ディスプレイ

● **「カレンダ」を表示させる場合**
【*】【*】【8】【1】【1】を押します。

アイド゛ルヒョウジ゛
1：トケイ

● **「機種名」を表示させる場合**
【*】【*】【8】【1】【0】を押します。

アイド゛ルヒョウジ゛
0：Aterm

液晶ディスプレイのバックライトを設定する

Aterm の液晶ディスプレイは、バックライトにより点灯表示する機能を持っています。初期値では、発信中や着信中にバックライトが点灯しますが、常時点灯または点灯しないように設定することができます。
必要に応じて設定してください。

● AUTO モード（初期設定）

発信中や着信中に点灯し、その他のときは消灯します。ただし、停電モード時は、点灯しません。

●点灯モード

Atermの電源が入っているときは、いつでも点灯します。停電モード中は点灯しません。

●消灯モード

消灯モードでは、常時バックライトは点灯しません。

● AUTO ＋データ通信中点灯モード

AUTO モードでの点灯に加え、データ通信中も点灯します。

● AUTO ＋ B チャネル使用中点灯モード

AUTO モードでの点灯に加え、B チャネル使用中も点灯します。

ステップ1　受話器をあげます

接続してある電話機のどれからでも設定できます。

ステップ2　変更するモードによって次のように押します

AUTO ＋ B チャネル使用中点灯モード
：【*】【*】【8】【0】【4】
AUTO ＋データ通信中点灯モード
：【*】【*】【8】【0】【3】
AUTO モード ：【*】【*】【8】【0】【2】
点灯モード ：【*】【*】【8】【0】【1】
消灯モード ：【*】【*】【8】【0】【0】

ステップ3　受話器を置きます

Aterm の液晶ディスプレイ

```
12月10日    9：47
```

```
ハ゛ックライト
1：ON
```

点灯モードのとき

迷惑電話防止機能を使う

●かかってきた電話を迷惑電話に登録する

ステップ1 **通話が終って受話器を置きます**

ステップ2 **受話器をあげます**

Atermの液晶ディスプレイ

12月　1日　　9：47

アナログAポートで通話していた例

ステップ3 **【*】【*】【5】【2】を押します**

相手の電話番号が表示されます。

メイワクデ゛ンワトウロク 03xxxxxxxx ■

ステップ4 **【1】を押します**

03XXXXXXXX キョヒシマス

次の場合でも迷惑電話防止登録ができます。
P：ヒツウチ
C：コウシュウデンワ
O：ヒョウジケンガイ
これらが表示されたときは、【1】を押した後に「P：ヒツウチ キョヒシマスカ?」と確認表示されますので迷惑電話に登録する場合は、【#】を押してください。
ただし、登録すると、例えば「P：ヒツウチ」の場合、電話番号を通知してこない電話はすべて受けられなくなりますのでご注意ください。

ステップ5 **【#】を押します**

セッテイシマシタ

ステップ6 **受話器を置きます**

●電話番号を新規に登録する

Atermの液晶ディスプレイ

ステップ1 **受話器をあげます**

接続してある電話機のどれからでも設定できます。

12月　1日　　9：47

ステップ2 **【*】【*】【5】【2】【2】を押します**

メイワクデ゛ンワトウロク ＿

ステップ3 **[電話番号]【#】を押します**

最大15桁

例：03XXXXXXXX

P：ヒツウチを登録する場合

→【*】【0】【1】

C：コウシュウデンワを登録する場合

→【*】【0】【2】

O：ヒョウジケンガイを登録する場合

→【*】【0】【3】

03XXXXXXXX■ キョヒシマス

参考

長い電話番号を見るには
【*】【4】前ページを見る
【*】【6】次ページを見る

ステップ4 **【#】を押します**

引き続き設定するときは、【*】を押します。ステップ2の表示になります。

登録は最大20件入力可能です。

セッテイシマシタ ＊：ツギ゛　　#：オワリ

ステップ5 **受話器を置きます**

●登録した電話番号を参照・削除する

ステップ1 **受話器をあげます**

接続してある電話機のどれからでも設定できます。

12月　1日　　9：47

ステップ2 **【*】【*】【5】【3】を押します**

- 次の登録内容を見るときは【8】を押します。
- ひとつ前の登録内容を見るときは【2】を押します。
- 登録件数を確認するときは【5】を押します。

メイワクデ゛ンワ
03XXXXXXXX■

長い電話番号を見るには
【4】前ページを見る
【6】次ページを見る

ステップ3 **削除したい電話番号が表示されている画面で【*】を押します**

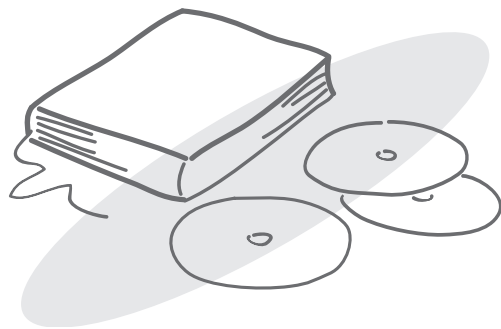
相手の電話番号が表示されます。

サクシ゛ョシマス

ステップ4 **【*】を押します**

サクシ゛ョシマシタ

ステップ5 **受話器を置きます**

サンショウ　シュウリョウ

6 付録

6-1. バージョンアップのしかた

Atermは、添付の「IT40らくらくバージョンアップ」を使ってファームウェアのバージョンアップができます。

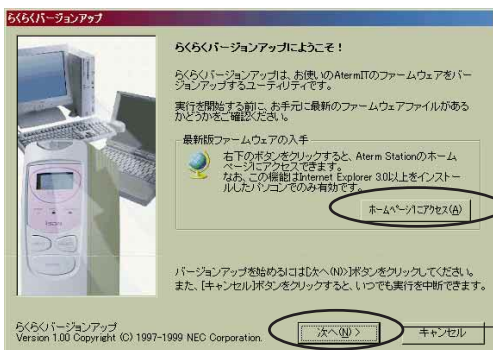
※ファームウェア .... Atermに内蔵されているフラッシュメモリに書き込まれるソフトウェアのことです。Atermの新規機能を追加した新しいバージョンのファームウェアを書き込むと新規機能を使用できるようになります。

Windows98/Windows95,Windows NT4.0 の場合

ステップ1 **［スタート］→［プログラム］→［AtermIT40 ユーティリティ］→［IT40 らくらくバージョンアップ］の順に選択します**

［らくらくバージョンアップ］画面が表示されます。

ステップ2 **ホームページにアクセス ボタンをクリックします**

※ すでにバージョンアップ用のファームウェアをお持ちの場合は、次へ ボタンをクリックし、ステップ 5 からの操作をしてください。

自動的にプロバイダに電話をかけ、接続されるとインターネットエクスプローラが起動され、AtermStation にアクセスします。

① AtermStation のメニュー「Version Up」をクリックします。
② AtermIT40/D の最新のファームウェアやユーティリティをクリックします。
③ WWWブラウザからの指示にしたがいソフトウェアをダウンロードし、パソコンに保存します。保存したファイルの場所と名前をメモしておきます。
④「お読みください」や「readme」があれば内容を読んでおきます。

ほとんどの場合、ダウンロードしたファームウェア、ユーティリティは、自己解凍形式の実行ファイル、または圧縮ファイルになっていて、そのままでは使えませんので、ダウンロードしたファイルをダブルクリックすることなどにより、解凍してお使いください。

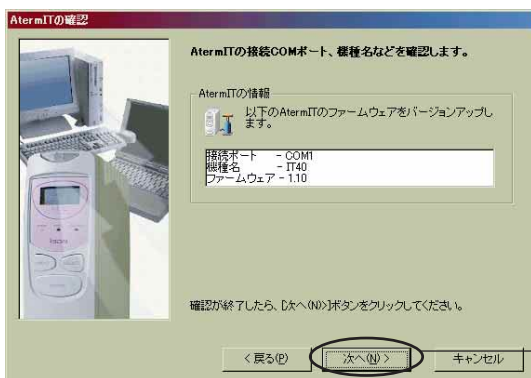
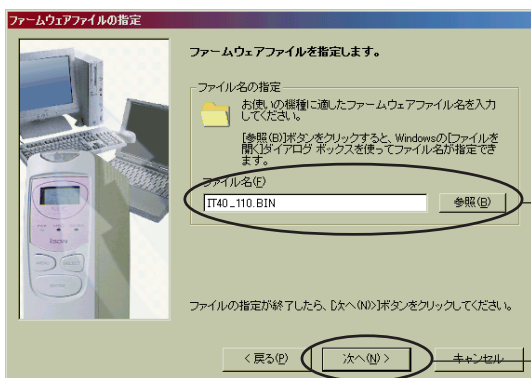
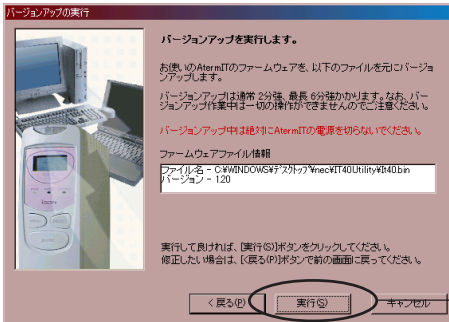
ステップ3 **プロバイダとの接続を終了します**

- インターネットエクスプローラ画面を閉じます
- タスクバーの右端にある［ダイヤルアップネットワークモニタ］アイコンをダブルクリックし 切断 ボタンをクリックします

［らくらくバージョンアップ］画面に戻ります。

ステップ4 **次へ ボタンをクリックします**

［AtermIT の確認］画面が表示されます。

ステップ5 **次へ ボタンをクリックします**

ステップ6 **ダウンロードして保存しておいた、ソフトウェアを選択し 次へ ボタンをクリックします**

実行 ボタンをクリックします

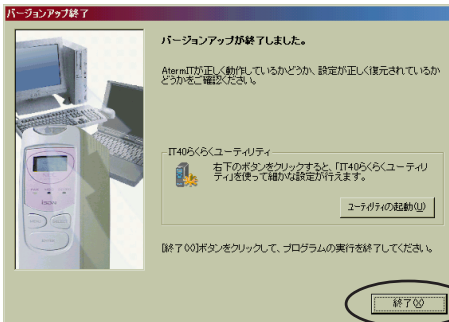
[実行] ボタン

バージョンアップが始まります。

バージョンアップの途中で次のような画面が出たときは、何らかの障害が発生しました。OK ボタンをクリックして再度バージョンアップ操作をしてください。

『お困りのときには』☞1-9 ページ

[OK] ボタン

ステップ8 Aterm の PWR ランプが緑色に点灯したら、終了 ボタンをクリックします。

[終了] ボタン

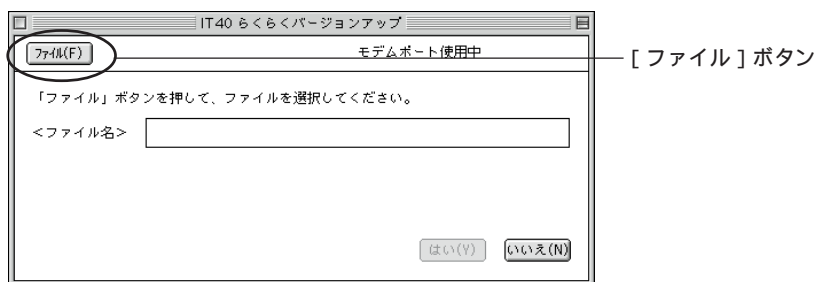
注意!

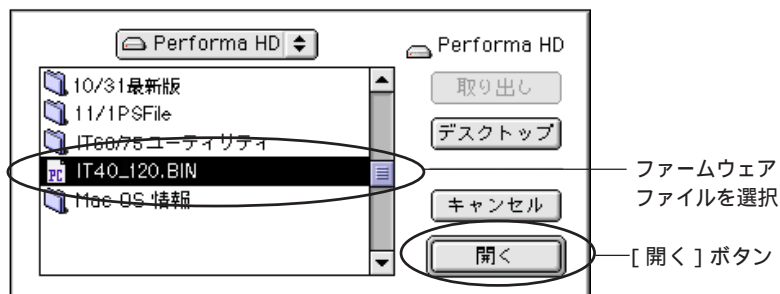
AtermIT40用ファームウェアは、他のAtermにダウンロードすることはできません。無理にダウンロードすると他のAtermが動作しなくなります。

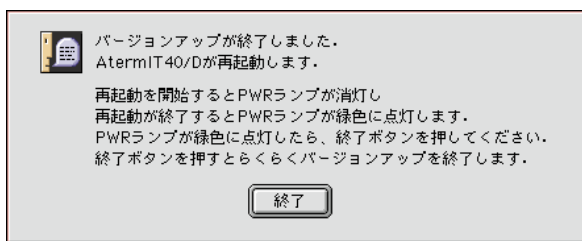
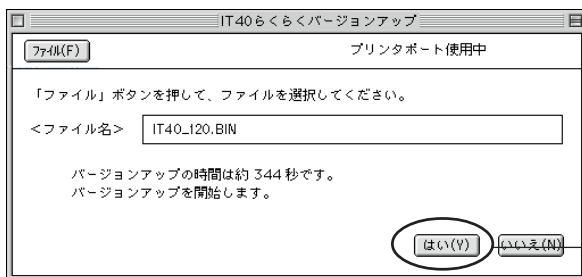
Macintoshの場合

バージョンアップをするときは、あらかじめ「AtermStation」のホームページから最新のファームウェアをダウンロードしておきます。
「AtermStation」のホームページのアドレス（URL）は「http://aterm.cplaza.ne.jp/」です。

ステップ1　[IT40 ユーティリティ］フォルダをダブルクリックします

ステップ2　表示された［IT40 らくらくバージョンアップ］をダブルクリックします

ステップ3　ファイル ボタンをダブルクリックします

ステップ4　あらかじめダウンロードしておいた、最新のファームウェアファイルを選択し、開く ボタンをクリックします

はい ボタンをクリックします

バージョンアップを開始します。

AtermIT40用ファームウェアは、他のAtermにダウンロードすることはできません。無理にダウンロードすると他のAtermが動作しなくなります。

6-2. OCN エコノミーについて

OCNエコノミーは128kbpsの通信速度でインターネットに接続できるINSネット64の専用線型の常時接続サービスです。
Aterm はパソコンで OCN エコノミーを直接利用できます。
ご利用になるには INS ネット 64 の「OCN エコノミー」の契約が必要です。
「OCNエコノミー」については、お近くのINSネット64の窓口までお問い合わせください。

Atermの設定

電源を切り、電池カバーを開けてディップスイッチ（DSW）を次のように設定してください。

回線と接続して再度、電源を入れると液晶ディスプレイは次のように表示されます。

OCNエコノミー

補足説明

- OCN エコノミーを利用する場合、アナログポートに接続した電話機やファクスなどは使用できません。
- OCNエコノミーの設定がされているとファームウェアのバージョンアップはできません。バージョンアップをおこなう場合はバージョンアップ用のファームウェアをダウンロードした後に、ディップスイッチ 5、6 をそれぞれ OFF にし、いったん電源を切ったのち、再び電源を入れてからおこなってください。
  バージョンアップ終了後は、再びディップスイッチの変更をおこなってご使用ください。
- 発信側の機能のみを有しています。

パソコンの設置と通信のしかた

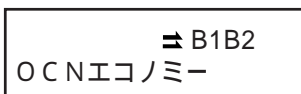
OCN エコノミーへの接続は、ダイヤルアップ IP 接続でおこないます。手順はインターネットにアクセスする方法と同じですが、次の設定を必ずおこなう必要があります。

- モデム定義ファイル（Windows)と、CCL ファイル（Macintosh）は ISDN 回線 128kbps（同期）アクセスポイント用のファイルを選択します。
- パソコンのダイヤルアップ IP 接続用のソフトに IP アドレスと DNS アドレスを入力します。

  OCN エコノミーを契約すると、8 個の IP アドレスが割り当てられます。パソコンに設定する IP アドレスは、ネットワークアドレスとブロードキャストアドレスを除いた残りの 6 個の中から 1 つを選びます。

  Windows の場合は、［マイコンピュータ］→［ダイヤルアップネットワーク］→［アクセス先アイコン］の右クリックで［プロパティ］→［情報］タグの サーバの種類 ボタン→ TCP/IP 設定 ボタンで、◉IP アドレスを指定にし、IP アドレスを入力します。
  DNS アドレスは必ず取得し、同じ画面の◉ネームサーバアドレスを指定にして、プライマリ DNS に必ず入力してください。その他のネットワークの設定は通常のダイヤルアップ IP 接続の推奨と同じ設定にしてください。

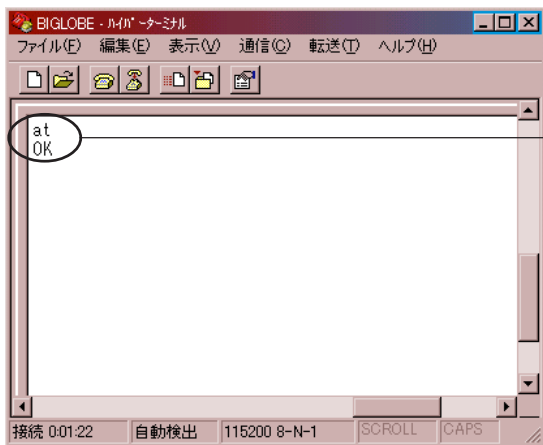
  Macintosh の場合は、TCP/IP の［ネームサーバアドレス］に IP アドレスを入力し、［検索ドメイン名］に NTT より付与されたドメイン名を入力します。
- アクセス先の電話番号入力欄には「0」などの任意の数字を仮定で入力しておいてください。数字を入力しておかないと発信できないことがあります。
- 通常のダイヤルアップ IP 接続と同様に発信してください。正常に接続が完了したら液晶ディスプレイは次のように変わります。

```
        ⇄ B1B2
OCNエコノミー
```

6-3. AT コマンド

AT コマンドの説明

AT コマンドとは、Aterm の便利な機能を使うときに、Aterm に設定を命令するためのコマンドです。
ATコマンドを使うためには、ATコマンド用のアプリケーションソフトがパソコンにインストールされていなければなりません。
Windows98/Windows95 では標準で添付されているハイパーターミナルを使用します。

☞**『お困りのときには』（「ハイパーターミナルによる接続の確認」☞1-17 ページ）**

次の画面が表示されたら AT コマンドを入力して［リターン］キーを押すと AT コマンドが実行されます。

Macintosh では、標準添付されていません。AT コマンドが使える通信ソフトウェアを雑誌やオンラインで入手するか、購入されることをおすすめします。

AT コマンドは、米国 Hayes 社が自社用モデムのために開発、使用した非同期端末用の自動発着信方式の一種で、コマンドの大部分が“AT”で始まるところからこう呼ばれています。

AtermはこのATコマンドに準拠し、さらに拡張コマンドの一部や独自のコマンドをサポートしています。

AT コマンドは**「コマンド」**と**「S レジスタ」**並びに**「リザルトコード」**から成り立っています。
「コマンド」は、パソコンがターミナルアダプタに対し動作を指示する時に使用します。
ターミナルアダプタからパソコンに対するコマンド実行結果の報告や着信の報告等を「リザルトコード」といいます。また、コマンドを実行する際には、「S レジスタ」を参照する場合があります。「S レジスタ」は、AT コマンドにより書き換えることができます。「S レジスタ」の内容を指定することにより、発着信動作を詳細に規定することができます。

Aterm はパソコンの ER 信号オンで通信可能になります。
ER 信号をオンできないパソコンの場合はらくらくユーティリティや AT&D コマンドで「ER 信号を常時 ON とみなす」に設定してください。

コマンド

AT コマンドは次の形式で入力します。

A	T	コマンド	CR	LF

- 文字は半角を使用してください。
- AT は、at でもかまいません。At や aT は使用できません。
- コマンドは、最大 184 字まで入力できます。184 字を超えた場合は ERROR をパソコンに返します。
- 複数のコマンドを連続して入力することもできます。
- コマンドの中にはコマンドの後ろにパラメータを必要とするものがあります。このパラメータが省略された場合は、“ 0 ” とみなします。
- CR（改行キーや return キー）は復帰文字でありコマンドの区切りを示します。復帰文字は S3 レジスタで変更できますが、通常はそのままお使いください。
- LF は省略できます。
- LF は改行文字です。改行文字は S4 レジスタで変更できますが、通常はそのままお使いください。
- コードはアスキーを使用します。
- Aterm は、AT コマンドからパソコンのデータポート速度・データビット長・パリティを自動的に判別してそれに合わせます。

S レジスタ

S レジスタは、自動発着信の動作を規定する各種パラメータ（RING 回数、時間、文字）を格納するレジスタです。S レジスタの内容は ATS n コマンドで変更できますが、通常は初期値で使用します。

リザルトコード

リザルトコードは V コマンドの設定に対応して、次のいずれかの形式で表示されます。

(1) 英語表示のリザルトコード

- CR（改行キーや return キー）は復帰文字でありコマンドの区切りを示します。復帰文字は S3 レジスタで変更できますが、通常はそのままお使いください。
- LF は改行文字です。改行文字は S4 レジスタで変更できますが、通常はそのままお使いください。
- コードはアスキーを使用します。

(2) 数字表示によるリザルトコード
　リザルトコードが数字表示になっていると通信できない場合があります。

リザルトコード	CR

（数字）

- CR は復帰文字でありコマンドの区切りを示します。復帰文字は S3 レジスタで変更できますが通常はそのままお使いください。復帰文字を変更すると通信できない場合があります。
- コードはアスキーを使用します。

コマンド

コマンド一覧

◎のついたコマンドのパラメータの内容は、電源を切っても保持されます。
○のついたパラメータの内容は、セーブコマンド（AT$S）を実行すると電源を切っても保持されます。

コマンド	機能概要	初期値
A	着信応答	－
D	ダイヤル発信	－
○ E	エコー指定	1
H	切断	－
I	装置コード表示	－
N	回線速度の設定	0
O	データ通信中のコマンドモードからデータ通信モードへ戻す	－
○ Q	リザルトコード有無設定	0
○ V	リザルトコードフォーマット設定	1
○ W	リザルトコード RING 表示の設定	0
○ X	リザルトコードセット設定	3
Z	パラメータの初期化	－
○ /S	データポートのサブアドレスセパレータ設定	/
○ &C	CD 信号制御の設定	1
○ &D	ER 信号制御の設定	0
&H	短縮番号表示	－
○ &K	フロー制御方式の設定	3
○ &S	DR 信号制御の設定	0
◎ &Z	短縮番号登録	－
#C	データポートの通信料金、切断理由表示	－
#H	データポート用通知番号表示	－
#HA	アナログ A ポート用通知番号表示	－
#HB	アナログ B ポート用通知番号表示	－
○ #M	PIAFS の設定と表示	1
#R	着信拒否	－
◎ #Z	データポート用通知番号登録	－
◎ #ZA	アナログ A ポート用通知番号登録	－
◎ #ZB	アナログ B ポート用通知番号登録	－
*H	着信番号・内線指定番号割当表示	－

コマンド	機能概要	初期値
◎ *Z	着信番号・内線指定番号登録	－
◎ *ZA	アナログ A ポート着信番号・内線指定番号割当	－
◎ *ZB	アナログ B ポート着信番号・内線指定番号割当	－
◎ *ZD	データポート着信番号・内線指定番号割当	－
○ \C	累積通信料金表示	－
○ \D	UUI メール表示の設定と表示	注
\L	発着信情報表示	－
○ \M	電子メール通知表示の設定と表示	注
○ \Q	フロー制御方式の設定	3
\S	各種設定表示	－
○ $A	アナログ A ポートの設定と表示	注
○ $B	アナログ B ポートの設定と表示	注
○ $D	アナログポート共通設定と表示	注
$H	着信転送用アドレス表示	－
○ $L	LCD の設定と表示	注
○ $M	データポート 128kbps マルチリンク PPP 通信設定と表示	注
○ $N	データポートの設定と表示	注
$S	パラメータの保存	－
○ $X	着信転送の設定	2,0
◎ $Y	着信転送先アドレス登録	－
◎ $YM	電話番号着信転送（遊遊メール）の転送先メールアドレス登録	－
◎ $Z	着信転送元アドレス登録	－
○ %C	圧縮プロトコル指定	2
S	S レジスタポインタの設定	0
?	レジスタポインタの示すレジスタ内容表示	－
○ =	S レジスタポインタの示すレジスタ内容変更	－
+++	エスケープコマンド	－

注：初期値については各コマンドの説明をご覧ください。

◎のついたコマンドのパラメータの内容は、電源を切っても保持されます。
○のついたパラメータの内容は、セーブコマンド（AT$S）を実行すると電源を切っても保持されます。

コマンド	機能概要	初期値
!H	マイプライベート着信用アドレスの登録情報表示	—
!SH	疑似識別着信（セキュリティ＋選択コールウェイティング）の登録情報表示	—
◎ !SZ	疑似識別着信（セキュリティ＋選択コールウェイティング）のアドレス登録	—
!UC	迷惑電話防止用アドレスの登録電話番号の削除	—
!UH	迷惑電話防止用アドレスの情報表示	—
◎ !US	迷惑電話防止用アドレスの登録	—
!VH	ボイスワープ設定電話番号の登録情報表示	—
◎ !VZ	ボイスワープ設定電話番号登録	—
!WH	疑似識別リンギング用アドレスの登録情報表示	—
◎ !WZ	疑似識別リンギング用アドレス登録	—
○ !X	マイプライベート着信の設定	0
◎ !Z	マイプライベート着信の相手電話番号と着信ポートの設定	—
○ *PX1	i・ナンバーの使用設定	—
○ *PC	i・ナンバー発信 i・ナンバー情報	—
○ *PR	i・ナンバー着信 i・ナンバー情報	—
◎ *PN	i・ナンバー情報の電話番号	—
*P?i・	ナンバー設定表示	—

注：初期値については各コマンドの説明をご覧ください。

コマンドの説明

A

機能： 「RING」が表示されているときに本コマンドを入力して相手と通信中にします。

書式： ATA

パラメータ： なし

入力例： ATA

D

機能： 発信して相手を呼出します。

書式： ATD<パラメータ 1><／パラメータ 2><パラメータ 3>

パラメータ： <パラメータ 1> 相手アドレス（相手電話番号）

S=0～9 ： 短縮・識別番号へ発信します。

\ ： 再発信します。

<パラメータ 2> 相手サブアドレス

<パラメータ 3>[ユーザ・ユーザデータ

; ： コマンドモードへ入ります。発信するときは O コマンドを入力します。

CB ： スティルスコールバックの発信をします。

PF ： PIAFS32k モードで発信します。

PD ： PIAFS64k モードで発信します。

入力例： ATD0123-45-6789 [ABCD
ATDS=0
ATD0123-45-6789CB

補足：

- 相手電話番号は最大 32 桁で 0～9 の数字が使用できます。
  その他の文字は使用しても無視します。
- 相手サブアドレスは最大 19 桁で 0～9 の数字が使用できます。
  また、／以降が省略された場合は相手サブアドレス指定なしとみなします。
  ／は、／S コマンドで変更できます。
- ユーザ・ユーザデータは最大 128 桁で次の文字が使用できます。
  0～9, *, #, 英字
  ユーザ・ユーザデータの前には [を入れてください。
- ；はユーザ・ユーザデータ使用時は、使用できません。
- CB 指定時は合わせてスティルスコールバック着信許可（$N10 = 1）にしてください。
  また、発信側、着信側ともにフロー制御の設定をしてください。
- CB 指定時の相手サブアドレスは最大 15 桁に制限されます。
- PIAFS 通信時は CB は使用できません。
- CB、PF、PD 指定発信のリダイヤルはできません。
- CB、PF、PD は必ず最後につけてください。
- CB、PF、PD は cb、pf でもかまいません。
- PF、PD は通信終了後は元の設定に戻ります。

E

機能： エコーバックするか否かを指定します。

書式： ATE<パラメータ 1>

パラメータ： <パラメータ 1> 0 ： エコーバックしません。

1 ： エコーバックします。（初期値）

入力例： ATE0

H

機能： 通信を切断します。
書式： ATH
パラメータ： なし
入力例： ATH
補足： 最初にエスケープコマンド（+++）を入力し、コマンドモードにしてからHコマンドを入力します。

I

機能： 装置コード、装置メーカーを表示します。
書式： ATI< パラメータ 1>
パラメータ： < パラメータ 1>
0 ： 装置コード（AT コマンドのバージョン:960）を表示します。
4 ： 装置メーカー（AtermIT NEC Corporation）を表示します。
入力例： ATI4

N

機能： 回線速度を指定します。
書式： ATN< パラメータ 1>
パラメータ： < パラメータ 1>
0 ： パソコン側通信ポートの速度と同じ（初期値）
1 ： 1200bps
2 ： 2400bps
3 ： 4800bps
4 ： 9600bps
5 ： 14400bps
6 ： 19200bps
7 ： 28800bps
8 ： 38400bps
9 ： 57600bps
入力例： ATN4
補足：
- フロー制御方式も合わせて設定してください。通常 RS-CS フロー制御を選択します。
- D コマンドの前に入力してください。
- 通信相手が異速度通信できないターミナルアダプタのときに相手のデータポート速度を指定します。
- 非同期通信時に使用できます。
- ＜パラメータ１＞を０としてパソコン側通信ポートの速度を 115200bps や 230400bps としたときは、回線速度は 57600bps となります。

O

機能： エスケープコマンド（+++）を入力した後のオンラインコマンドモードから通信状態に戻します。
書式： ATO
パラメータ： なし
入力例： ATO

Q

機能： リザルトコードを返すか返さないかを指定します。
書式： ATQ<パラメータ 1>
パラメータ： <パラメータ 1> 0 ： リザルトコードを返します。（初期値）
1 ： リザルトコードを返しません。
入力例： ATQ0

V

機能： リザルトコードを数値で返すか英数文字で返すかを指定します。
書式： ATV<パラメータ 1>
パラメータ： <パラメータ 1> 0 ： リザルトコードを数値で返します。
1 ： リザルトコードを英数文字で返します。（初期値）
入力例： ATV0

W

機能： リザルトコード RING の表示のしかたを設定します。
書式： ATW<パラメータ 1>
パラメータ： <パラメータ 1> 0 ： RING のみを返します。（初期値）
2 ： RING の後に続けて相手の電話番号、サブアドレス、ユーザデータを表示します。
入力例： ATW2
補足：
・ 電話番号とサブアドレスはサブアドレスセパレータで区切られます。
・ 電話番号またはサブアドレスとユーザ・ユーザデータの区切りは [です。

X

機能： リザルトコードセットを指定します。
書式： ATX<パラメータ 1>
パラメータ： <パラメータ 1> 0 ： ベーシックセット
1 ： 拡張セット 1
2 ： 拡張セット 2
3 ： 拡張セット 3（初期値）
4 ： 拡張セット 4
入力例： ATX0

リザルトコードセットの一覧を示します。

数字	英　語	ベーシック	拡張 1	拡張 2	拡張 3	拡張 4
0	OK	○	○	○	○	○
1	CONNECT	○	—	—	—	—
2	RING	○	○	○	○	○
3	NO CARRIER	○	○	○	○	○
4	ERROR	○	○	○	○	○
5	CONNECT1200	—	○	○	○	○
7	BUSY	—	—	—	○	○
10	CONNECT2400	—	○	○	○	○
11	CONNECT4800	—	○	○	○	○
12	CONNECT9600	—	○	○	○	○
13	CONNECT14400	—	○	○	○	○

数字	英　語	ベーシック	拡張1	拡張2	拡張3	拡張4
14	CONNECT19200	―	○	○	○	○
18	CONNECT57600	―	○	○	○	○
19	CONNECT64000	―	○	○	○	○
21	CONNECT32000	―	○	○	○	○
26	CONNECT28800	―	○	○	○	○
28	CONNECT38400	―	○	○	○	○
67	COMPRESSION：V. 42bis	―	○	○	○	○
69	COMPRESSION：NONE	―	○	○	○	○
82	PROTOCOL：PIAFS	―	○	○	○	○

Z

機能： パラメータの初期化（初期値に戻す）をおこないます。
書式： ATZ<パラメータ1>
パラメータ： <パラメータ1>
0 ：$Sコマンドで設定した内容に戻します。
1 ：短縮ダイヤル、通知番号、自己サブアドレス、着信番号、内線指定番号累積通信料金、着信転送先アドレス、着信転送元アドレス、受話音量以外のパラメータを初期化します。
98：ハードウェアリセットがかかります。
全てのパラメータを初期化します。
99：ソフトウェアリセットがかかります。
$S コマンドで設定した内容に戻します。
入力例： ATZ1

／S

機能： データポートのサブアドレスセパレータの表示・設定をします。
書式： AT/S<パラメータ1><=パラメータ2>
パラメータ： <パラメータ1><=パラメータ2>
0 ：セパレータの表示
1 ：セパレータの設定
1 = / (初期値)
1 = #
1 = ＊
入力例： AT/S1= #
補足：
- 本コマンドでサブアドレスセパレータを変更した場合は、&Z, #Z, #ZA, #ZB, $Z, D コマンドで使用するサブアドレスセパレータも変更してください。
- アナログポートで使用するセパレータ（＊）は固定です。
- 液晶ディスプレイに表示されるサブアドレスセパレータは、設定した文字が表示されます。

& C

機能： CD 信号制御の設定をします。
書式： AT&C<パラメータ1>
パラメータ： <パラメータ1>
0 ：ER-ON 時には常に CD-ON
1 ：通信中は常に CD-ON（初期値）
入力例： AT&C0

& D

機能： ER 信号制御の設定をします。
書式： AT&D< パラメータ 1>
パラメータ： < パラメータ 1> 0 ： パソコンの ER 信号をみる。（初期値）
1 ： ER 信号を常時 ON とみなす。
2 ： 通信中のみパソコンの ER をみる。
入力例： AT&D1

& H

機能： 短縮番号を表示します。
書式： AT&H< パラメータ 1>
パラメータ： < パラメータ 1> 0 ～ 9 ：指定した短縮番号の内容を表示します。
なし ：全ての短縮番号の内容を表示します。
入力例： AT&H

& K

機能： フロー制御方式を設定します。
書式： AT&K< パラメータ 1>
パラメータ： < パラメータ 1> 0 または 5 ： フロー制御しない。
3 または 6 ： RS-CS フロー制御
4 ： XON/XOFF フロー制御
入力例： AT&K4
補足： 初期値は 3 です。\Q コマンドと同じ機能です。

& S

機能： DR 信号制御の設定をします。
書式： AT&S< パラメータ 1>
パラメータ： < パラメータ 1> 0 ： ER-ON 時には常に DR-ON（初期値）
1 ： 通信中は常に DR-ON
入力例： AT&S1

& Z

機能： 短縮番号を登録します。
書式： AT&Z< パラメータ 0> <= パラメータ 1>< ／パラメータ 2>
パラメータ： < パラメータ 0> 短縮番号。0 ～ 9 の数字。
< パラメータ 1> 相手アドレス
< パラメータ 2> 相手サブアドレス
入力例： AT&Z0=012345678/910
補足：

・ 相手アドレスは最大 32 桁で 0 ～ 9 の数字が使用できます。
・ 相手サブアドレスは最大 19 桁で 0 ～ 9 の数字が使用できます。また、／以降が省略された場合は相手サブアドレス指定なしとみなします。
／は／ S コマンドで変更できます。
・ 末尾に CB をつけたスティルスコールバックをおこなう電話番号は登録できません。

＃C

機能： データポートの通信料金、切断理由コード等を表示します。
書式： AT ＃ C
パラメータ： なし
入力例： AT ＃ C
補足：
・ CAUSE　=＃の後に切断理由コードを表示します。☞ **6-36ページ**
・ SOURCE　=の後に生成源を表示します。☞**6-39ページ**
・ CHARGE　=\ の後に通信料金を表示します。

＃H

機能： データポートの通知番号、自己サブアドレスを表示します。
書式： AT ＃ H
パラメータ： なし
入力例： AT ＃ H
補足：
・ 通知番号と自己サブアドレス間はサブアドレスセパレータで区切られます。
・ 登録されていない場合、BUFFER EMPTY と表示します。

＃HA

機能： アナログ A ポートの通知番号、自己サブアドレスを表示します。
書式： AT ＃ HA
パラメータ： なし
入力例： AT ＃ HA
補足：
・ 通知番号と自己サブアドレス間はサブアドレスセパレータで区切られます。
・ 登録されていない場合、BUFFER EMPTY と表示します。

＃HB

機能： アナログ B ポートの通知番号、自己サブアドレスを表示します。
書式： AT ＃ HB
パラメータ： なし
入力例： AT ＃ HB
補足：
・ 通知番号と自己サブアドレス間はサブアドレスセパレータで区切られます。
・ 登録されていない場合、BUFFER EMPTY と表示します。

＃M

機能： PIAFS の設定と表示をします。
書式： AT ＃ M<= パラメータ 1>
パラメータ： < パラメータ 1>　0 ： PIAFS 通信する
1 ： 非同期通信する（初期値）
?： 設定内容の表示
入力例： AT ＃ M ＝ 0
補足： ＃ M での設定は＄N1 コマンドでもできます。どちらかを設定すれば有効になります。

＃R

機能： 着信中に入力することにより、着信を拒否します。
書式： AT ＃ R
パラメータ： なし
入力例： AT ＃ R

＃Z

機能： データポートの通知番号を登録します。
書式： AT ＃ Z<パラメータ 1> <／パラメータ 2>
パラメータ： <パラメータ 1>　通知番号
<パラメータ 2>　自己サブアドレス
入力例： AT ＃ Z012345678/910
補足：
・ 通知番号は最大 32 桁で 0 〜 9 の数字が使用できます。
・ 自己サブアドレスは最大 19 桁で 0 〜 9 の数字が使用できます。
・ ／は／ S コマンドで変更できます。

＃ZA

機能： アナログＡポートの通知番号を登録します。
書式： AT ＃ ZA<パラメータ 1> <／パラメータ 2>
パラメータ： <パラメータ 1>　通知番号
<パラメータ 2>　自己サブアドレス
入力例： AT ＃ ZA012345678/2222
補足：
・ 通知番号は最大 32 桁で 0 〜 9 の数字が使用できます。
・ 自己サブアドレスは最大 19 桁で 0 〜 9 の数字が使用できます。
・ ／は／ S コマンドで変更できます。

＃ZB

機能： アナログＢポートの通知番号を登録します。
書式： AT ＃ ZB<パラメータ 1> <／パラメータ 2>
パラメータ： <パラメータ 1>　通知番号
<パラメータ 2>　自己サブアドレス
入力例： AT ＃ ZB012345678/3333
補足：
・ 通知番号は最大 32 桁で 0 〜 9 の数字が使用できます。
・ 自己サブアドレスは最大 19 桁で 0 〜 9 の数字が使用できます。
・ ／は／ S コマンドで変更できます。

＊H

機能： 着信番号と内線指定番号の割り当てを表示します。
書式： AT ＊ H
パラメータ： なし
入力例： AT ＊ H

＊Z

機能： 着信番号と内線指定番号を最大 8 個まで登録します。
書式： AT ＊ Z<パラメータ 1>< ＝パラメータ 2><, パラメータ 3>
パラメータ： <パラメータ 1>　0 〜 7：テーブル番号
<パラメータ 2>　着信番号（電話番号）
<パラメータ 3>　内線指定番号
入力例： AT ＊ Z1 ＝ 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0, 1111
補足：
・ 着信番号は最大 32 桁で 0 〜 9 の数字が利用できます。
・ 内線指定番号は、「モデム・ダイヤルイン」「アナログ・ダイヤルイン」設定時のみに使用します。最大 4 桁で 0 〜 9 の数字が利用できます。

＊Z A

機能： アナログ A ポートに＊ Z コマンドで登録した着信番号、内線指定番号を割り当てます。
書式： AT ＊ ZA ＝ < パラメータ 1> 〜 <, パラメータ 8>
パラメータ： < パラメータ 1> 〜 <, パラメータ 8>：0 〜 7
（＊ Z コマンドで登録したテーブル番号）
入力例： AT ＊ ZA ＝ 0, 2, 3, 7
補足：
・ 1 つのポートに最大 8 つまで割り当てることができます。
・ 本コマンドで登録された番号で着信判定をおこないます。
・ 内線指定番号は、「モデム・ダイヤルイン」「アナログ・ダイヤルイン」設定時のみに使用します。

＊Z B

機能： アナログ B ポートに＊ Z コマンドで登録した着信番号、内線指定番号を割り当てます。
書式： AT ＊ ZB ＝ < パラメータ 1> 〜 <, パラメータ 8>
パラメータ： ＊ ZA と同じです。
入力例： AT ＊ ZB ＝ 0, 2, 3, 7
補足： ＊ ZA と同じです。

＊Z D

機能： データポートに＊ Z コマンドで登録した着信番号、内線指定番号を割り当てます。
書式： AT ＊ ZD ＝ < パラメータ 1> 〜 <, パラメータ 8>
パラメータ： ＊ ZA と同じです。
入力例： AT ＊ ZD ＝ 0, 2, 3, 7
補足：
・ ＊ ZA と同じです。
・ 内線指定番号は無視されます。

¥C

機能： データポート、アナログ A ポート、アナログ B ポートの累積通信料金の表示と初期化をします。
書式： AT\C< パラメータ 1>
パラメータ： < パラメータ 1>
0 ： 累積通信料金を表示させます。
1 ： 累積通信料金を初期化（0 円）します。
入力例： AT\C0

¥D

機能： UUI メール着信時のランプ表示設定と設定内容の表示をします。
書式： AT\D< パラメータ 1>
パラメータ： < パラメータ 1>
0 ： 1 の設定内容の表示
1 ： ランプ点灯選択
1=0： UUI メール着信でランプ点灯しない
1=1： UUI メール着信でランプ点灯する（初期値）
入力例： AT\D1=0

¥L

機能： データポート、アナログA, Bポートの最新発信・着信番号や着信しなかった理由を表示します。
書式： AT\L<パラメータ 1>
パラメータ： <パラメータ 1> 0 ： 最新の発信番号を表示させます。
1 ： 最新の着信番号、切断理由、診断情報を表示します。
入力例： AT\L1
補足： SEND CAUSE=切断理由、DIAGNOSIS=診断情報です。
☞**6-37ページ**

¥M

機能： 電子メール着信通知時のランプ表示設定と設定内容の表示をします。
書式： AT\M<パラメータ 1>
パラメータ： <パラメータ 1> 0 ：設定内容の表示
1 ：ランプ点灯選択
1=0：電子メール着信でランプ点灯しない
1=1：電子メール着信でランプ点灯する（初期値）
入力例： AT\M1=0

¥Q

機能： フロー制御方式の設定をします。
書式： AT\Q<パラメータ 1>
パラメータ： <パラメータ 1> 0 ： フロー制御なし
1 ： XON/XOFF フロー制御
2 ： CS フロー制御
3 ： RS-CS フロー制御（初期値）
入力例： AT\Q0

¥S

機能： データポート設定値、S レジスタ値、AT コマンド状態を表示します。
書式： AT\S<パラメータ 1>
パラメータ： <パラメータ 1> 0 ： データポート速度、データフォーマット、フロー制御方式、エコー指定、非同期 / 同期 PPP モード、回線状態、信号制御、信号線状態を表示します。
1 ： S レジスタの内容を S レジスタ名とともに表示します。
2 ： リザルトコード有無、リザルトコードフォーマット、リザルトコード RING 表示、リザルトコードセットの状態を表示します。
3 ： S レジスタの内容を表示します。
入力例： AT\S0

$A

機能： アナログ A ポートの設定と表示をします。
書式： AT$A<パラメータ 1><=パラメータ 2>
パラメータ： <パラメータ 1><=パラメータ 2>
0 ： 1～16 の設定内容の表示
1 ： アナログポート選択
1=0： 電話で使用する（初期値）
1=1：ファクスやモデムで使用する
1=2：使用しない
2 ： コールウェイティング選択
2=0： 使用しない（初期値）

2=1：NTTコールウェイティングを使用する
2=2：疑似コールウェイティングを使用する
3 ：識別着信（セキュリティ＋選択コールウェイティング）設定
3=0：識別着信しない（初期値）
3=1：INSなりわけ識別着信
3=2：疑似識別着信
3=3：INSなりわけ選択コールウェイティング
3=4：疑似選択コールウェイティング
4 ：HLC設定
4=0：HLCを設定しない（初期値）
4=1：HLCを設定し着信判定する
4=2：HLCを設定するが着信判定しない
5 ：グローバル着信選択
5=0：着信する（初期値）
5=1：着信しない
6 ：サブアドレスなし着信選択
6=0：着信する（初期値）
6=1：着信しない
7 ：ダイヤル桁間タイマ設定
7=0：5秒（初期値）
7=1：9秒
7=2：11秒
7=3：13秒
8 ：フッキング検出タイマ設定
8=0：0.03秒～1秒
8=1：0.3秒～1秒（初期値）
8=2：0.5秒～1.5秒
9 ：発信者番号通知設定
9=0：発信者番号通知しない
9=1：発信者番号通知する
9=2：INSネット64申込内容に従う（初期値）
10：受話音量の設定
10=0：小音
10=1：中音（初期値）
10=2：大音
11：情報通知サービス設定
11=0：情報通知サービスしない（初期値）
11=1：ナンバー・ディスプレイを使用する
11=2：モデム・ダイヤルインを使用する
11=3：アナログ・ダイヤルインを使用する
11=4：ナンバー・ディスプレイ＋モデム・ダイヤルインを使用する
12：情報通知サービス（サブアドレス）設定
12=0：サブアドレスはつけない（初期値）
12=1：サブアドレスもつける
13：リバースパルス送出設定
13=0：送出しない（初期値）
13=1：送出する
14：通話中の受話音量変更
14=0：＊＃入力で受話音量を変更しない（初期値）
14=1：＊＃入力で受話音量を変更する
15：識別リンギング設定
15=0：使用しない（初期値）
15=1：INSなりわけ
15=2：疑似なりわけ

16：CTI モード設定
16=0 ： 使用しない（初期値）
16=1 ： 使用する

入力例： AT$A3=1

補足：
・ HLC を設定した場合、電話を選択していれば HLC は「電話」にファクスやモデムを選択していれば「G2/G3 FAX」に自動的に設定します。
・12「情報通知サービス（サブアドレス）」は 11「情報通知サービス」を「1」「2」「4」に設定したときに利用できます。
・（11 ＝ 0）のときは 12 の設定は動作に関係しません。

$ B

機能： アナログ B ポートの設定と表示をします。
書式： AT$B< パラメータ 1><= パラメータ 2>
パラメータ： ＄A と同じです。
入力例： AT$B4=1

$ D

機能： 2 つのアナログポートに共通する設定と表示をします。
書式： AT$D< パラメータ 1><= パラメータ 2>
パラメータ： < パラメータ 1><= パラメータ 2>

0 ： 2 ～ 9 の設定内容の表示
2 ： 停電時のリンガ制御
2=0：着信時リンガでなくブザーが鳴る
2=1：着信時リンガが鳴る（初期値）
2=3：着信を受け付けない
3 ： 優先着信ポートの指定
3=0：指定しない（初期値）
3=1：A ポート優先
3=2：B ポート優先
4 ： 内線通話・転送機能使用可否
4=0：使用しない
4=1：使用する（初期値）
5 ： 三者通話使用可否
5=0：使用しない（初期値）
5=1：三者通話を使用する
5=2：疑似三者通話を使用する
6 ： 通信中転送使用可否
6=0：使用しない（初期値）
6=1：使用する
7 ： お出かけモード設定
7=1：おやすみモード（初期値）
7=2：着信転送モード
7=3：ボイスワープ転送モード
7=4：フラッシュモード
8 ： ボイスワープモード設定
8=1：無条件転送（初期値）
8=2：無応答時転送
8=3：話中時転送
8=4：無応答 or 話中時転送
9 ： ダイヤル識別終了
9=0：＃発信しない
9=1：＃発信する（初期値）
9=2：＃＃発信する

入力例： AT$D3=2

＄H

機能： アナログポートの着信転送元と着信転送先のアドレス、メールアドレスと着信転送、識別着信転送の設定状態を表示します。
書式： AT$H
パラメータ： なし
入力例： AT$H
補足：
・ 着信番号と自己サブアドレス間はサブアドレスセパレータで区切られます。
・ 登録されていない場合、BUFFER EMPTY と表示します。

＄L

機能： LCD の設定と表示をします。
書式： AT$L<パラメータ 1><= パラメータ 2>
パラメータ： <パラメータ 1><= パラメータ 2>

0 ： 1 ～ 2 の設定内容の表示
1 ： バックライトの設定
　1=0：常に消灯
　1=1：常に点灯
　1=2：AUTO（初期値）
　1=3：AUTO ＋データ通信中は常に点灯
　1=4：AUTO ＋ B チャネル使用中は常に点灯
2 ： アナログ発信時の発信ダイヤル表示
　2=0：ダイヤル番号を表示しない
　2=1：ダイヤル番号を表示する （初期値）

入力例： AT$L1=1
補足： データ発信時は常にダイヤル番号を表示します。

＄M

機能： 128kbps マルチリンク PPP の設定と表示をします。
書式： AT$M<パラメータ 1><= パラメータ 2>
パラメータ： <パラメータ 1><= パラメータ 2>

0 ： 1 ～ 8 の設定内容の表示
1 ： マルチリンク通信選択
　1=0：128kbps マルチリンク PPP 通信しない（初期値）
　1=1：128kbps マルチリンク PPP 通信する
2 ： リソース BOD 選択
　2=0：リソース BOD をおこなわない（初期値）
　2=1：リソース BOD をおこなう
3 ： スループット BOD 選択
　3=0：スループット BOD をおこなわない（初期値）
　3=1：スループット BOD をおこなう
4 ： リンク追加算出時間　(10 秒単位)
　4=10 ～ 60：10 ～ 60 秒（初期値 30 秒）
5 ： リンク削除算出時間（10 秒単位)
　5=10 ～ 60：10 ～ 60 秒（初期値 10 秒）
6 ： リンク追加しきい値設定（10% 単位)
　6=60 ～ 90：60 ～ 90%（初期値 70%）
7 ： リンク削除しきい値設定（10% 単位)
　7=10 ～ 40：10 ～ 40%（初期値 20%）
8 ：2 本目接続時の認証
　8=0：認証しない
　8=1：認証する（初期値）

入力例： AT$M2=1
補足： $M1 は、$N11 コマンドと同義のコマンドです。どちらかを設定すれば有効になります。

$ N

機能： データポートの設定と表示をします。
書式： AT$N< パラメータ 1><= パラメータ 2>
パラメータ： < パラメータ 1><= パラメータ 2>

0 ： 1 ～ 14 の設定内容の表示
1 ： 非同期 / 同期 PPP 変換選択
　1=0：非同期 / 同期 PPP 変換しない（初期値）
　1=1：非同期 / 同期 PPP 変換する
　1=2：PIAFS 通信する
2 ： 識別着信
　2=0：識別着信しない（初期値）
　2=1：識別着信する
3 ： HLC 設定
　3= N：HLC を設定しない（初期値）
　3=0 ～ 127
4 ： 着信速度チェック
　4=0：チェックしない（初期値）
　4=1：チェックする
5 ： グローバル着信選択
　5=0：着信する（初期値）
　5=1：着信しない
6 ： サブアドレスなし着信選択
　6=0：着信する（初期値）
　6=1：着信しない
7 ： 応答平均化機能
　7=0：平均化しない（初期値）
　7=1：平均化する
8 ： マルチポイント接続端末数
　8=1：1 台 （初期値）
　8=2：2 台
　　≀　≀
　8=8：8 台
9 ： 無通信監視タイマ
　9=0 ：監視しない
　9=1 ：1 分
　　≀　≀
　9=10 ：10 分（初期値）
10： スティルスコールバック使用
　10=0：コールバックしない（初期値）
　10=1：コールバックする
11： マルチリンク通信選択
　11=0：128kbps マルチリンク PPP 通信しない（初期値）
　11=1：128kbps マルチリンク PPP 通信する
12： 発信者番号通知設定
　12=0：発信者番号を通知しない
　12=1：発信者番号を通知する
　12=2：INS ネット 64 申込内容に従う （初期値）
13： PPP ACCM 付加選択
　13=0：64KPPP、MP 時に ACCM を付加しない
　13=1：64KPPP、MP 時に ACCM を付加する（初期値）

14：強制切断タイマ
14=0 ：強制切断しない
14=1 ：1 時間で切断する
〜 〜
14=10：10 時間で切断する（初期値）
15：PIAFS モード指定
15=1：PIAFS32K（初期値）
15=2：PIAFS64K

入力例： AT$N9=2

補足：
- 8（マルチポイント接続端末数）は、7（応答平均化機能）を「1」に設定したとき（7=1）には必ず設定してください。
  8 には同一回線に接続されている Aterm の数を設定してください。
  7=0 のときは 8 の設定値は動作に関係しません。
- 4（着信速度チェック）で「チェックしない」（4=0）が異速度通信をおこなう動作になります。
- $N1=0、$N1=2 の設定は＃ M コマンドでもできます。どちらかを設定すれば有効になります。
- $N1=2 のときの通信速度（32K/64K）は $N15 コマンドで設定します。

$ S

機能： ATコマンドで設定したパラメータや自動ボーレート検出したパソコンの速度を保存します。
書式： AT$S
パラメータ： なし
入力例： AT$S
補足： 電話帳、通知番号、自己サブアドレス、着信番号、内線指定番号、着信転送先アドレス、着信転送元アドレス等はその都度保持されるので、本コマンドは必要ありません。

$ X

機能： 着信転送や選択着信転送の種類を設定します。
書式： AT$X< パラメータ 1><= パラメータ 2>
パラメータ： < パラメータ 1>< パラメータ 2>

0 ：着信転送の種類の設定
0=1：NTT 着信転送
0=2：疑似着信転送（初期値）
0=3：電話番号着信転送（遊遊メール）
1 ：選択着信転送の種類の設定
1=0：無条件転送（初期値）
1=1：INS なりわけ時転送
1=2：識別着信時転送

入力例： AT$X0=1
補足： 本コマンドとあわせて、＄Y、＄YM、$Z コマンドを設定してください。

$ Y

機能： アナログポートの着信転送先のアドレスを登録します。
書式： AT$Y< パラメータ 1><= パラメータ 2>
パラメータ： < パラメータ 1> 0 ：着信転送先 (0) アドレス
1 ：着信転送先 (1) アドレス
2 ：着信転送先 (2) アドレス
< パラメータ 2> 転送先アドレス (電話番号)
入力例： AT$Y0=0123456789

補足：　・本コマンドとあわせて、$Z コマンドで転送元を設定してください。
・相手電話番号は最大 32 桁で 0 ～ 9 の数字が使用できます。
・着信転送先の設定はアドレスのみです。サブアドレスは設定できません。

$ Y M

機能：　着信転送を電話番号着信転送（遊遊メール）でおこなう際の転送先のメールアドレスを登録します。
書式：　AT$YM<パラメータ 1><= パラメータ 2>
パラメータ：　<パラメータ 1>　0 ：着信転送先 (0) メールアドレス
1 ：着信転送先 (1) メールアドレス
2 ：着信転送先 (2) メールアドレス
<パラメータ 2>　転送先アドレス (半角英数字、記号)
入力例：　AT$YM0=abc@def.ghi.co.jp
補足：　・転送先メールアドレスは最大 40 文字まで設定できます。
・；(セミコロン）は、メールアドレスとして使うことはできません。

$ Z

機能：　アナログポートの着信転送元のアドレスを登録します。
書式：　AT$Z <パラメータ 1><= パラメータ 2><／パラメータ 3>
パラメータ：　<パラメータ 1>　0 ：着信転送元 (0) アドレス
1 ：着信転送元 (1) アドレス
2 ：着信転送元 (2) アドレス
5 ：トーキあり / なしの設定
<パラメータ 2>　転送元アドレス (電話番号)
次はパラメータ 1 が 5 のときに使用
0 ：転送トーキなし、転送元トーキなし
1 ：転送トーキあり、転送元トーキなし
2 ：転送トーキなし、転送元トーキあり
3 ：転送トーキあり、転送元トーキあり（初期値）
<パラメータ 3>　転送元サブアドレス
入力例：　AT$Z0=9876543210
AT$Z5=0
補足：　・本コマンドとあわせて、＊Z コマンドで着信番号を設定してください。また、$Y、$YM コマンドで転送先を設定してください。
・転送元アドレスは最大 32 桁で 0 ～ 9 の数字が使用できます。
・転送元サブアドレスは最大 19 桁で 0 ～ 9 の数字が使用できます。
また、／以降が省略された場合は転送元サブアドレス指定なしとみなします。
／は／S コマンドで変更できます。
・転送トーキの設定は、「NTT 着信転送」に設定したときに利用できます。また、電話番号毎に設定することはできません。

%C

機能：　PIAFS によるデータ通信時、データ圧縮をおこなうか否かを設定します。
書式：　AT%C <パラメータ 1>
パラメータ：　<パラメータ 1>　0 ：圧縮無し
2 ：V.42bis データ圧縮あり（初期値）
?：本データ圧縮の設定内容を表示する
入力例：　AT%C0

S

機能： Ｓレジスタポインタを指定します。
書式： ATS<パラメータ 1>
パラメータ： <パラメータ 1>　0～26：Ｓレジスタ ☞ **6-32 ページ**
入力例： ATS0
補足： 初期値は 0 です。

?

機能： 現在のＳレジスタポインタの示すレジスタ内容を表示します。
書式： AT?
パラメータ： なし
入力例： AT?
補足： Ｓコマンドと続けることができます。
例）ATS0 + AT? → ATS0?

=

機能： 現在のＳレジスタポインタの示すレジスタ内容を変更します。
書式： AT=<パラメータ 1>
パラメータ： <パラメータ 1>　設定値 ☞ **6-32 ページ**
入力例： AT=
補足： Ｓコマンドと続けることができます。
例）ATS0 + AT=2 → ATS0=2

＋＋＋

機能： データ通信中につながっている回線を切らずにコマンドモードへ戻し、コマンドを入力することができます。
書式： +++
パラメータ： なし
入力例： +++

！H

機能： マイプライベート着信用アドレスの登録情報を表示します。
書式： AT!H
パラメータ： なし
入力例： AT!H
補足： 登録されていない場合、BUFFER EMPTY と表示します。

！SH

機能： 疑似識別着信（セキュリティ＋選択コールウェイティング）用アドレスの登録情報を表示します。
書式： AT!SH
パラメータ： なし
入力例： AT!SH

！ SZ

機能： 疑似識別着信（セキュリティ＋選択コールウェイティング）のアドレスを登録します。
書式： AT!SZ ＜パラメータ１＞＝＜パラメータ２＞＜ / パラメータ３＞
パラメータ： ＜パラメータ１＞０～29（最大30件登録できます）
＜パラメータ２＞相手電話番号
＜パラメータ３＞相手サブアドレス（最大19桁）
入力例： AT!SZ0 ＝ 1234567890/123
補足：
・ サブアドレスのみ登録されている場合はERRORと表示します。
・ 相手電話番号は最大32桁で０～９の数字が使用できます。

！ UC

機能： 迷惑電話防止用アドレスに登録されている電話番号を削除します。
書式： AT!UC ＝＜パラメータ１＞
パラメータ： ＜パラメータ1＞相手電話番号、P、C、O（P：ヒツウチ C：コウシュウデンワ O：ヒョウジケンガイ）
入力例： AT!UC ＝ 1234567890
補足：
・ 入力されたアドレスが全桁一致した場合にのみ登録は削除されます。
・ 一致しない場合は、ERRORと表示します。

！ UH

機能： 迷惑電話防止用アドレスの情報を表示します。
書式： AT!UH
パラメータ： なし
入力例： AT!UH
補足： 登録されていない場合はBUFFER EMPTYと表示します。

！ US

機能： 迷惑電話防止用アドレスを登録します。
書式： AT!US ＝＜パラメータ１＞
パラメータ： ＜パラメータ1＞相手電話番号、P、C、O（P：ヒツウチ C：コウシュウデンワ O：ヒョウジケンガイ）
入力例： AT!US ＝ 1234567890
補足：
・ 既に登録されているアドレスを再入力した場合はAlready existと表示され、データは更新されません。
・ 登録件数は最大20件までです。
・ 相手電話番号は最大15桁で０～９の数字が使用できます。

！ VH

機能： ボイスワープ設定電話番号の登録情報を表示します。
書式： AT!VH
パラメータ： なし
入力例： AT!VH
補足： 登録されていない場合はBUFFER EMPTYと表示します。

！ VZ

機能： ボイスワープ設定電話番号を登録します。
書式： AT!VZ ＜パラメータ１＞＝＜パラメータ２＞
パラメータ： ＜パラメータ１＞ボイスワープ番号。０～4, 9:
＜パラメータ２＞設定電話番号または契約番号（契約番号、全32桁まで）
入力例： AT!VZ0 ＝ 1420
補足： 設定電話番号は初期値のデータがあります。

！WH

機能： 疑似識別リンギング用アドレスの登録情報を表示します。
書式： AT!WH
パラメータ： なし
入力例： AT!WH
補足： 登録されていない場合は BUFFER EMPTY と表示します。

！WZ

機能： 疑似識別リンギング用アドレスの登録をします。
書式： AT!WZ ＜パラメータ 1 ＞＝＜パラメータ 2 ＞＜ / パラメータ 3 ＞
パラメータ： ＜パラメータ 1 ＞ 0 ～ 29（最大 30 件登録できます）
＜パラメータ 2 ＞相手電話番号
＜パラメータ 3 ＞相手サブアドレス（最大 19 桁）
入力例： AT!WZ0 ＝ 1234567890/123
補足：
・ サブアドレスのみ登録されている場合は ERROR と表示します。
・ 相手電話番号は最大 32 桁で 0 ～ 9 の数字が使用できます。

！X

機能： マイプライベート着信の設定をします。
書式： AT!X0 ＝ ＜パラメータ＞
パラメータ： ＜パラメータ 1 ＞ 0：使用しない（初期値）
1：使用する
入力例： AT!X0=1

！Z

機能： マイプライベート着信する相手電話番号と着信するポートの設定をします。
書式： AT!Z ＜パラメータ 1 ＞＝＜パラメータ 2 ＞＜ / パラメータ 3 ＞＜ ; パラメータ 4 ＞
パラメータ： ＜パラメータ 1 ＞ 0 ～ 29（最大 30 件まで登録できます）
＜パラメータ2＞相手電話番号､P､C､O (P：ヒツウチ C：コウシュウデンワ O：ヒョウジケンガイ)
＜パラメータ 3 ＞相手サブアドレス（最大 19 桁）
＜パラメータ 4 ＞ A、B：着信ポート番号
入力例： AT!Z0 ＝ 1234567890/123;A, B
補足：
・ サブアドレスおよび着信ポートのみ登録されている場合は ERROR と表示します。
・ 相手電話番号は最大 32 桁で 0 ～ 9 の数字が使用できます。

＊ PX1

機能： i・ナンバーを使用するかどうかを設定します。
書式： AT ＊ PX1=< パラメータ 1>
パラメータ： < パラメータ 1> 0 ：使用しない（初期値）
1 ：使用する
入力例： AT ＊ PX1=1

＊PC

機能： i・ナンバーの発信 i・ナンバー情報を設定します。
書式： AT＊PC<パラメータ 1><=パラメータ 2>
パラメータ： <パラメータ 1> A、B（アナログポート）
N（データポート）
<パラメータ 2> i・ナンバー情報
入力例： AT＊PCA=1
補足： 初期値は A=1、B=2、N=1

＊PR

機能： i・ナンバーの着信 i・ナンバー情報を設定します。
書式： AT＊PR<パラメータ 1><=パラメータ 2><,パラメータ 3>
パラメータ： <パラメータ 1> A、B（アナログポート）、N（データポート）
<パラメータ 2> i・ナンバー情報
<パラメータ 3> i・ナンバー情報
入力例： AT＊PRA=1,2
補足： 初期値は A=1、B=2、N=1

＊PN

機能： i・ナンバー情報の電話番号を設定します。
書式： AT＊PN<パラメータ 1><=パラメータ 2>
パラメータ： <パラメータ 1> i・ナンバー情報
<パラメータ 2> 電話番号
入力例： AT＊PN1=0312345678

＊P？

機能： i・ナンバーに関する設定内容を表示します。
書式： AT＊P？
入力例： AT＊P？

S レジスタ

レジスタ番号	内　容	範　囲	単位	意　味	初期値
0	自動応答	0	回	自動応答しない	1
		1 ～ 255		設定値の数だけ “ RING ” を送出後、自動応答する	
1	RING 送出 回数表示	0 ～ 255	回	“ RING ” を送出した回数を表示する	0
2	エスケープ 文字	0	ASCII	エスケープ文字なし	43 (+)
		1 ～ 127		設定した文字をエスケープキャラクタとする	
3	復帰文字	0 ～ 127	ASCII	設定した文字を復帰文字とする	13 (CR)
4	改行文字	0 ～ 127	ASCII	設定した文字を改行文字とする	10 (LF)
5	後退文字	0 ～ 32,127	ASCII	設定した文字を後退文字とする	8 (BS)
7	接続時間監視	1 ～ 50	秒	発信時、設定時間以内に応答がない場合は切断する	30
26	CS 遅延時間 (注 1)	0 ～ 100	(注 2)	RS 信号が OFF から ON になったとき、設定だけ CS 信号を遅延させて ON にする	0
その他	サポートしません				

・CS遅延時間はフロー制御なしに設定したときのみに有効です。
・CS 遅延時間 S26 に設定した値と CS 遅延時間の関係を示します。
「AUTO」は、設定した速度の 24 ビット分、他の設定値「10 ミリ秒」～「100 ミリ秒」は設定した速度の 24 ビット分にその設定値を足した時間になります。

S26 値	CS 遅延時間
0	AUTO (0 ミリ秒)
10	10 ミリ秒
20	20 ミリ秒
30	30 ミリ秒
40	40 ミリ秒
50	50 ミリ秒
80	80 ミリ秒
100	100 ミリ秒

リザルトコード

リザルトコード一覧

数　字	英　　語	内　　容
0	OK	コマンド正常終了
1	CONNECT	相手端末との接続完了
2	RING	着信通知
3	NO CARRIER	回線切断
4	ERROR	不正コマンド
5	CONNECT1200	1200bps で接続完了
7	BUSY	相手通信中
10	CONNECT2400	2400bps で接続完了
11	CONNECT4800	4800bps で接続完了
12	CONNECT9600	9600bps で接続完了
13	CONNECT14400	14400bps で接続完了
14	CONNECT19200	19200bps で接続完了
18	CONNECT57600	57600bps で接続完了
19	CONNECT64000	64000bps で接続完了
21	CONNECT32000	32000bps で接続完了
26	CONNECT28800	28800bps で接続完了
28	CONNECT38400	38400bps で接続完了
67	COMPRESSION：V.42bis	V.42bis 圧縮モードで接続完了
69	COMPRESSION：NONE	V.42bis 圧縮モードなしで接続完了
82	PROTOCOL：PIAFS	プロトコル PIAFS で接続完了

リザルトコードの説明

BUSY

機能：　相手話中のため接続に失敗したときに送出します。
書式：　BUSY
出力例：　BUSY

OK

機能：　コマンド正常終了
次の条件の時に送出します。
(1) コマンドが正常であったとき（A, D, O コマンド実行時はなし）
(2) エスケープコマンド入力後オンラインコマンドモードに入るとき
(3) オンラインコマンドモード時にＡＴＨコマンドが入力され通信が切断されたとき
書式：　OK
出力例：　OK

CONNECT

機能： 相手と通信状態になったときに送出します。

書式： CONNECT< パラメータ 1>

パラメータ： < パラメータ 1> なし ：相手と通信状態になりました。(ベーシックリザルトコードセットのみ)

1200	：	回線速度が 1200bps で接続完了しました。
2400	：	回線速度が 2400bps で接続完了しました。
4800	：	回線速度が 4800bps で接続完了しました。
9600	：	回線速度が 9600bps で接続完了しました。
14400	：	回線速度が 14400bps で接続完了しました。
19200	：	回線速度が 19200bps で接続完了しました。
28800	：	回線速度が 28800bps で接続完了しました。
32000	：	回線速度が 32000bps で接続完了しました。
38400	：	回線速度が 38400bps で接続完了しました。
57600	：	回線速度が 57600bps で接続完了しました。
64000	：	回線速度が 64000bps で接続完了しました。

出力例： CONNECT 38400

RING

機能： 着信があった場合、応答するまで 2 秒間隔で通知します。

書式： RING< パラメータ 1>< ／パラメータ 2><［パラメータ 3>

パラメータ： < パラメータ 1> 発信側のアドレス
< パラメータ 2> 発信側のサブアドレス
< パラメータ 3> ユーザ・ユーザデータ

出力例： RING

補足： 発信側のアドレス以降を付加させるにはWコマンドで指定します。

NO CARRIER

機能： 通信相手との接続に失敗したときに送出します。
また、通信中なんらかの原因で切断した場合も送出します。

書式： NO CARRIER

パラメータ： なし

出力例： NO CARRIER

ERROR

機能： 次の条件の時に送出します。
(1) 不正なコマンドが入力されたとき
(2) コマンド入力が最大文字数を超えたとき
(3) Dコマンドで短縮番号を指定して発信しようとしたときに、短縮番号にアドレスが登録されていなかったとき
(4) パソコンの ER 信号がオフのときに発信したとき
(5) アナログポートを使用しているときに $A, $B, $D コマンドで設定しようとしたとき

書式： ERROR

出力例： ERROR

COMPRESSION：NONE

機能：　PIAFS 通信の圧縮なしで接続したときに送出します。
書式：　COMPRESSION：NONE
出力例：　CONNECT 32000 PROTOCOL：PIAFS COMPRESSION：NONE
補足：　PIAFS 通信で接続したときのみ表示します。

PROTOCOL：PIAFS

機能：　PIAFS 通信で接続したときに送出します。
書式：　PROTOCOL：PIAFS
出力例：　CONNECT 32000 PROTOCOL：PIAFS COMPRESSION：NONE
補足：　PIAFS 通信で接続したときのみ表示します。

COMPRESSION：V.42bis

機能：　PIAFS 通信の V.42bis データ圧縮で接続したときに送出します。
書式：　COMPRESSION：V.42bis
出力例：　CONNECT 32000 PROTOCOL：PIAFS COMPRESSION：V.42bis
補足：　PIAFS 通信で接続したときのみ表示します。

6-4. 切断理由表示・診断情報表示・生成源表示一覧

切断理由表示一覧

	AT#Cコマンド表示 らくらく表示	理　由　種　別
正常クラス	001	欠番
	002	中継網ルートなし
	003	相手ルートなし
	006	チャネル不許可
	007	設定済みのチャネルへ着呼
	016	正常切断
	017	着ユーザビジー
	018	着ユーザ応答なし
	019	相手ユーザ呼び出し中、応答なし
	020	加入者不在
	021	相手ユーザ通信拒否
	022	相手端末番号変更
	026	選択されなかったユーザの切断復旧
	027	相手端末故障中
	028	無効番号フォーマット（不完全番号）
	029	ファシリティ拒否
	030	状態問い合わせ応答
	031	その他
リソース使用不可クラス	034	利用可回線／チャネルなし
	038	網故障
	041	一時的故障
	042	交換機輻輳
	043	アクセス情報破棄
	044	要求チャネル利用不可
	047	その他
サービス提供不可クラス	049	QOS利用不可
	050	要求されたファシリティ不可
	057	伝達能力不許可
	058	現在利用不可伝達能力
	063	その他
サービス未提供クラス	065	未提供伝達能力指定
	066	未提供チャネル種別指定
	069	未提供ファシリティ要求
	070	制限デジタル情報能力のみ可能
	079	その他
無効メッセージクラス	081	無効呼番号使用
	082	無効チャネル番号使用
	083	指定された中断呼識別番号未使用
	085	中断呼なし
	086	指定された中断呼は既に切断復旧済み
	087	ユーザはCUGのメンバーではない
	088	端末属性不一致

	AT#Cコマンド表示 らくらく表示	理　由　種　別
無効メッセージクラス	091	無効中継網選択
	095	その他
手順誤りクラス	096	必須情報要素不足
	097	メッセージ種別未定義
	098	呼状態とメッセージ不一致、またはメッセージ種別未定義
	099	情報要素なし、または未定義
	100	無効情報要素内容
	101	呼状態とメッセージ不一致
	102	タイマ満了の回復
	111	その他
インタワーキング	127	その他

診断情報表示一覧

AT¥L1コマンド表示 らくらく表示	診 断 情 報
000	本ポートは正常に着信を受け付けました。
201	本ポートは使用中のため着信を受け付けませんでした。
211	本ポートの着信番号設定とINSネット64からの宛先番号が一致していないため着信を受け付けませんでした。着信番号設定を確認してください。
212	本ポートのグローバル着信設定が「着信しない」に設定されているため、グローバル着信を受け付けませんでした。グローバル着信設定を確認してください。
213	本ポートの自己サブアドレス設定とINSネット64からの宛先サブアドレスが一致していないため着信を受け付けませんでした。自己サブアドレス設定を確認してください。
214	本ポートのサブアドレスなし着信設定が「着信しない」に設定されているため、サブアドレスなし着信を受け付けませんでした。サブアドレスなし着信設定を確認してください。
215	本ポートの識別着信設定が「着信する」になっており、識別番号設定に相手からの発信番号と一致するものがなかったため着信を受け付けませんでした。識別着信設定、および識別番号設定を確認してください。
221	着信があったポートのHLC設定がINSネット64からの着信通知のなかのHLCと一致しませんでした。HLCの設定を確認してください。
231	パケット端末からの着信がきましたが、着信を拒否しました。
301	スティルスコールバック要求の着信がきましたが、着信を受けることができませんでした。スティルスコールバックが「使用する」になっているか設定を確認してください。
302	スティルスコールバック要求に対してサーバ側がかけ直しているときに、別の着信がありましたが、その着信を拒否しました。
311	INSネット64からの着信通知のなかの伝達能力情報転送速度が64kbps以外の着信でした。
312	INSネット64からの着信通知のなかの伝達能力ユーザ情報レイヤ1プロトコルが違っていました。
313	INSネット64からの着信通知のなかの伝達能力ユーザ速度が56kbpsでしたので着信を拒否しました。

AT￥L1コマンド表示 らくらく表示	診 断 情 報
321	INSネット64からの着信通知のなかにLLC速度情報が含まれていなかったため、着信を拒否しました。
322	INSネット64からの着信通知のなかのLLCユーザ速度が本TAの受けられない速度でした。通信相手機器を確認してください。
323	INSネット64からの着信通知のなかのLLCユーザ速度が本TAの速度設定と不一致でした。「着信速度チェックしない」に設定し、通信速度が異なるパソコン同士でも通信できるようにしてください。
324	INSネット64からの着信通知のなかのLLC同期／非同期が同期であるが、速度が64kbit/s以外の着信のため拒否しました。
325	INSネット64からの着信通知のなかのLLC中間速度が本TAの受けられない速度のため拒否しました。
326	INSネット64からの着信通知のなかのLLCフロー制御が本TAの設定と不一致でした。本TAのフロー制御方式設定をしてください。
327	INSネット64からの着信通知のなかのLLCストップビット長、データビット長、パリティ情報が本TAの設定と不一致でした。通信相手と設定を合わせてください。
331	G4ファクシミリからの着信でした。相手側の装置を確認してください。
341	データポート通信中、またはアナログポート通信中で2チャネル使用中のため着信が受け付けられませんでした。
361	応答平均化機能が「使用する」に設定されており、着信できる順番でないため、着信を無視しました。
371	電子メール着信通知またはUUIメール通知がありました。
401	停電時のアナログ着信設定は「着信しない」になっているため、着信を受け付けませんでした。停電時着信設定を確認してください。
402	停電中のためアナログBポートへの着信は受け付けませんでした。
411	アナログポートの設定が「使用しない」になっているため着信を受け付けませんでした。アナログポート設定を確認してください。
421	内線通話中にチャネルなしの着信を受けました。チャネルなしの着信はコールウェイティング中のアナログポートに対してのみ受け付けます。
422	使用していないアナログポートにチャネルなしの着信を受けました。チャネルなしの着信はコールウェイティング中のアナログポートに対してのみ受け付けます。
423	疑似コールウェイティング設定ポートにチャネルなしの着信を受けました。チャネルなしの着信はコールウェイティング中のアナログポートに対してのみ受け付けます。
424	コールウェイティングなしの設定ポートにチャネルなしの着信を受けました。チャネルなしの着信はコールウェイティング中のアナログポートに対してのみ受け付けます。
431	優先着信ポートの設定がされているため、優先着信ポートが着信を受けました。そのため、優先着信ポートでないアナログポートには着信しませんでした。
999	その他の理由

生成源表示一覧

AT¥L1コマンド表示 らくらく表示	場　所
00	ユーザ自身
01	ユーザが直接接続する私設網
02	ユーザが直接接続する国内網
03	中継網
04	相手ユーザが直接接続する国内網
05	相手ユーザが直接接続する私設網
07	国際網
10	インタワーキング先の網

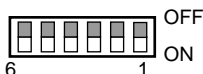
6-5. ディップスイッチについて

電池カバーを開けて電池をはずすとディップスイッチ(DSW)が見えます。下図網かけ はお買い上げ時（工場出荷時）のスイッチの位置です。次の場合は、設定を変更してください。

(1)　OCN エコノミーを利用するとき

(2)　工場出荷状態へ戻すとき

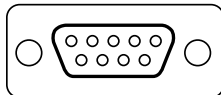
そのほかの場合は、工場出荷時の位置のままでお使いください。

電源を入れたままでディップスイッチの1から6を変更したときは、電源をいったん切って再び入れることにより設定が有効になります。

※ 網がけは工場出荷状態です

6	5	4	3	2	1	内　　容
OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	INSネット64接続
ON	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OCNエコノミー
ON	ON	OFF	OFF	OFF	OFF	自己診断
OFF	OFF	OFF	ON	ON	ON	工場出荷状態に戻す
OFF	ON	ON	ON	ON	ON	強制ダウンローダモード

6-6. D-SUB 9ピン インタフェース

コネクタ形状

9ピンコネクタ（メス型）

パソコンインタフェースの信号線

ピン番号		信号方向 パソコン Aterm	名　称	機　能
シェル	(FG)		保安用接地	装置のフレームアースです
1	CD	←	キャリア検出	Atermが、パソコンにデータ受信を要求していることを示します ON　：パソコンにデータ受信を要求します OFF ：パソコンにデータ受信を要求しません
2	RD	←	受信データ	Atermからパソコンへ送られるデータです
3	SD	→	送信データ	パソコンからAtermへ送られるデータです
4	ER	→	データ端末レディ	パソコンの動作準備ができているかどうかを示します ON　：パソコンが、データの授受の準備ができていることを示します OFF ：パソコンが、データの授受の準備ができていないことを示します
5	SG		信号用接地	相互接続回路に基準電位をあたえます
6	DR	←	データセットレディ	Atermが動作準備ができているかどうかを示します ON　：パソコンとデータの授受をおこなう準備ができていることを示します OFF ：パソコンとデータの授受をおこなう準備ができていないことを示します
7	RS	→	送信要求	データ送信許可を要求します ON　：データ送信許可を要求します OFF ：データ送信許可を要求しません
8	CS	←	送信可	データ送信可能かどうかを示します ON　：データ送信が可能です OFF ：データ送信してはいけません
9	CI	←	被呼表示	パソコンに着信していることを示します ON　：着信があることを示します OFF ：着信がないことを示します

6-7. 仕様

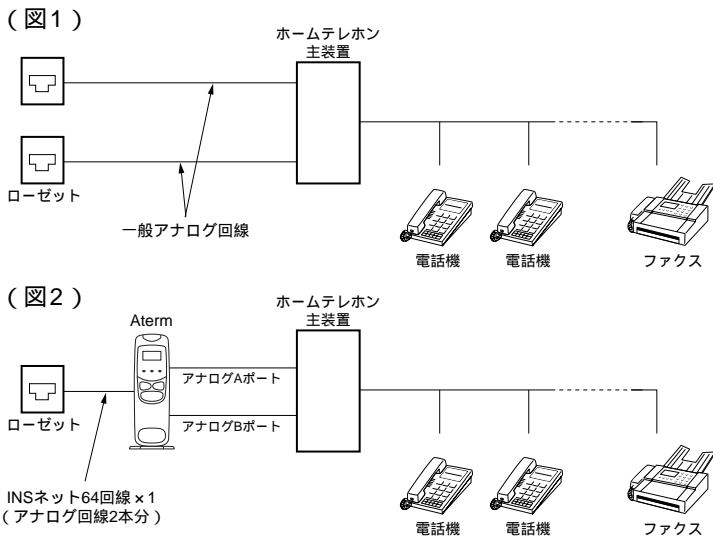
仕様一覧

項　目			諸　元	備　考
接続回線			INSネット64 OCNエコノミー回線	
交換形態			データポート：回線交換、専用線 アナログポート：回線交換	
使用チャネル			Bチャネル	
インタフェース形態および レイヤ1起動種別			P-MP常時またはP-MP呼毎契約	INSネット64接続 の場合
回線 インタ フェース	コネクタ形状		6ピンモジュラジャック (RJ-11)	DSU内蔵
	伝送方式		2線、時分割伝送方式	
	伝送路速度		320kbit/s	
	伝送路符号		AMI符号	
	DSU折り返し機能		あり	
パソコン インタ フェース	呼接続機能		ATコマンド	
	RS-232C	機械的条件	D-Sub 9ピン コネクタ	
		電気的条件	V.28	
		回路定義	V.24	
		通信速度 (kbps)	非同期：1.2, 2.4, 4.8, 9.6, 14.4, 19.2, (28.8, 38.4, 57.6) 同期/非同期：64 128kマルチリンクPPP：128 PIAFS：32, 64	・( )はV.110規格外 ・同期は同期PPP変換 ・128KはMPのみ
		パソコン速度 (kbps)	非同期：1.2, 2.4, 4.8, 9.6, 14.4, 19.2, 28.8, 38.4, 57.6, 115.2, 230.4 同期　：2.4, 4.8, 9.6, 14.4, 19.2, 48, 56, 64	・28.8, 38.4, 57.6, 48, 56, 64, 115.2, 230.4はV.28規格外
	速度整合方式		ITU-T V.110方式	
（続く）	サービス機能		発信者番号、着信番号 自己サブアドレス 短縮ダイヤル　最大10箇所 (注1) 識別着信　最大30箇所 (注1) 発信者番号通知	(注1) データポート とアナログポート で共用しています。

項　目		諸　元	備　考
（続き） パソコンインタフェース	サービス機能	非同期／同期PPP変換 128kbpsマルチリンクPPP通信 BOD機能 スティルスコールバック 応答平均化 ユーザ間情報通知 無通信監視タイマ 強制切断タイマ 電子メール着信通知 遊遊メール UUIメール 回線状態・通信料金表示 PIAFS対応 OCNエコノミー対応 CTI機能	
アナログ装置インタフェース	コネクタ形状	6ピンモジュラジャック (RJ-11)	
	基本機能	ポート数：2ポート 受信ダイヤル：PBのみ ブランチ接続：可（注1） 供給電圧：約-48V (無負荷時)	(注1) ・ナンバーディスプレイ対応機器のブランチ接続は不可。 ・1つのポートに3台まで接続可。 （合計容量：3μF/2kΩ以下）
（続く）	アナログポートサービス機能	アナログポート使用可／不可選択 端末機種選択： 電話 (音声) G3FAX (3.1kHzオーディオ) 発信者番号、着信番号 自己サブアドレス 発信者番号通知 内線通話・内線転送 優先着信ポート 疑似識別着信　最大30箇所 (注1) 短縮ダイヤル　最大10箇所 (注1) ダイヤル桁間タイマ 疑似コールウェイティング 疑似三者通話 疑似着信転送 お出かけ設定 フレックスホン対応 INSボイスワープ対応 INSなりわけサービス グローバル着信選択 アナログ・ダイヤルイン モデム・ダイヤルイン INSナンバー・ディスプレイ対応 着信履歴表示／着信履歴先発信	(注1) データポートとアナログポートで共用しています。

項　目		諸　元	備　考
（続き） アナログ装置 インタフェース	アナログポート サービス機能	迷惑電話防止　最大20箇所 疑似なりわけ　最大30箇所 ﾏｲﾌﾟﾗｲﾍﾞｰﾄ着信　最大30箇所 選択コールウェイティング 識別着信転送 フッキング検出タイマ リバースパルス送出 テレホンUUIメール テレホン遊遊メール	
停電モード	アルカリ乾電池	待ち受け時間　約8時間 通話　約4時間	
診断機能		自己診断試験	
ヒューマン インタフェース		バックライト液晶ディスプレイ 状態表示LED×3 でかけるボタン ファンクションボタン ディップスイッチ INS回線リバーススイッチ	
電源		AC100±10V、50/60Hz	
使用条件	温度 湿度	0～40°C 10～90%RH	結露しないこと
外形寸法 (W×D×H)		約57mm×182mm×142mm	突起部分を除く
重量		約0.81kg	縦置スタンド付
消費電力		約5.5W (最大)	

6-8. ホームテレホン / ビジネスホンとの接続

Aterm はホームテレホンやビジネスホン(ボタン電話機)にも接続することができます。図 1 の構成では、一般アナログ回線を 2 本使用していますが、1 本の INS ネット 64 回線で、アナログ回線 2 本分を収容することができます。
Aterm を使った構成例は、図 2 のようになります。

必要な設定

- 使用していないアナログポートを「使用しない」にします。
- 優先着信させるポートを指定します。
- 使用中の機器をダイヤルインで使用している場合は、モデム・ダイヤルインまたはアナログ・ダイヤルインの設定をします。 ☞ **2-38, 2-39 ページ**
  モデム・ダイヤルインまたは、アナログ・ダイヤルインを設定するとホームテレホンの内線まで呼び分けることができます。

補足説明

- 優先着信ポートを設定しないと、1 つの着信があったときにホームテレホン / ビジネスホンで 2 本分の着信ランプが点滅してしまいます。
- 停電モードに設定している場合、停電時はアナログ A ポートのみ動作します。また、Aterm に入れた電池が切れた場合アナログポートは使用できなくなります。

6-9. 別売オプション

オプションとして次の商品を別売しています。

● S 点ユニット(PC-IT/U03)
ISDN 機器を増設したいときに必要です。

● S バス延長ケーブル(10m) (PC-IT/K11)
S バス延長ケーブル(25m) (PC-IT/K12)
S点ユニットを取り付け、他のISDN機器と接続するときに使用する延長ケーブルです。

● 落雷プロテクタ（PC-IT/SP01)
INS 回線のモジュラジャックと Aterm の間に接続し、雷から本機を保護します。

6-10. S 点ユニットについて

Atermは別売りの「S点ユニット」をお買い求めいただくことによりISDN機器の増設ができます。

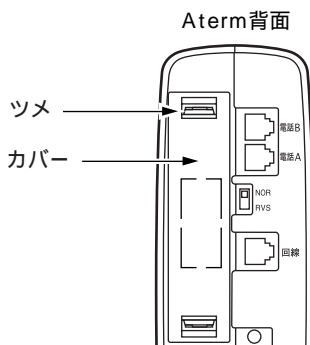
S 点ユニットについて

Aterm には別売りの「S 点ユニット」を取り付けるための S 点ユニットスロットが内蔵されています。
S 点ユニット使用の際は、S 点ユニットカバーを取り外してお使いください。
「S 点ユニット」の取り付けかた、使用方法についてはそれぞれに添付の『取扱説明書』をご覧ください。

● **S 点ユニット（PC-IT/U03）**

S 点ユニットカバーの取り外しかた

S 点ユニットカバーのツメを押し下げながらカバーを取り外します。

Aterm背面

- **S点ユニットカバーを取り外した際に、異物をスロット内部に入れないでください。故障の原因になります。**
- **はんだ面にふれないようにしてください。けがをするおそれがあります。**

6-11. 索引

◆M◆

◆O◆

◆P◆

◆S◆

◆U◆

◆ア～オ◆

◆カ～コ◆

◆サ～ソ◆

◆タ～ト◆

◆ナ～ノ◆

◆ハ～ホ◆

◆マ～モ◆

◆ヤ～ヨ◆

◆ラ～ロ◆

6-12. 設定記入シート

保守上で必要となる貴重なものです。設置時に記入の上、大切に保管してください。

＊は初期値です

商品名（LOT No.）　　　　　　（　　　　　　　　）

ディップスイッチの内容　　OFF／ON　6　1

設定の確認

回線　＊□INSネット64　□OCNエコノミー

i・ナンバー　＊□使用しない　□使用する

契約者回線のグローバル着信　□使用しない　＊□使用する

着信番号と通知番号

	番号	着信するポート A	B	データ	発信者番号通知での通知番号 A	B	データ
契約者回線番号		□	□	□	○	○	○
ダイヤルイン1番		□	□	□	○	○	○
ダイヤルイン2番		□	□	□	○	○	○
ダイヤルイン3番		□	□	□	○	○	○
ダイヤルイン4番		□	□	□	○	○	○
ダイヤルイン5番		□	□	□	○	○	○
ダイヤルイン6番		□	□	□	○	○	○
ダイヤルイン7番		□	□	□	○	○	○

（各ポート複数選択可）　（各ポート択一）

i・ナンバー

	電話番号	内線指定番号	着信するポート A	B	データ	発信するポート A	B	データ
i・ナンバー情報1			□	□	□	○	○	○
i・ナンバー情報2			□	□	□	○	○	○

アナログAポート　[1]

発信者番号通知 [09]　□行わない　□行う　＊□INSネット64の申込通り
接続機器 [01]　＊□電話　□FAX／モデム　□接続しない（使用しない）
コールウェイティング [02]　＊□使用しない　□NTTコールウェイティング　□疑似コールウェイティング
受話音量 [12]　□小　＊□中　□大
情報通知サービス [10]　＊□使用しない　□ナンバー・ディスプレイを使用する
□モデム・ダイヤルインを使用する　□アナログ・ダイヤルインを使用する
□ ナンバー・ディスプレイ＋モデム・ダイヤルインを使用する
停電時の着信 [22]　＊□着信する　□着信しない
停電時のリンガ [22]　＊□リンガが鳴る　□ブザーが鳴る
自己サブアドレス [93]　＿＿＿＿＿＿＿＿
サブアドレスなし着信 [06]　＊□着信する　□着信しない
ナンバー・ディスプレイ、モデム・ダイヤルイン時のサブアドレスの通知 [10]　□通知する　＊□通知しない
ダイヤル桁間タイマ [07]　＊□5秒　□9秒　□11秒　□13秒
フッキング検出タイマ [08]　□短い　＊□普通　□長い
HLC（高位レイヤ整合性） [04]　＊□HLCを設定しない　□HLCを設定し、着信判定する　□HLCを設定するが着信判定しない
識別着信 [03]　＊□使用しない　□INSなりわけ識別着信　□疑似識別着信
□通信中着信時のみ使用可能
識別リンギング [15]　＊□使用しない　□INSなりわけ　□疑似なりわけ
リバースパルス [13]　＊□送出しない　□送出する

CTI機能 [16]　＊□使用しない　□使用する
マイプライベート着信 [72]　＊□使用しない　□使用する

番号の送出方法

	電話番号をそのまま送出 ※1	内線指定番号に変換して送出 ※2	内線指定番号（最大4桁）
契約者回線番号	□	□	
ﾀﾞｲﾔﾙｲﾝ1番	□	□	
ﾀﾞｲﾔﾙｲﾝ2番	□	□	
ﾀﾞｲﾔﾙｲﾝ3番	□	□	
ﾀﾞｲﾔﾙｲﾝ4番	□	□	
ﾀﾞｲﾔﾙｲﾝ5番	□	□	
ﾀﾞｲﾔﾙｲﾝ6番	□	□	
ﾀﾞｲﾔﾙｲﾝ7番	□	□	

※1 モデム・ダイヤルインで使用　※2 アナログ・ダイヤルインで使用

アナログBポート [2]

発信者番号通知 [09]　□行わない　□行う　＊□INSネット64の申込通り
接続機器 [01]　＊□電話　□FAX／モデム　□接続しない（使用しない）
コールウェイティング [02]　＊□使用しない　□NTTコールウェイティング　□疑似コールウェイティング
受話音量 [12]　□小　＊□中　□大
情報通知サービス [10]　＊□使用しない　□ナンバー・ディスプレイを使用する
□モデム・ダイヤルインを使用する　□アナログ・ダイヤルインを使用する
□ナンバー・ディスプレイ＋モデム・ダイヤルインを使用する
自己サブアドレス [93]
サブアドレスなし着信 [06]　＊□着信する　□着信しない
ナンバー・ディスプレイ、
モデム・ダイヤルイン時の
サブアドレスの通知 [10]　□通知する ＊□通知しない
ダイヤル桁間タイマ [07]　＊□5秒　□9秒　□11秒　□13秒
フッキング検出タイマ [08]　□短い　＊□普通　□長い
HLC（高位レイヤ整合性） [04]　＊□HLCを設定しない　□HLCを設定し、着信判定する　□HLCを設定するが着信判定しない
識別着信 [03]　＊□使用しない　□INSなりわけ識別着信　□疑似識別着信
□通信中着信時のみ使用可能
識別リンギング [15]　＊□使用しない　□INSなりわけ　□疑似なりわけ
リバースパルス [13]　＊□送出しない　□送出する
CTI機能 [16]　＊□使用しない　□使用する
マイプライベート着信 [72]　＊□使用しない　□使用する

番号の送出方法

	電話番号をそのまま送出	内線指定番号に変換して送出	内線指定番号（最大4桁）
契約者回線番号	□	□	
ﾀﾞｲﾔﾙｲﾝ1番	□	□	
ﾀﾞｲﾔﾙｲﾝ2番	□	□	
ﾀﾞｲﾔﾙｲﾝ3番	□	□	
ﾀﾞｲﾔﾙｲﾝ4番	□	□	
ﾀﾞｲﾔﾙｲﾝ5番	□	□	
ﾀﾞｲﾔﾙｲﾝ6番	□	□	
ﾀﾞｲﾔﾙｲﾝ7番	□	□	

アナログポート共通登録 [4] [5]

お出かけ設定 [73]　＊□おやすみモード　□電話着信転送モード
□ボイスワープ転送モード　□フラッシュモード

着信転送設定 [27]

転送モード [27]　□NTT着信転送　＊□疑似着信転送　□電話番号着信転送

転送条件 [28]　＊□使用しない　□INSなりわけ時に転送する　□疑似識別着信時に転送する

NTT着信転送時の
トーキサービス [27]　□なし　□転送トーキのみあり　□転送元トーキのみあり　＊□両トーキともにあり

ボイスワープ設定 [74]

転送開始モード [74]　＊□無条件に転送　□無応答時に転送　□話中時に転送　□無応答／話中時に転送

優先着信ポート [23]　＊□指定しない　□Aポート　□Bポート

通信中転送 [26]　＊□使用しない　□使用する

三者通話 [25]　＊□使用しない　□三者通話　□疑似三者通話

内線通話・内線転送 [24]　□しない　＊□する

LCDモード　□常に消灯　□常に点灯　＊□自動
□自動＋データ通信中は常に点灯　□自動＋Bチャンネル使用中は常に点灯

LCD表示　□表示しない　＊□表示する

ダイヤル終了識別 [75]　□使用しない　＊□#で発信する　□##で発信する

着信転送先

着信転送元(1)　の転送先(1)　[40] [30]

着信転送元(2)　の転送先(2)　[41] [31]

着信転送元(3)　の転送先(3)　[42] [32]

データポート

発信者番号通知　＊□INSネット64申込内容に従う　□通知する　□通知しない

自己サブアドレス　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

サブアドレスなし着信　＊□着信する　□着信しない

識別着信　□識別着信する　＊□識別着信しない

高位レイヤ整合性(HLC)　＊□設定しない　□設定する

MP2本目の認証　□しない　＊□する

ACCMの付加　□しない　＊□する

リソースBOD　□する　＊□しない

スループットBOD　□する　＊□しない

スループットBODパラメータ　リンク追加算出時間 □ 秒
リンク削除算出時間 □ 秒
リンク追加しきい値 □ %
リンク削除しきい値 □ %

無通信監視タイマ　□監視しない　＊□監視する [10] 分

強制切断タイマ　□切断しない　＊□切断する [10] 時間

ER信号　＊□パソコンのERを見る　□常時ER-ONとみなす　□通信中のみパソコンのERを見る

CD信号　□ER-ON時には常にCD-ON　＊□通信中は常にCD-ON

DR信号　＊□ER-ON時には常にDR-ON　□通信中は常にDR-ON

USB　＊□UHCI　□OHCI

UUIメール着信時の
ランプの点滅　□点滅させない　＊□点滅させる

◆ ご注意

（1） 本書の内容の一部または全部を無断転載、無断複写することは禁止されています。
（2） 本書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。
（3） 本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきの点がありましたらご連絡ください。
（4） 本装置の故障、誤動作、不具合、あるいは停電等の外部要因によって、通信などの機会を逸したために生じた損害等の純粋経済損失につきましては、当社はいっさいその責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
（5） Aterm には初の停電機能を持たせるなど、災害時に於いてのライフラインと直結した通信手段の確保を意図した設計がされていますが、せっかくの機能も不適切な扱いや不測の事態（例えば落雷や漏電など）により故障してしまっては能力を発揮できません。添付の各マニュアルをよくお読みになり記載されている注意事項を必ずお守りください。

C&C for Human Potential

この取扱説明書は、エコマーク認定の再生紙を使用しています。

日本電気株式会社

ND-22261(J)
第3版
8/99